

賜暇 シカ 休暇を許さるゝこと。

賜田 シラ 古功田と同じく官職・位階にかかはらず天皇より特旨を以て賜ひし田。

【贊】 サシ。たすけ。したがふ。おこす。みちびく。賛美 サシ。ほむること。賛賞する。賛稱 サシ。ほめたふること。賛成 サシ。其事に同意してたすけなすこと。同意すること。

賛賞 サシ。ほむること。賛賞。賛者 サシ。賛成する人。手だすけをする人。「批評すること。」

賛評 サシ。ほめたる評。ほめて賛同 サシ。したがひて共同すること。加はり助くること。

賛加 サシ。したがひ加はること。参加。加はりて助くること。

賛助 サシ。かたはらより助け成り立させしむること。②事業を―す。

賛導 サシ。たすけみちびくこと。賛助員 サシ。或事業に對し

て賛成を與ふる人。

【賜】 シウ。シユ。たす。にぎはす。なまむ。あまねし。とる。めぐむ。たまふ。

シツ。チ。シ。シチ。もと。れもと。なりたち。もちまへ。まこ。すなほ。ちかひ。てがた。めあて。さだむ。たひらぐ。ただす。ことふ。くちいれ。にへ。

【質】 約束の保證にあづけおくもの。(法)質權の目的物。借金の擔保として質屋にあづけおくもの。

質實 シラ。信實にしてかさりなきこと。まじめなること。

質疑 シラ。意味のうたがひある個所を問ひたすこと。

質點 シラ。(理)極めて小さく考へて空間に於ける一點と見做す物體。

質性 シラ。うまれつき。性質。

質素 シラ。かさりのなきこと。儉約にして奢らぬこと。「にすること。」

質明 シラ。疑ひをただして明かすこと。疑ひを問ひたすこと。理由を問ひたすこと。

質言 シラ。言質。まこと。言葉としてあとあとまでとりおく言葉。①―を取る。「實なること。」

質信 シラ。まことをつくること。信實。②―金を借る抵當として物品を質屋に預くること。

質屋 シラ。質物を預りて金を貸すことを業とする家。「だ。質券 質物をつかた。しちふ質權 シラ。(法)債權の執行を確實ならしむる爲め債權者が債務者又は第三者より受取りたるものを占有し且其物につき他の債權者に先ちて自己の債權の辨濟を受くる權利。

質朴 シラ。信實にして飾りのなきこと。かさりなくりちぎなること。

質量 シラ。カ (理)物體の有する實質の量。

質料 シラ。物事の内容なる實質質權者 シラ。シヤ (法)物又は權利に對して質權を有するもの。

質權設定者 シラ。シヤ (法)自己又は他人の債務の擔保に自己所有の或物を質權者に提供したるもの。

【賠】 パイ。べ。つぐなふ。賠償の義の俗字。

賠償 パイ。自己の責任に歸すべき行為により人又は物に損害を及ぼしたるとき之をつぐなふこと。つぐなひ。②損害の―。

賠償義務 パイ。シヤ。賠償に任ずべき義務。

九 畫

【賈】 キ。貴の本字。

【賙】 ボウ。マウ。フウ。おくる。おくりもの。賙贈 ボウ。死者の家におくりものすること。

【賴】 ライ。たのむ。あまり。かふむる。さいはひ。より。たのもしげ。もとむる。よし。たよる。

賴信 ライ。通信をたのむこと。賴信紙 ライ。電報を發すること。き電文を書きて差出す依頼紙。

賴母子講 タノモシカ。數人相結びてある期限の間毎月若干のかけ金をなしその度毎に抽籤を行ひ當籤の者には一箇月に出だすべき金額より多き豫定の金を配付すること。無盡講。

ト。ツ。ト。ツ。ト。ツ。

【賭】 賭博 トク。ばくち。勝負こと。かけこと。博奕。「ふこと。賭射 トヤ。ものをかけて射を爭

賭博 トク。ばくち。勝負こと。かけこと。博奕。「ふこと。賭射 トヤ。ものをかけて射を爭

賽河原 サイカハラ。(佛)冥土にて小兒の亡者の遊び居るといふ所。

賽錢函 サイゼンゴ。社寺などに賽錢を受くるに設けたる函。コウ。ク。あがなふ。もとむ。さいなひ。つもの。つ

【賽】 サイ。むくひ。まつる。おれい。まわり。かちをほこりあふ。

賽客 サイキヤク。神佛に參詣する人。

賽日 サイジツ。ふんにち。

賽錢 サイゼン。神佛に參詣する時ささげる錢。香錢。

賽目 サイメ。さいの六面にしろしめてある目ぼし。正しき正六方體

賽河原 サイカハラ。(佛)冥土にて小兒の亡者の遊び居るといふ所。

賽錢函 サイゼンゴ。社寺などに賽錢を受くるに設けたる函。コウ。ク。あがなふ。もとむ。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

【購】 む。さいなひ。つもの。つ

購得 コトク あがなひ得る事。

購入 コトク 買ひ入る事。

購捕 コトク 懸賞して捕ふる事。

購買 コトク 買ひとる事。

購讀 コトク 新聞雑誌・書籍などを買ひ入れて讀む事。

購求 コトク 買ひこむ事。あがなひ入る事。

購買力 コトク 物を購求し得る力。

購讀者 コトク 購讀をなすもの。

購買組合 コトク 産業組合の一種。産業又は生計に必要な材料物品を購買して之を組合員に分配する爲に設立したる組合。

購合 コトク おくろる。

賺 コトク おくろりもの。たすく。

賺 コトク タン。レン。すかるる。すかす。あやまる。うる。

賣 コトク セイ。サイ。齋に同じ。もたらす。もつ。つく。なは

贅 ゼイ る。

贅 ゼイ セイ。セ。かす。すぐるる。あやうし。うる。あつま

贅 ゼイ る。あまりもの。むだ。無用。つく。いほ。しちいれ

贅 ゼイ しち。こぶ。いりむ。勝手きま。

贅文 ゼイブン 無益なる文。無用の文章。

贅句 ゼイク 無駄なる文句。無用の

贅辯 ゼイベン むだぐち。無用の言

贅語 ゼイゴ 無用なることば。むだ

贅疣 ゼイウ むだなるもの。たと

贅物 ゼイブツ 無益なるもの。いら

贅旒 ゼイリウ 繫屬せる旒は手のた

贅 ゼイ めに執持左右せらる。因りて君

主が臣下のために動かされて危きにたふ。

贅肉 ゼイニク こぶ。あまじし。用に

贅字 ゼイジ たたね肉。①を棄つ。

贅婿 ゼイケ むすめをむこ。贅に

して妻を娶らす婿家に就て婿

となるもの。

贅澤 ゼイタク むたなるをこり。無

益にして分外のをこり。費用の

多くかゝる事。

贅議 ゼイギ 不必要の相談。いらざ

贅論 ゼイロン むたな議論。

贅行 ゼイカウ 其道にあらざる行ひ

贅澤品 ゼイタクヒン 贅澤に用ゐる品

物。高價又は風雅なる品。

贅澤屋 ゼイタクヤ ぜいたくなる品

を好む人。贅澤品を商ふ家。

贅 ゼイ シ。ゲツ。チウ。にへ。

贅 ゼイ あがる。そびえ。

贅人 ゼイジン 魚鳥などをこりて贅

に奉る人。

贊然 ゼン 少しも動かぬさまに

いふ語。①として立つ。「狩、

贊狩 ゼン シユにへを捕ふるための

贊殿 ゼン ニド。古禁中において諸國

より奉りたる贊を入れ置きま

た料理せし場所。「す祝儀。

贊禮 ゼン シイ。始めて逢ふときに出

贊 ゼン サン。

贊 ゼン 贊に同じ。

贈 ゼン クワン。エン。

贈 ゼン ものをささふ。

贈 ゼン ソウ。ゾウ。おくろる。ます

贈 ゼン おくろりもの。つかはす。

贈 ゼン やる。

贈金 ゼン ソウチン 金錢をおくりあたふ

贈位 ゼン ソウジ 死後に追贈せらるる

贈官 ゼン ソウカン 死後に官を追贈す

贈諡 ゼン ソウシ 天子の崩御の後お

り名を奉る事。おくりな。

贈號 ゼン ソウガウ 庶人に別號を贈る事

贈送 ゼン ソウソウ おくろりものを贈る事

贈遺 ゼン ソウイ 死後などに其財産を

他に贈りやる事。おくりやる事

贈與 ゼン ソウイ 物を遺はしやる事。

贈賂 ゼン ソウロ 賄賂をおくると

贈賂 ゼン ソウロ 賄賂をおくると

贈賂 ゼン ソウロ 賄賂をおくると

贈答 ゼン ソウタウ おくりやると返禮す

贈爵 ゼン ソウシャク 死後に爵位を追贈

贈寄 ゼン ソウキ おくりにする事。

贈 ゼン ヨウ。ショウ。ます。

贈 ゼン おくろる。のぶ。あまる。

贈 ゼン エイ。ヤウ。ます。うつ。

贈 ゼン うくる。さかえなり。に

贈 ゼン なふ。あぶりすこと。お

贏長 エイ エイキヤリ をほきくなる事。そ

贏負 エイ エウになふ事。「だつこ。

贏輸 エイ エウ。まくるとかつと。かち

まげ。輸贏。①を争ふ。

贏餘 エイ エイヨ。あまり。あまりもの。

贏者 エイ エイシャ。勝者。かちたる人。

贏熟 エイ エイジュク。實がある事。みゆる

贏盛 エイ エイセイ。さかえなり。①と

贏 エイ ザウ。ソウ。なさむる。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

贓物 ザウ ザウブツ 窃取したる物品。

貝部 十一畫以上

【最負】

ヒ。ちからおこす。いかる。おほがめ。最負ヒキ力をそへて人を扶くること。ひきたつること。

【贗】

ガシ。にせもの。いつはり。贗に同じ。贗シ。

【贖】

シヨク。シユ。ヅク。たから。あがなふ。にぎはふ。ただす。そなふ。贖罪シヨクイ。罪をあがなふ。贖金シヨクキン。あがなひのかね。罪などを贖ふに拂ふ金。贖身シヨクシン。身をあがなふ。贖勞シヨクラウ。古つとめのかほりに奉りしもの。古官を買ひ位をすめられんために差し出せし金。「ためにばらふ金錢。贖罪金シヨクイキン。罪をあがなふコウ。カン。たまふ。おろかなり。

【贖】

シヨク。シユ。ヅク。たから。あがなふ。にぎはふ。ただす。そなふ。贖罪シヨクイ。罪をあがなふ。贖金シヨクキン。あがなひのかね。罪などを贖ふに拂ふ金。贖身シヨクシン。身をあがなふ。贖勞シヨクラウ。古つとめのかほりに奉りしもの。古官を買ひ位をすめられんために差し出せし金。「ためにばらふ金錢。贖罪金シヨクイキン。罪をあがなふコウ。カン。たまふ。おろかなり。

【贖】

シヨク。シユ。ヅク。たから。あがなふ。にぎはふ。ただす。そなふ。贖罪シヨクイ。罪をあがなふ。贖金シヨクキン。あがなひのかね。罪などを贖ふに拂ふ金。贖身シヨクシン。身をあがなふ。贖勞シヨクラウ。古つとめのかほりに奉りしもの。古官を買ひ位をすめられんために差し出せし金。「ためにばらふ金錢。贖罪金シヨクイキン。罪をあがなふコウ。カン。たまふ。おろかなり。

【贖】

シヨク。シユ。ヅク。たから。あがなふ。にぎはふ。ただす。そなふ。贖罪シヨクイ。罪をあがなふ。贖金シヨクキン。あがなひのかね。罪などを贖ふに拂ふ金。贖身シヨクシン。身をあがなふ。贖勞シヨクラウ。古つとめのかほりに奉りしもの。古官を買ひ位をすめられんために差し出せし金。「ためにばらふ金錢。贖罪金シヨクイキン。罪をあがなふコウ。カン。たまふ。おろかなり。

貝部 十一畫以上

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

く偽造したるもの。①使用。贖首ガシユ。その人の首に似せたる首。②敵將の。①「るもの贖物ガシヨ。にせもの。偽造したるもの。贖造物ガシヨウツ。にせつくりたるもの。贖造紙幣ガシヨウシ。にせつくりたる紙幣。

赤部

【贖】

ザウ。贖に同じ。

【赤】

セキ。シヤク。あか。あかし。むなしきと。はらふ。露出せると。或語に冠して蔽ひなきさま又はあらはなるさまを表はす。

赤子セキシ。あかこ。みどりこ。ちのみこ。天子を民の父母と稱するに對して人民の稱。

赤子アカコ。(動)毛足類中みず科に屬する細蟲。絲狀にして赤色を帯ぶ。溝渠などの泥中に群棲し、採りて金魚などの餌とする。赤土セキド。赤くして黄を帯べる土。赤黒き繪具。代赭。

赤心セキシン。まごころ。まごこの心。虚偽なき心。

赤手セキシュ。すて。からて。何も手

する。一族悉く誅殺すること。赤芋アカコ。(植)からむしの一類。莖赤くして葉對生す。

赤玉アカタマ。赤色の玉。佐渡より産出する純赤色の庭石。

赤草アカサ。(植)葉は細長くして全邊なり。無苞の花を有す。莖は葉とし葉は食用に供せらる。

赤蛙アカカエル。(動)無尾類中尖指類に屬する兩棲動物。體色薄赤色にして暗褐色の斑點あり。指趾の末端尖りてよく跳躍す。

赤本アカホ。草雙紙の異名。

赤緯セキヰ。(天)地球上赤道より北又は南に測りたる角距離。

赤經セキケイ。(天)春分點より赤道上に於て東へ測る距離。

赤貧セキヒン。極めて貧乏なること。①洗ふが如し。「異名。

赤菜セキサイ。(植)はうれんさうの赤葉セキサキ。枯れて色赤くなりたる木などの葉。

赤部

に持たぬこと。①敵を斃す。赤日シヤクヒ。赤口神といふ神のつかさどる日。辯舌を用ふるに悪しといふ。「びたるもの。

赤粟セキリツ。もちあはの赤色を帯ぶこと。あかきひかり。

赤地セキチ。穀物のみのらぬ土地。何等の作物もなき土地。

赤衣セキイ。緋色の袍。古五位の人の着用したるもの。

赤背セキハイ。はだなぬぐも。何も着ざる背。「か。

赤身セキシン。すはだか。まるはだか。赤面セキメン。恥ぢて顔をあからむること。顔色のあかさ。①の至り。

赤苔アカコケ。(植)地衣類に屬する下等植物にして紫色を帯ぶ。

赤鯛アカイシ。(魚)あかほらまふせたる鯛を鹽漬けとなし又は乾したるもの。節分の日之を終に買きて月にさし鬼やらいの儀式

赤部

赤松アカマツ。(植)松の一種。山野に自生し樹皮赤褐色を帯ぶ。葉質堅からず木材は種々の用に供せらる。

赤族セキツク。一族を盡して空しく

赤部

赤部

赤熊 アカマ (動)毛は茶褐色にして喉に月の輪なく大なるは八九尺に至る、性猛し。熊。

赤道 さだろ (地)地球の中央に地軸と九十度の角度を以て横に引きたる想像の線。(天)天球上兩極を連ぬる軸に直角より等距離にある大圓の稱。

赤帽 アカボ 赤色の帽子、停車場などにありて乗客の依頼を受け荷物の持運びを爲すもの。

赤花 アカバナ (植)柳葉菜科に屬する小草、長卵形にして鋸齒をなせる葉と帯紫紅色にして四瓣をなせる花とを有し種子の一端に長毛あり。

赤部

銳棘あり背の中央に砂粒狀の突起あり。

赤螺 アカシ (動)前鰓類中ほねがひ科に屬する貝、獨樂狀の介殼と著しく瘤起せる螺紋とを有し肉は食用に供せる。金錢を握れば容易に離さると赤螺の蓋を閉つればたやすく開かざるにたとへて極めて吝嗇なる人ないふ語。

赤肌 アカダ 皮膚むけて充血し赤色を呈したる跡。着物をぬぎ皮膚をあらはしたるも。

赤鱗 アカス (動)鱗に類し眼は較大にして齒は肋骨にも生ず、體は藍色を呈し肉紅色なり。

赤鯨 アカマ (動)頭部は扁大尾部は側扁、體は赤茶色體長は三寸許、胸鰭の刺は硬骨性なり溪流などに棲み捕ふれば人を整す。

赤部

赤褐色の翅と第三腹節に二個の赤黄紋を有し觸角の上部は黄色を呈す。

赤斑 さかん あかいろのまだら。血のまだら。①一斑点。

赤後 ショウ 赤口日の次の日。

赤鱚 アカサキ (動)脊鰭なく口唇に數條の鬚を生じ鼻腔は口腔と通じ眼は甚だ不完全にして皮下に隠る、體長一尺許。

赤脚 セキヤク すあし。あらはしたる脚。「めし」。

赤飯 セキバン あかきめし。あづき赤裸。さまるはだか。すはだか。いづばりかさりのなきこと。

赤銅 ショウドウ 銅百・アンチモニー三十・黄金七の割合にて合金したるもの。紫銅。

赤龍 セリョウ (動)みみずの異名。赤鱗(化)黄燐より變化したる赤褐色の粉末となりたる燐、まつちの製造に用ゆ。

赤裸裸 セリョウ あかはだか。まつばだか。一物をも有せざること。又赤條々といふ。①一より身を起す。

赤血球 セキケツクウ (動)高等動物の血液中に含まれ血球の大多數を占め圓盤狀をなし兩面凹みて淡黄色をなすもの。

赤目鯛 アカメダイ (動)楕圓形の體を有し鱗は甚だ小なり、體色紅にして長一尺三寸許。

赤朽葉 アカクハ、うす紅に黄を帯びたるかさねのいろ目。

赤酸漿 アカサダ (植)酸漿科に屬する小草本、酸味を有し三小葉を傾臥せる莖を有し花は黄色なり、葉は食用に供せらる。

赤坊主 アカボウズ (植)芒の色の赤くなりたる小麥の變種。

赤芽柏 アカダハ (植)大戟科に

赤部

赤帶下 シヤクタイゲ ながら。

赤銅鑛 セキドウクワウ (鑛)黄銅鑛と共に製銅の良材たる酸化銅。

赤部

赤痢病 セリシキウ 腹痛下痢はげしく飢狀の排泄物を出す病氣、飲食物と共に消化器より傳染す。

赤繩 アカシヨロ 夫婦の縁。男女の縁を結びつくる約。ふにし。

赤誠 さまや ありのまゝにして少しもいづばりかさりなきこと。まこと。①一を披瀝す。

赤大口 アカオクチ したばかまの別名、儀式などの時にうへばかまの下に着用するもの。

赤口日 シヤクケチ 陰陽家にて萬事に凶なりといふ日、即ち正七月の三・九・十五・二十一・二十七、二・八月の二・八・十四・二十・二十六、三・九月の朔、七・十三・十九・二十五、四・十月の六・十二・十八・二十四、晦日、五・十一月の五・十一・十七・二十三・二十九、六・十二月の四・十・十六・二十二・二十八日

赤部

赤部

屬する荷木、芽の色赤く葉、掌状に分裂す木材は種々の用に供せらる。

赤十字 セキジウジ 萬國同盟の慈善事業の旗章、赤十字形を畫きたるもの。赤十字社の略。

赤道祭 セキドウサイ 船艦などの赤道直下を航海する時行ふ祭。

赤道儀 セキドウギ 天體の赤經及赤緯を測量する器械。

赤道流 セキドウリウ (地) 赤道附近に起り漸く高緯度の地方に向へる暖流。

赤鐵礦 セキテツクワウ (鐵) 酸化したる鐵礦にて赤色を帶ぶ、鐵を製する材料。

赤十字社 セキジウジヤ 博愛同仁の旨趣により戦時に於て敵と味方との區別なく戦闘力を失ひたる兵士を治療することを目的とす世界的組織の社團、赤十字形を畫きてこの社の記章とする。

赤部

す、社長及び副社長は勅許によりて就任す。

赤道直下 セキドウチウカ (地) 赤道の線にあたる場所。地球上の最も熱き地。

赤道逆流 セキドウギャクリウ (地) 赤道無風帯に於ける赤道流の一部の東流するもの。

赤緯等圈 セキドウトウエン 地球上等赤緯の所を連ぬる線にして即ち赤道に平行せる小圈。

赤道無風帯 セキドウムフウタイ (地) 赤道附近に於て北東貿易風と南東貿易風と相合し殆ど無風なる地方。

赤道投影法 セキドウトウエイホウ (地) 地球圖の製作にて赤道を其中央點としたるもの。

〔赦〕 シヤ。セ。サク。シヤク。ゆるす。なだむ。うつ。たたく。

赦宥 シヤウ ゆるすと。なだむる

赤部

赦免 シヤン 罪をゆるしやると。免じゆるすと。

赦罪 シヤイ 罪をゆるすと。

〔赧〕 タン。ナン。あからむ。はぢらふ。

赧面 タンシ かほをあからむるも

赧顔 タンガン はぢて顔をあからむるも。あかづら。①の至り。

赧然 タンゼン 恥ぢ入りて顔のあからむさまにいふ語。

〔赫〕 カク。セキ。キヤク。シヤク。あかし。さかんなり。かがやく。ひかる。あつし。あぶる。うすし。すくなし。

赫赫 カカ 火などの盛んにかがやくさま又は物事のあきらかなるさまにいふ語。暑氣甚しきさまにいふ語。威光がやくさまにいふ語。又赫焉・赫乎・赫然などいふ。「はげしき日」

赫日 カカジ ひかり輝く日。暑さ

赤部

赫灼 カカシヤク 光りががやくさま又はあつさのさかんなるさまにいふ語。又赫灼といふ。

赫曦 カカキ ひかりかがやくも。

赫明 カカメイ かがやくあきらかなるも。「て大に怒るも」

赫怒 カカド いかると。くわつこし

赫威 カカキ げしきさかんなる威勢。

赫火 カカカ 盛におこりたる火。

赫陽 カカカ 日のてりかがやくもカ。あかし。

〔赧〕 シヤ。セ。あかつち。あか。あかし。

赧土 シヤド 色の赤き土。あかつち

赧船 シヤセン あかくのりたる船。

赧石 シヤセキ 赤き色の石。たいし

赧山 シヤセン 禿げ山。赧土より成

赧面 シヤメン あからがほ。

赧白馬 シヤハクバ つきげのうま。

走部

赭黄馬 シヤウワ つきげにあかみある馬。

赭衣半道 シヤハンダウ 赭衣は罪人の衣服、罪人の多きをいふ。

走部

〔走〕 ソウ。ス。はしる。はしらしむ。むかふ。おもむく。めしつかひ。

走狗 ソウコ 狩獵などにおひつかはるる。狗。轉じておひつかはるる人。

走漏 ソウロ ひとのもるも。

走卒 ソウソツ はしりづかひするしもべ。①兒童。

走夫 ソウフ つかひをとこ。しもべ

走筆 ソウヒツ 筆を走らしていそぎかくも。はやがき。「る奴」

走使 ソウシ 馳せまはりに使はるる

走路 ソウロ にげみち。

走舸 ソカ 小さくして急行に用

走部

二一三畫

走沫 ソウマツ あはながすと。

走衆 ハシシユウ 將軍家御成の時、その道筋を警固せし武家の役。

走竄 ソウセン にげかくるも。

走趨 ソウソウ はしりおもむくも。

走馬燈 ソウバトウ まはりどろろ

走禽類 ソウニルル (動) 鳥類の一、翼不完全にして飛翔するこま能はず脚長く強くして疾走するもの。

〔赴〕 フ。ホ。おもむき。つく。いたる。はしる。

赴至 フシ おもむきつくも。其處にゆくも。「赴くも」

赴任 フシニ 任命せられたる地に

赴趨 フスウ すみやかに赴くも。

赴援 フシエン 其場に到りて助くるも。現場に赴き助くるも。

赴告 フコウ いたりつぐると。その

走部 五十六畫

超人格 超シカタ 人格を超越して之に人格の有限なる屬性を付與すれば其性を喪失するもの。例へば神の如し。

超自然 超シケン 自然に超越してあると。自然の外に存在すると

超然主義 超シケンシキ 超然として物事に關係せざるを旨とする主義。

超然内閣 超シケンナイカク 何れの政黨にも關係せず超然主義を執る内閣。

超

越

越

越

走部 五十六畫

越日 越シタチ 月をこす日。翌日。

越月 越シツキ 月をこす。翌月。

越年 越シトシ 年をこす。超歳。

越先 越シサキ 先にこす。

越過 越シワケ 過ぎこす。こえす

越遠 越シトウ 遠くに遠き。

越在 越シイニ 流離して遠きに居るをいふ。

越次 越シツギ 順序によらずのりこす。

越境 越シキリ 國境をこえらる。

越限 越シゲン 限度をはづらる。

越躰 越シタマ びこす。のりこえらる。

走部 五十六畫

越獄 越シツク 破獄。牢をやぶる。

越思 越シオモ 苦しき苦勞。餘計の考へ。

越階 越シカド 順序をふまず位の進む。

越權 越シケン 自己の權限以外のことをする。

越訴 越シソウ 訴訟の順序を越えて直ちにその上官に訴へ出づる。

越中 越シチュウ 三四尺の半幅の布に紐をつけたるふんどし。あてここの外る。

越俎 越シソ 己が分をこえて他の職分を冒したる罪。

越俎奉行 越シソオウ 越訴の事を吟味する武家の役。

越趨 越シツク 俗の趨の字。

越趨 越シツク 俗の趨の字。

走部 七十八畫

趙

シ。た。た。す。む。ゆきてすすま。す。

趙

テウ。デウ。おもむく。わか。し。さ。す。

趙

テウ。ス。シウ。ソウ。おもむく。おもむき。せま。る。う。な。が。す。ち。ぢ。む。

趣

シウ。おもむく。おもむき。か。ん。が。へ。を。凝。ら。す。

趣

シウ。おもむく。おもむき。か。ん。が。へ。を。凝。ら。す。

趣

シウ。おもむく。おもむき。か。ん。が。へ。を。凝。ら。す。

趣

シウ。おもむく。おもむき。か。ん。が。へ。を。凝。ら。す。

走部 九畫以上

趨勢 趨シキ 移りかばりの勢。世のなりゆき。

趨義 趨シキ ずちみちにおもむく

趨登 趨シキ かけのぼる。

趨迎 趨シキ かけ出してむかふる

趨走 趨シキ せやくと。おもむ

趨和 趨シキ 見てまねする。

趨進 趨シキ ぼしり進む。

趨賀 趨シキ 賀辭をのべに行く。

趨舍 趨シキ 進むと退くと。向背。に迷ふ。

趨趨 趨シキ テキ。チャク。おごる。おごるさま。

趨趨 趨シキ ケウ。ゲウ。すばやし。木をよづるにたくみなり。

趨趨 趨シキ ばしる。ゆく。足をあげたけし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

趨趨 趨シキ たくし。

足部

足部

シヨク。ソク。あし。とやまる。たる。みつ。ます。なる。すぐ。兩足備ふる一對のものを數ふるに用ふる語。飛び又は歩む足數を數ふるにいふ語。

足力 ソクキ 手足を共に用ゐて行ふ按摩の術。

足下 ソクカ 足もこ。足のした。同等の人に對する敬語。貴君。手紙にてお手許又はおそばの職に用ふる語。

足心 ソクシ あしのうち。

足志 ソクシ 志を遂ぐる。志を達する。

足言 ソクゲン 十分に言ふ。

足伯 ソクハク 錢の異名。

足音 ソクオン 歩む足の聲。意外に

珍しき事を空谷の—といふ。

足迹 ソクキ あしあと。通過せしあと。又足趾といふ。

足勞 ソクラウ 足を煩はす。あしを勞する。人を使ひたるときなどにいふ。

足痛 ソクツウ あしのいたみ。

足輕 アシカ 雜兵の下等なるもの。徳川時代のものがしらの組下なる弓銃卒。

足駄 アシダ 路のわるき時にはく下駄。臺は多く桐にてつくり極または檜の高き齒をはめたるもの。展。

足枷 アシカ 古罪人を拘留するために足にはめしかせ。

足弱 アシヨウ 歩行の達者ならぬと婦女老幼の稱。

足革 アシカ 獵につかふ鷹のあしにつくる革ひも。

足踏 アシテ あしびやうし。體操にて一定の場所に止まり左右

兩足にて交互に地をふむ動作。

足偏 アシヘン 躡字の偏の名。跳・跛などの字の左方にある足の字の稱。

足掛 アシカケ あしを掛くる所。精細に年月日を計算せず其年までを概算して數ふ。器械體操にて兩手と片足を掛けて上る技。

足留 アシドメ 人の通行をさし止む

足搦 アシナグ 相撲・柔術にて他の足に我れの足をからみてうち倒す技。

足場 アシバ あしがより。あしもと

足斑 アシマ 四足共に白色なる馬の毛色。

足拍子 アシウチ 演劇・舞樂などにて俳優・樂人の足踏みしてとぶ拍子。

足相撲 アシウマウ 互に足先をはねあひてなす一種の遊戲。倒れたるを負けさす。

足部

足部

足部 四畫

足手搦 アシテガミ 手足にまごひつきて自由ならぬ。妻子などの身のほだしとなるもの。

足下點 ソクカシ (天) 天球上鉛直の最下點。即ち天頂點と反對の點。

足高蜘蛛 アシタカモ (動) 蜘蛛類中長脚類に屬する蟲。脚細く長く之を高くして歩行す。晝間は隱伏し夜間出でて徘徊す。

足早小舟 アシハヤコボネ よく走る小舟。

跂 シ。ジ。連り十四個の骨片より成る。たちごまる。

距 キョ。ゴ。けづめ。さかはり。いたす。たがふ。あた。る。なごる。こゆ。とづ。拒に通じ川ゆ。

距離 キリ へだたり。場所と場所との間。(數) 二物體間の長さ。二體の間に終る最も短き直線の長さ。二點を結ぶ直線の長さ。

距爪 キョウサ けづめとつめと。

距離 キリ 前に向ひ物を越えて過ぐる。

跛 ハ。ヒ。あしなゆ。あしまがる。ちんばひく。びつこ。かたよる。かたおち。き。又跛子。跛者といふ。

跛脚 ハマツ びつこ。びつこをひ

跛覽 ハマツ びつこ。ちんば。

跛詩 ハマツ 調子の悪き詩。調子の合はぬ詩。

跛韻 ハマツ 調子の悪ききぬん。調子の合はぬ韻。

跛說 ハマツ つづまの合はぬ話。前後矛盾せる説。

跛踰 ハマツ つり合はぬたとへ。

跗 フ。ホ。あしのかふ。あしのうち。

跗注 フチウ つきともなふ。

跗骨 フツツ 脛骨の下端に連れる七個の骨片。相動くと少なし。セキ。シヤク。あしのうち。

跗 テウ。テフ。デウ。ふむ。おつ。しづかにゆく。ク。ゴ。かがむ。おどる。カ。ケ。あぐらかく。あぐらくむ。

足部 五畫

足部 五畫

足部 五畫

跎

タ。たがふ。
つまづく。
サン。ちんばひく。
ひよるつく。しごる。
テツ。デチ。こゆ。すぐ。

跌

たふる。つまづく。あや
まつ。ほしいまま。はし
る。さすつく。

跌倒

テタリ つまづきたふれると

跌宕

テタリ いきほひのよきと。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

跋

テソツ つまつきおつると。

足部 六畫

山河をわたりあるくと。●山野
なす。

跋扈 リゴ 我儘に振舞ふと。なご
りはれると。はびこると。●

跋倒 リゴ 草に足のからまりて
倒れると。●

跋履 リゴ あゆむと。遊歴する
と。●

跋 六 書
ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
ける。おごる。

跳

テウ。タウ。さびあがる。
はねをざる。のがる。い
ごむ。●

跳起 テウキ はねおくると。さびた

跳沫 テウマツ あわだつと。

跳奔 テウホン のがればしると。

跳哮 テウカウ はねあがりてはゆる

跳梁 テウリヤウ はねまはると。はね

跳躍 テウヤク はねをざる。とび

足部 六畫

あがる。又跳躡といふ。
跳撲 テウボク はねおどりてうつと

跳疾 テウシツ はねおごるここの早

跳舞 テウマツ はねふふと。舞ひ跳る

跳驅 テウクハ はねまはりてかける

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

跳 早くかける。

足部 六畫

市中の人々と人家との間の狭
き通路。 「程の標木。
路表 ロウヘウ みちのりのしるし。里

路車 ロウシャ 君主の乗る車。

路門 ロウモン 君主の住はせらる、
邸の門。 「馬。

路馬 ロウバ 君主の乗用せらる、車

路鼓 ロウコ 四方張りの太鼓。

路傍 ロウボウ みちばた。みちのほこ
り。又路頭。路邊といふ。

路寢 ロウシン 天子の御寢所。おもて
ごてん。 「う。

路賊 ロウゾク おひはぎ。たびごろば

路程 ロウリョウ みちのり。里程。

路糧 ロウリヤウ 旅路に用ふる食物。

路躑 ロウシツ 旅中の辨當。

路傍人 ロウボウジン 自己に何等の關

係なき人。

跣 セン。ソッ。はだし。

跣足 センソク はだし。すあし。

足部 六畫

跣盆 センゼン せんそくだらひ。
跣行 センカウ すあしにてあるくと

跡 セキ。シヤク。あとふむ。
かさぬる。ゆく。あと。迹

跡形 アトカタ あとに残りたるしる

跡道 セマアト をつけてとらふ

跟 コソ。くびす。
あしのくびす。

跟隨 コソジツキ つき従ふと。つきま

跟至 コソジツキ つき従ふと。つきま

跟踵 コソシヤウ かがと。きびす。

跟跡 コソシツキ あしあと。 「と。

跟骨 コソコボ あしあとに追ひ至る

跟至 コソシツキ つき従ふと。つきま

跟踵 コソシヤウ かがと。きびす。

跟跡 コソシツキ あしあと。 「と。

跟骨 コソコボ あしあとに追ひ至る

跟至 コソシツキ つき従ふと。つきま

跟踵 コソシヤウ かがと。きびす。

跟跡 コソシツキ あしあと。 「と。

跟骨 コソコボ あしあとに追ひ至る

跟至 コソシツキ つき従ふと。つきま

跟踵 コソシヤウ かがと。きびす。

跟跡 コソシツキ あしあと。 「と。

跟骨 コソコボ あしあとに追ひ至る

跟至 コソシツキ つき従ふと。つきま

跟踵 コソシヤウ かがと。きびす。

跟跡 コソシツキ あしあと。 「と。

足部 六畫

踏 ケイ。キ。クワ。くはだつ
る。すすむ。ひとあし。
キョウ。ク。あしあさ。
よろこぶ。おそるる。

趺音 キョウオン 足おと。歩める足お

趺然 キョウゼン 足音の聞ゆる貌。●

蹴 キ。ギ。ひざまづく。かに

蹴受 キキ 貴人などよりひざま

蹴奉 キホ 貴人などにひざまづ

蹴伏 キフ びざまづくこと。

蹴座 キザ 恭しく座すること。 「と

蹴拜 キハイ びざまづきてながむ

蹴跨 キカ びざまづきてながむ

蹴跨 たがる。またくら。しり

蹴跨 ぞく。こえる。はかる。

足部 七畫

躑

イ。

うづくまる。

七 畫

踊

ヨウ。エ。を。ど。る。あ。ら。か。じ。め。ほ。ど。こ。す。ほ。さ。ば。し。る。す。べ。て。の。ぼ。る。た。つ。ふ。む。

踊躑

ヨウ。マ。ま。ひ。を。ど。る。と。を。ど。り。は。れ。る。と。

踊躑

ヨウ。マ。ま。ひ。を。ど。る。と。を。ど。り。は。れ。る。と。

跟

ヨウ。マ。ま。ひ。を。ど。る。と。を。ど。り。は。れ。る。と。

踰

ヨウ。マ。ま。ひ。を。ど。る。と。を。ど。り。は。れ。る。と。

躑

ヨウ。マ。ま。ひ。を。ど。る。と。を。ど。り。は。れ。る。と。

足部 七畫

蹙

キ。イ。む。

ひさまづく。

八 畫

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。か。が。ま。る。せ。ぐ。く。ま。る。

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。か。が。ま。る。せ。ぐ。く。ま。る。

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。か。が。ま。る。せ。ぐ。く。ま。る。

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。か。が。ま。る。せ。ぐ。く。ま。る。

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。か。が。ま。る。せ。ぐ。く。ま。る。

足部 八畫

蹙

キ。ヨ。ク。ゴ。ク。ク。

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

八 畫

蹙

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

蹙

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

蹙

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

蹙

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

蹙

ホ。ク。ハ。イ。ベ。た。ふ。す。た。ふ。る。

足部 八畫

蹙

カ。リ。ゲ。ク。び。す。あ。し。の。く。る。ぶ。し。

蹙

カ。リ。ゲ。ク。び。す。あ。し。の。く。る。ぶ。し。

蹙

カ。リ。ゲ。ク。び。す。あ。し。の。く。る。ぶ。し。

蹙

セ。キ。シ。ヤ。ク。サ。ク。ゆ。く。ふ。む。か。た。ち。づ。く。る。

蹙

セ。キ。シ。ヤ。ク。サ。ク。ゆ。く。ふ。む。か。た。ち。づ。く。る。

蹙

セ。キ。シ。ヤ。ク。サ。ク。ゆ。く。ふ。む。か。た。ち。づ。く。る。

蹙

セ。キ。シ。ヤ。ク。サ。ク。ゆ。く。ふ。む。か。た。ち。づ。く。る。

足部 八畫

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

足部 八畫

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

蹙

タ。フ。ト。フ。ふ。む。だ。く。

足部 九畫

足部 九畫

蹠 多 ひとり行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠

つまづく。

蹠

タフ。たふる。

蹠

つまづく。ふす。

蹠

わしる。

蹠

ヒ。ハイ。ふともも。

蹠

ひろし。髀に同じ。

蹠

テイ。グイ。

蹠

うまおひ。ふむ。

蹠

蹠 馬などの足にてける。ふみあふと。

蹠

蹠 馬などのせはしく走。高足にてたけりかけると。

足部 九畫

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

足部 十畫

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

足部 十畫

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠

タウ。ドウ。ふむ。みち。あゆむ。うごく。

蹠

蹠 月の照る下を歩くと。さび石などの上をひらひ歩く。

蹠

蹠 青草をふむと。野遊

蹠

蹠 足袋の異名。

蹠

蹠 氷上を歩くと。物の危険なるに譬へていふ語。

蹠

蹠 雪駄のうらに打ちたる金具。

蹠

蹠 高さ所のものを取り

蹠

蹠 高さ所に上るときなごにあがりふむ。或目的のために一時利用せらるゝもの。

蹠

蹠 雪の中を歩くと。

蹠

蹠 多ハふみやぶると。山川

足部 十畫

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

足部 十一畫

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

蹠 多 ひとりの行くさま又はまばらに行くさまにいふ語。

足部 十二畫

躋

蹟

縮

蹙

蹙

蹙

蹙

蹙

セキ。シヤク。したがふ。あと。

シユク。ソク。こあしふむ。せまる。

シユク。セキ。シヤク。ソク。せまる。せはし。すみ

シユク。ソク。あしふむ。せまる。こあしふむ。せまる。

シユク。ソク。あしふむ。せまる。こあしふむ。せまる。

シユク。ソク。あしふむ。せまる。こあしふむ。せまる。

シユク。ソク。あしふむ。せまる。こあしふむ。せまる。

足部 十二畫

躋

躋

蹙

蹙

蹙

蹙

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

ケウ。キヤク。足をたかくあぐ。そり。かんじき。

足部 十二畫

蹙

蹙

蹙

蹙

蹙

蹙

蹙走 クワウ 早足でかける。急ぎはしる。

蹙蹙 クワウ 勢のよき貌。さとき蹙然 クゼシ にはかに。急に。

蹙蹙 クワウ 勢のよき貌。さとき蹙然 クゼシ にはかに。急に。

蹙蹙 クワウ 勢のよき貌。さとき蹙然 クゼシ にはかに。急に。

蹙蹙 クワウ 勢のよき貌。さとき蹙然 クゼシ にはかに。急に。

蹙蹙 クワウ 勢のよき貌。さとき蹙然 クゼシ にはかに。急に。

足部 十三畫

躋

躋

躋

躋

躋

躋者 ケキ。あざりの人。こし

躋者 ケキ。あざりの人。こし

躋者 ケキ。あざりの人。こし

躋者 ケキ。あざりの人。こし

躋者 ケキ。あざりの人。こし

足部 十四畫

躋

躋

躋

躋

躋如 ヤク。なごる。すすむ。

躋如 ヤク。なごる。すすむ。

躋如 ヤク。なごる。すすむ。

躋如 ヤク。なごる。すすむ。

足部 十四畫

躋

躋

躋

躋

躋進 ヤクシ。をどりあがりて進む。

躋進 ヤクシ。をどりあがりて進む。

躋進 ヤクシ。をどりあがりて進む。

躋進 ヤクシ。をどりあがりて進む。

足部 十五畫以上

十五畫以上

躓 テン。テン。ゆく。ふむ。めぐり。やどり。あしあ。としたがふ。

躓 チ。つまづく。ふむ。さばりたふる。ころぶ。つまづきたふる。ころぶ。リン。

躓 ふむ。する。

躓 レキ。リヤク。うごかす。ふむ。こゑすぐる。をどる。はやし。すみやか。テキ。ヂヤク。たたずむ。なごる。つつじ。

躓 躓躓。まじり。たごまる。ため。らふ。植。つじ。

躓 セン。

躓 まふ。ころめく。テフ。ネフ。のぼる。ふむ。くはだつ。はやし。すみやか。

身部

躓 躓躓。ふみかためる。躓躓。たづねる。躓躓。おひうち。追躓。躓躓。ふむ。小足にある。くさまい。ふ語。

躓 躓躓。ふむ。ふみつく。躓躓。早足。疾く歩む。躓躓。早足。疾く歩む。クワク。あしよする。

躓 あしつかむ。

躓 躓如。クワク。きざみあしに歩く。貌。足の速かなる貌。

躓 躓歩。クワク。早足。疾く歩む。リン。ふむ。にじる。躓躓。同じ。

躓 躓躓。ふみにじると。

身部

身 シン。み。からだ。むくる。おのれ。われ。みづから。もし。みおもになる。はらむ。

身部

身中 シンチュウ。からだのうち。

身長 シンキョウ。みのたけ。身の高さ

身請 シンキョウ。奉公人の身の代を出して其の奉公をやめさせ普通の人となすと。金銭を出して藝妓又は娼妓などを其の商賣より引かむると。

身内 シンナイ。からだぢゆう。親戚。同一の親方に屬する子分のものども。

身賣 シンバイ。身の代を取りて約定の年奉公などに出ると。

身柄 シンカウ。身分のほご。

身共 シンキョウ。己より目下のものに對して用ふる自稱代名詞。

身上 シンジョウ。一身の關係。身の上。身分。身の運命。

身代 シンダイ。財産。資力。資産。

身代 シンダイ。他人の身の代りに立ちて死ねると。

身代 シンダイ。人身賣買の金。船人の給料。

身部

身分 シンブン。みのほご。みから。分限。貴賤上下の階級。(法)法律上に於ける一定の地位。

身外 シンガイ。からだの外。

身命 シンメイ。からだのいのちと。①を抛つ。

身首 シンシュ。からだごとくびと。首體。①處を異にす。

身許 シンキョ。身の出所。みのうへ。一身上の關係。

身持 シンヂ。みなり。すがた。品行。おこなひ。子をばらむと。

身振 シンビ。からだをうごかすさま。身のやうす。

身幅 シンハク。身のほら。裁縫にてみころのよこば。

身投 シンテウ。身を水中に投じて死ぬると。

身體 シンタイ。からだ。體軀。

身許金 シンキョキン。奉公人の豫め保證として出しおく金。

身代金 シンダイキン。人身を賣買する

身部

金子 キン。①娼妓。

身代限 シンダイカキ。①(法)借財を償ふと能はざる時裁判の上にてある限りの身代を貸主に出だすと。破産。

身體刑 シンタイケイ。犯罪人の身體に毀傷又は苦痛を與ふる刑。

身分權 シンブンケン。(法)人の身分關係より生ずる權利、即ち生命・身體・榮譽・自由の權利・親權・夫權の如きもの。

身後名 シンシナ。死後の名譽。

身分登記 シンブントキ。身分に關する移動などを登記すること。

身上聯合 シンジョウワレツ。①(法)二個以上の國家の同一の君主を戴くと。

身許保證 シンキョボウシヨウ。其の身の上についての責任。身許のたしかなること。のうけあひ。

身許保證金 シンキョボウシヨウキン。身許保證のために出す金。

身部

躬 キウ。ク。躬に同じ。

躬行 キウカウ。自ら行ふ。行狀にあらはすと。①實踐。

躬耕 キウカウ。自ら耕作すること。

躬儉 キウケン。みづから儉約を行ふこと。

躬體 キウタイ。自ら其事をのみ行ふ。タン。

耽 タン。耽の俗字。

盼 (國字)。せがれ。己が子の謙稱。

躑 テイ。タイ。體の俗字。

躑 タ。みみづから。

躬 キウ。ク。躬に同じ。

躬 (國字)。れらふ。敵を窺ふ。

身部 三一八畫

身部 十一畫以上

【裸】

ラ。はだのぎ。あかはだか。

裸體 ライ 身體に一物をも纏はざること。はだか。あかはだか。

裸馬 ライ 馬具を着けざる馬。

裸體畫 ライガク あかはだかなる人物を描ける畫。

裸美人 ライシ 裸體の美人。(國字)。しつけ。

【躡】

習禮。儀容。キク。コク。せぐくまる。せなかがむ。

躡躬 テウキ つかしみかしこみて身なかがめあること。

十畫以上

【艘】

ロウル。艘に同じ。くぐせ。せむし。テイ。タイ。

【體】

體に同じ。ク。コ。からだ。むくろ。み。

【軀】

軀體 タイ からだ。この身。身體。(國字)。やがて。まもなく。すなはち。

車部

【軀體】

軀體 タイ からだ。この身。身體。(國字)。やがて。まもなく。すなはち。

軀體 タイ からだ。この身。身體。(國字)。やがて。まもなく。すなはち。

車部

【車】

シヤ。セ。キヨ。くるま。ばどこ。

車力 シヤキ 大八車などにて貨物を運送するを業とせる人。

車地 シヤキ 重きものを動かして運ぶるに用ふる轆轤。

車夫 シヤ 人力車を挽く人。くるまひき。くるまや。

車行 シヤカ 車に乗りて行くこと。

車匠 シヤキウ 車輛を製造する職人。「わると。」

車坐 クルマ 大勢が丸く周りにす

車房 シヤバウ 車を置く部屋。車小

車前 シヤゼン (植)おほぼこ。「屋

車馬 シヤバ 車と馬と。馬車とこれ

車部

車魚 シヤギョ 一つ叶へば又一つの望みの起ることにいふ。

車臺 シヤダイ 車の一部にして物を入るゝ箱をのするところ。

車掌 シヤヤウ 電車などの其中の事を掌れる人。「かき。」

車蓋 シヤカイ くるまのおほひ又は

車道 シヤダウ 車の往來する道。

車裂 シヤレツ 支那の刑名。二つの車に左右の足を縛りつけて罪人を裂き殺すこと。て歩きし人。

車添 クルマゼ 昔公卿の牛車に附

車軸 シヤチク 車の心棒。大雨又は

車載 シヤサイ 車につみのすること。

車駕 シヤカ 天皇の行幸の時に乗り給ふ御車。親臨して。

車輛 シヤキウ 車の總稱。くるま。

車輪 シヤリン 車の軸を中心としてまはる輪。一生懸命に立ちばたらくことに譬へていふ。

車輿 シヤウ 車と輿と。

車部

車轂 シヤコク 車のこしき。車轍 シヤキウ 車の走り過ぎたるあと。わたち。

車楯 シヤタテ 下に車を装置して廻轉自由なるやうに作りたる楯。

車塵 シヤチン 車のとほりたる後に立つちりほこり。

車戸 シヤコ くるまや。「と。」

車止 クルマドメ 車の通行を禁ずる

車旋 シヤセン ひきものすること。き

車租 シヤソウ 車の税。「ちびき。」

車錢 クルマゼン 人力車に乗りたる

時ばらふ賃錢。

車偏 クルマヘン 漢字の偏の名、軋

軟なごの字の左方にある車の

字。「る口。」

車寄 クルマヨヒ 車を寄せて昇降す

車舎 シヤヤ 貴人の邸の門内に車

をいれおくために建てたる小

さき建物。

車蝦 クルマエビ (動)えびの一種、殼

は平滑にして毛なく硬し、青黒

車部 一一二畫

【軋】

アツ。エチ。すれあふお

軋轢 アツキ 車のきしりあふと。

紅色又は淡褐色の體を有し軸

狀の突起頭胸部に長く生じ其

上縁に入乃至十個其下縁に一

個の鋸齒狀のものあり、ゆて又

は煮れば全身濃紅色となる。

車井戸 クルマド 轆轤の仕掛に由

り釣瓶繩をかけて水を汲む井

戸。

車軸草 シヤチサウ (植) 荳科に屬し

五個の小葉より成り淡紅色の

花を有し家畜の食料に供せら

る。

車馬道 シヤバダウ 車馬のみの通行

に便する爲に區劃したる街路。

車載斗量 シヤサイリヤウ 其の數の

いと多きこと又は平凡なるこ

にいふ語。一の人。

車部 一一二畫

【軋】

リツ。リチ。いろどる。

軋争 アツサウ やかましく争ふこと。

轉じて不和紛争。

【軍】

グン。コン。いくさ。ぢん

どる。たむろす。戦時の

出征に際し數個の師團

又は軍團を以て編制せ

られたるもの。稱。

軍人 グンジン 戦闘する人。いくさ

をする兵士。「軍人の持つ刀。

軍刀 グンタウ いくさに用ゆる刀。

軍中 グンチュウ 軍隊の中。いくさに

出でたる間。

軍令 グンレイ いくさについての命

令。軍事上の命令。

軍功 グンコウ いくさの功から。

軍用 グンヨウ 軍事に用ゐるもの。

軍吏 グンリ 陸軍の會計事務を扱

ふ官吏。

軍兵 グンペイ 兵士。いくさをす

車部 一一二畫

軍防 ケンポウ 軍隊を以て防護する。軍備をす。と。

軍役 ケンエキ 軍の時に出すべき夫役。戦争又は征伐。

軍事 ケンジ 軍備又は戦争に関する一切のこと。

軍制 ケンセイ 軍隊の編制又は經理等に關する規定。

軍使 ケンシ 軍隊の一定の法式に従ひ敵陣へ派遣する使者。

軍門 ケンモン 本營の前といふ意。軍營の門。○一に降る。

軍法 ケンポフ いくさのしかた。軍中の法律。軍隊の刑罰。○一に照らす。

軍服 ケンフク 軍人の着る制服。

軍師 ケンシ いくさの計畫を立つる人。陸になりてひそかに事をきりもりする人。くろまく。

軍容 ケンヨウ 軍隊の様子。いくさのさま。○一堂々。

車部 一一二畫

軍政 ケンセイ 戦時又は事變に際し或地域内に其地の司令官が委任によりて軍事警察を行ふこと。

軍紀 ケンキ 戦争の事跡を書きたるもの。

軍律 ケンリツ 軍人に關する法律。

軍氣 ケンキ 軍隊の元氣。軍隊のいきほひ。○一大に振ふ。

軍紀 ケンキ 軍隊の紀律。軍隊の秩序。

軍神 ケンシン 武運をまもる神。生前最壯烈なる武功ありし將士。

軍扇 ケンセン 古軍隊を指揮するに用ひし扇。多くは鐵骨なり。

軍書 ケンショ 兵法武術などをしるしたるかき物。軍記。○一馬。

軍馬 ケンバ 軍用の馬。軍事に用ひる馬。

軍務 ケンム 軍事に關する事務又は勤務。

軍配 ケンバイ 軍隊の配置。又は進軍の順序。

軍器 ケンキ いくさのほかりこと。戦争の方法。

軍帽 ケンボウ 軍人のかむる制帽。

車部 一一二畫

軍曹 ケンソウ 古の鎮守府の主典。今の陸軍の下士官。

軍區 ケンク 軍事行政を施行する爲に設けたる區域。

軍船 ケンセン 軍艦。いくさぶね。

軍旅 ケンリョ 軍隊。いくさ。せんさう。

軍隊 ケンダイ 兵士の集合したる隊。軍兵の一隊にまよまれるもの。

軍備 ケンビ 軍事に關する諸種の設備。いくさのそなへ。

軍國 ケンコク 軍事上の大事ある國。

軍港 ケンカウ 軍用のみなと。海軍の根據地と定められたる港。

軍談 ケンタン 軍書をふし面白く説き聞かせ又は戦争に關係したる話をなすと。

軍裝 ケンサウ 軍のいでたち。いくさをする裝束。○一のいきほひ。

軍勢 ケンセイ 數多き兵隊のこと。軍。

軍鼓 ケンコ 陣太鼓。○一もの。

軍需 ケンシュ 軍用。軍事に必要な

車部 一一二畫

軍旗 ケンキ 軍隊の表彰せせる旗。

軍歌 ケンカ 軍兵のうたふ歌。進軍凱旋などに勇ましくうたふ歌。

軍團 ケンダン 大實の制に諸國に設けられたる兵士の編制。今日の師・旅團の如し。

軍費 ケンヒ 軍事の費用。

軍監 ケンカン 軍事を監督するもの。

軍學 ケンガク 兵學のこと。

軍樂 ケンガク 軍隊に用ゐる音楽。

軍器 ケンキ 總て軍に必要な器。○一ひきのしほあひ。

軍機 ケンキ 軍事の機密。軍のかけ。

軍營 ケンエイ 軍隊の陣取して居る處。○一從事する高等官。

軍醫 ケンイ 軍隊に屬して醫務にたつたる敵兵。捕虜。

軍禮 ケンレイ 軍隊の禮式。

軍職 ケンシヨク 軍人たるやくめ。

軍籍 ケンシキ 兵役につく義務ある者の族籍。軍人たるべき地位分

車部 一一二畫

軍議 ケンギ 軍事に關する評議。

軍屬 ケンゾク 陸海軍に出仕する文官。その他凡て宣誓によりて陸海軍に從事する者。○一ある船。

軍艦 ケンカン いくさ船。戦艦に用ひるもの。

軍用品 ケンヨウビン 軍用に供するたもの。○一なまもの。又軍需品といふ。

軍用金 ケンヨウカン 軍用に供するための金銭。

軍旗祭 ケンキサイ 天皇陛下より軍旗を賜はりたる日又は紀念日を祝ひて其軍旗を祭ると。

軍政署 ケンセイショ 占領地などに於て軍政上の事務を取ふ役所。

軍樂隊 ケンガクタイ 軍樂を奏すること。○一なまめとする軍隊。

軍艦旗 ケンカンキ 軍艦の表彰とせる旗。艦旗。

軍事通 ケンジツウ 軍人にあらずして軍事にあかるき人。○一費用。

軍事費 ケンジヒ 軍事の爲に支出す

車部 一一二畫

軍醫監 ケンイカン 將官相當の軍醫。

軍醫正 ケンイセイ 佐官相當の軍醫。

軍務局 ケンムキョウ 陸軍省及海軍省の主要たる事務を扱ふ一局。

軍事警察 ケンジサイサ 戦時其の他事變に際し其の地の司令官が通常の警察法によらずして行ふ警察行政。

軍醫總監 ケンイカン 陸軍又は海軍の醫務を總理し軍醫を統督するもの。

軍機漏洩 ケンキロウヂョウ 軍事上の秘密が世間又は敵國にもれきこゆること。軍事上の機密を世間又は敵國に知らすと。

軍事行政 ケンジキョウ 國家に必要なる兵力の設備・編制若くは保育に關する行政。

軍事郵便 ケンジユウビン 出征軍人より發する郵便物。

軍事公債 ケンジコウヂ 明治二十八年軍費支辨のために募集せし

五分利付の公債。

軍事占領 ケンジヤウ 攻撃又は防禦の必要より敵國又は他國の領土を占領すること。

軍事探偵 ケンジタンテイ 敵國に入りこみて軍事上の探偵をなすもの。

軍事負擔 ケンジタン (法) 直接に軍隊の需用の爲に財産の給付又は制限をなす法律上の負擔。

軍用電信 ケンヨウデンシ 軍事に關する通信のために特に設備したる電信。

軍用鐵道 ケンヨウテドウ 軍事に關する輸送のために特に布設せる鐵道。

軍用手票 ケンヨウユビョウ 軍隊が戰地などに物品購買の便利の爲に使用する特殊の手形。

軍用旅舎 ケンヨウリョウシャ 徴發せられたる軍人が一時止宿する爲めのやじや。

軍法會議 ケンポウクワイギ 軍人の犯罪に正式裁判又は軍衛・軍人の損害に係る本案附帶の訴訟を審判し又合圍地境及び臨戰地境にては何人たりとも軍刑法を以て論すべき犯罪を審判する裁判所。

軍配團扇 ケンバイウサン 古大将が其軍隊を指揮するに用ゐし團扇。

軌道 ケイドウ 汽車・電車などの廻轉する道。従ふべき道。地球の廻轉する道。

軌轍 ケイツウ わだちのあと。定まり軌範。おきてきすべきてほん。

軌度 ケイド べきてくのり。

軌跡 ケイツ (數) 或要件に適したる點を有する線。又は線の部分

若くは線の一群が其點に對する稱。

二―四畫

軒 ケン コン。くるまのきひさし。いへ。まご。ほそどの。あがる。わらふさま。ま。まふさま。

軒軒 ケンケン まふさまにいふ語。

軒帆 ケンパン 車と船と。「車」

軒車 ケンシャ 身柄のある人の乗る

軒別 ケンベツ 一軒毎に。月ごと。

軒窓 ケンソウ 廊下のまご。

軒眉 ケンメイ 眉をつりあげること。

軒然 ケンゼン わらふさまにいふ語

軒冕 ケンメン 貴人のかむる高き冠。轉じて高き官位。

軒昂 ケンオウ 心氣のふるひたつと元氣のさかんにかきと。

軒笑 ケンセウ わらふと。「氣」。

軒幌 ケンカウ たかくほりたるたれきぬ。

軒渠 ケンキョウ 手を出して取りつくと。

軒峙 ケンシ 高くそびたつと。「と」。

軒頭 ケントウ のきば。のきさき。軒端。

軒輕 ケンチ まさりおとり。あげさ

軒數 ケンスウ 家の數。戶數。

軒轅 ケンエン 宮中の後宮の稱。

軋 ケン 似に通じ用ゆ。とむる。ひろ。くるまのめぎ。輪の轉するを止むる木。

輓 ケン ゲツ。ゴツ。よこがみ。くびきをもつ木。アタ。ヤク。くびき。

輓 ケン セン。ナン。輓の俗字。やはらか。よはし。

軟風 ナンフウ そよふく風。(地) 海邊にて晝夜温度の差高きとき

軟化 ナンカ もと硬かりしものが軟弱なる意見を有す

る黨派。新聞雜誌などにて文學

又は鹽物を擔當せるもの。

軟鐵 ナンテツ 純粹の鐵の約百分一の炭素を含むもの。「きぬ」。

軟絹 ナンケン やはらかくねりたる軟水 ナンスイ (化) 石灰質又は石膏などを含有せずして飲料に適する水。「ざる」と。

五畫

軋 ケン イツ。イチ。テツ。いづ。こす。すぐ。つく。おかす

軋 ケン ちる。あふる。たがひに。わだち。

軋 ケン カ。くるまのじくをつぐこと。ふしあはせ。

軋 ケン エウ。セウ。をぐるま。ものみぐるま。

軋 ケン シ。よこがみのさき。ふたまた。いたち。さ。

軋 ケン レイ。リヤウ。れんち。車の轄の頭にある革。

軋 ケン チク。ヂク。よこがみ。よこまき。まきもの。まきもの。のしん。しんぎ。圓

軋 ケン きもの又は巻物の中心に通じたる棒。活動又は廻轉の中心となるもの。樞要の地位。又は關係。

筆のくだ。くき。俳句又は川柳などのまきの最後に其の點者のしるす句。(數)一つの圓形の各部が一つの直線に對して對稱的にあるとき此の直線の稱。(理)物體が一直線の周圍に廻轉するさき此の直線の稱。

軸竿 軸の心棒。ハヤヘ。
輩 輩の俗字。アウ。フク。さしるこゑ。うつるさま。シン。ふんぎ。めぐる。うご。おほし。かくる。まがる。いたむ。

軫 シンシ。おほみこ。ろ。
軫念 シンシ。めぐり動く。
軫懷 シンシ。いたく念ふ。
軫慕 シンシ。かなしみしたふ。

鞏 キヨウ。ク。おほわ。さしる。
輕 チ。車。の。前。の。重。き。と。おもし。ひくし。サイ。の。す。の。る。な。す。おこなふ。みつ。かざる。こと。は。じ。む。す。な。は。ち。まつ。る。く。る。ふ。み。し。よ。も。つ。は。こ。ぶ。

載 載送。サイ。の。舟。車。に。の。せて。物。品。を。載。籍。サイ。セ。書。物。本。送。る。と。載。書。サイ。シヨ。書。物。に。記。載。す。る。と。載。簿。サイ。ホ。帳。簿。に。書。き。し。る。と。

輅 ロ。ラク。み。く。る。ま。な。が。え。し。は。り。お。ほ。い。な。り。くる。ま。の。ま。へ。の。ふ。ん。ぎ。む。か。ふ。
輅車 ロク。君。主。の。乗。用。せ。ら。る。る。車。大。な。る。く。る。ま。

較 カク。カウ。に。は。こ。き。そ。ふ。くら。ぶ。し。ら。ぶ。は。か。る。お。ほ。む。れ。ほ。ぼ。ち。が。ひ。や。や。い。ち。じ。る。し。よ。こ。き。

較 較校。カウ。比。較。し。て。考。へ。正。す。と。較比。カウ。ひ。き。く。ま。ぶ。る。と。比。較。較著。カウ。キ。は。立。ち。て。い。ち。じ。る。し。よ。こ。き。著。明。な。る。と。較然。カウ。著。明。な。る。貌。い。ち。じ。る。し。よ。こ。き。著。明。な。る。貌。い。ち。じ。る。し。よ。こ。き。

軾 シヨク。シキ。し。き。み。し。き。み。に。ふ。し。て。け。い。れ。い。す。
輕 ケイ。キヤウ。か。ろ。し。か。ろ。は。づ。み。か。ろ。が。ろ。し。か。ろ。さ。も。の。か。ろ。ん。す。は。や。し。
輕少 ケイ。わ。づ。か。い。さ。さ。か。す。こ。し。ば。か。り。

輕工 ケイ。手。數。の。か。か。ら。ぬ。細。工。
輕諾 ケイ。タ。か。ろ。く。し。く。う。け。あ。ふ。こ。や。す。う。け。あ。ひ。
輕刑 ケイ。輕。き。刑。罰。
輕帆 ケイ。ハ。ン。早。く。走。る。帆。船。
輕任 ケイ。シ。ん。か。ろ。さ。や。く。め。つ。ま。ら。ぬ。官。職。
輕死 ケイ。シ。死。ぬ。る。こ。と。を。何。と。も。く。な。り。た。る。と。手。が。ろ。く。し。て。す。み。や。か。な。る。と。
輕車 ケイ。ヤ。手。が。る。の。く。る。ま。小。車。
輕砲 ケイ。ハウ。口。徑。十。二。珊。以。下。の。大。砲。の。稱。
輕兵 ケイ。ヘイ。み。が。る。き。兵。士。輕。裝。舟。
輕舟 ケイ。シフ。小。舟。て。が。る。ぶ。ね。
輕肥 ケイ。ヒ。輕。き。か。ば。衣。と。肥。へ。た。る。馬。貴。人。富。人。に。譬。へ。て。い。ふ。語。
輕卒 ケイ。ソツ。か。る。は。づ。み。お。ろ。そ。ち。つ。か。ぬ。と。浮。薄。
輕佻 ケイ。テウ。か。ろ。く。し。き。と。お。

輕妙 ケイ。ウ。輕。く。し。て。巧。み。な。る。と。圓。滑。に。し。て。妙。な。る。と。
輕事 ケイ。ジ。さ。さ。や。か。な。る。事。柄。つ。ま。ら。ぬ。事。柄。
輕服 ケイ。フク。輕。さ。ふ。く。よ。さ。も。の。て。が。る。さ。い。で。た。ち。
輕侮 ケイ。ウ。あ。な。ご。り。か。ろ。ん。ず。る。
輕信 ケイ。シ。前。後。の。考。へ。も。な。く。む。や。み。に。信。用。す。る。と。
輕風 ケイ。フウ。そ。よ。そ。よ。と。吹。く。風。
輕便 ケイ。ベン。手。が。る。く。便。利。な。る。と。
輕重 ケイ。チュウ。か。る。き。と。お。も。き。と。
輕微 ケイ。ビ。わ。づ。か。す。こ。し。
輕易 ケイ。イ。や。す。き。と。て。が。る。き。と。
輕浮 ケイ。フ。う。は。き。も。の。か。ろ。が。る。し。く。實。目。の。な。さ。と。
輕減 ケイ。ケン。へ。ら。し。ひ。き。さ。ぐ。る。と。輕。く。減。す。と。
輕舸 ケイ。カ。は。や。ふ。れ。て。ん。と。又。
輕荷 ケイ。カ。船。の。積。荷。少。な。く。し。て。吃。水。の。浅。き。時。に。船。底。へ。積。み。込。む。砂。石。の。稱。か。る。き。荷。物。

輕紫 ケイ。シ。う。す。む。ら。さ。き。色。
輕鴨 ケイ。カ。鴨。の。後。部。に。青。き。光。澤。を。有。し。腹。部。淡。紅。色。に。し。て。黒。色。の。縷。紋。あ。る。鴨。の。變。種。
輕量 ケイ。リヤウ。か。る。さ。め。か。た。僅。か。な。る。量。す。こ。し。ば。か。り。の。か。さ。
輕寒 ケイ。カン。う。す。ら。さ。む。さ。き。と。
輕脚 ケイ。キヤク。早。走。か。る。き。あ。し。
輕輕 ケイ。ケイ。か。ろ。く。し。き。さ。ま。に。い。ふ。語。
輕業 ケイ。ギヤウ。身。が。る。に。動。く。危。險。な。身。が。る。の。よ。そ。ほ。ひ。
輕裝 ケイ。サウ。身。が。る。の。よ。そ。ほ。ひ。
輕銳 ケイ。ズイ。み。が。る。に。裝。ひ。た。る。す。ろ。こ。き。兵。士。
輕視 ケイ。シ。か。ろ。ん。じ。は。さ。ぐ。る。と。輕。く。見。る。と。
輕視 ケイ。シ。目。方。か。ろ。く。し。て。質。あ。ら。さ。き。と。
輕傷 ケイ。ウ。う。す。で。僅。か。な。る。き。ず。
輕罪 ケイ。ズイ。法。重。罪。の。對。禁。錮。罰。金。な。ど。を。課。せ。ら。る。罪。の。輕。さ。
輕裘 ケイ。セウ。か。る。き。皮。衣。う。す。も。

ののきもの。「低き」と。
輕然 ケイシ 身分などのいやしく
輕輩 ケイヘイ 輕き身分のものども
取るに足らぬものども。

輕蔑 ケイビョウ さげしむること。かる
んじ侮蔑すること。

輕籠 ケイコ 繩を縦横に交叉して
編みたるもの。の四隅に繩をつ
けたるもの。上に物をのせ棒を
以て肩にかかはる。

輕薄 ケイハク 思想のあさきこと。か
ろくてうすきこと。人に信實を盡
さぬこと。

輕舉 ケイキョウ 輕はづみなる舉動。
前後の思慮もなく事を行ふこと。
「妄動」。

輕騎 ケイキ 早馬にてはせとぶ騎
輕羅 ケイラ うすもの。うすき絹布

輕躁 ケイソウ かるがるしきこと。お
ちつかぬこと。「採るに足らず
輕金屬 ケイキョウ (比) 比重四以下
の金屬。

輕業師 カルワシ かるわざを興行
する人。輕業の技を演ずる人。
危険多き計畫などを立つるも
の。

輕禁錮 ケイキンコ (法) 一定の場所
に留置して定役に服役せしめ
ざるもの。

輕禁獄 ケイキンゴ (法) 内地の獄に
入れ定役に服役せしめざるもの。

輕懲役 ケイチュウエキ 懲役場に入れ
定役に服する懲役。「薄き人」。

輕薄子 ケイハクシ 威儀輕々しく德
輕氣球 ケイキキウ 絹布などの大な
る袋に水素瓦斯などを充たし
空中に飛揚するもの。

輕氣球隊 ケイキキウタイ 輕氣球に乗
りて地理・敵情其他軍事上の行
動をなす軍隊。

輕便鐵道 ケイベンテドウ 軌道又は
列車の規模通常のものより小
なる鐵道。

輕燒煎餅 カルヤセンペイ 砂糖を糯

の粉に加へて製し膨るやう
に焼きたるせんべい。
フ。ホ。ほほぼれ。うはあ
ご。そへぎ。たすく。こや
くにん。「る」と。

輔翼 ホク そばにありてたすく
輔佐 ホク 後見などして助くること
輔弼 ホク 助する。大臣が自
己の意見を君主に奉り其聰明
を啓くこと。「の臣」。

輔車 ホク づらがまち。車と車と
のそへぎ。相よりたすくこと。
「唇齒」。

輔仁 ホク 文を以て友を會する
輔世 ホク 世をたすくこと。
輔治 ホク まつりごとをたすけ行
ふこと。「の良材」。

輔行 ホク 副使をいふ。
輔佐人 ホクサ (法) 口頭辯論の際
原告若くは被告其他のものを
補助して其権利の伸張又は防
禦を爲す人。

輓 ベン。バン。 ひく。車をひく。
輓人 ベンジン くるまひき。又輓夫
といふ。

輓今 ベンコン ちかごろ。近時。又輓
近といふ。「と」。

輓推 バンスイ 前後より之を進むる
輓歌 輓をひきて野邊のお
くりななすときにうたふ歌。死
者を哀悼するうた。

輓 テフ。わきぎ。もつぱら。
すなはち。うごかす。

輓

輓の俗字。

輪 リン。わ。くるま。まがる
めぐる。きたみなみ。た
て。おほいなり。

輪子 リンシ 絲より車をつめのもの
とにつけて働きの止むるもの。
輪作 リンサ 毎年地をかへて作
4切

輪困 リンコン 高大なること。屈曲せ
輪伐 リンパツ 一箇所のみの林など
を伐らずに代るがはる伐ること。

輪次 リンジ つきつき。順次に。
輪座 リンザ くるまざ。團樂。

輪狀 リンジウ 輪のかたち。環狀。
輪姦 リンカン 數人して順順に強姦
すること。

輪直 リンチョウ かはるがはる番を
する。かはりば入のとまり。
輪廻 リンチ (佛) 死生・興廢・應報
などの恰も車輪の回轉するが
如くに終始することの義。

輪免 リンケン 建築物などのおも
ての立派なること。「なる大屋
輪番 リンバン まはりば入。交り番。
順番。「き形のつづみ。立鼓。
輪鼓 リンコ 能に用ゐる小鼓の如
輪勤 リンキン 順次に役にあたること
まはりづとめ。「路」。

輪道 リンダウ (理) 電流の周廻する

輪廓 リンクワク まはりのすぢ。かこ
みの線。顔だち。
輪會 リンクワイ めぐりあふこと。
輪鋒 リンボウ 金銅にて造りたる佛
具。形車輪の如く加持する時な
ごに用ゆ。もと印度の兵部なり
といふ。「車馬」。

輪蹄 リンテイ 車の輪と馬の蹄と。
輪環 リンクワン わの如くに廻ること。
まるき輪。「際なし」。
輪橋 リンキョウ そりはし。太鼓橋。
輪燈 リンドウ 佛前につるせる輪狀
の燈。
輪轉 リンテン 輪をまがきてまはる
こと。わなりにまはること。
輪講 リンカウ 書物など數人交番に
講釋すること。「と」。

輪讀 リンダク 數人順番に書を讀む
輪廻酒 リンシュウ 小便の異名。
輪裁法 リンサイフ 田畑などに於て
毎年一所におなじ物を作らず
かれこれ相かへて栽培する方

法。

輪轉機 リンゼキ 新聞などの印刷に使用せらる、機械、同時に両面の印刷又は二種以上の印刷を爲し得るもの。

輪袈裟 ワゲサ 袈裟の一種、幅二寸ほどにて環の如く仕立てたるもの。

輦

輦出 ハイシユツ 引き續きて出づること。文人一す。

輦

輦輿 レンヨ 貴人の自用車。てぐるま、みこし。

輦

輦下 レンカ 天皇の住み給ふ都の中。天子の御ひざもと。

輦道 レンダウ 宮中のみち。

輦路 レンロ みゆきのみち。天子の

御道路。

輦執 ンシツテ ぐるまをこしきと輦臺 レンゲイ 川を渡るとき人を乗せるもの。板に二本の棒を付けてかつぐ臺。

輦轂下 レンコクノモト 主上のましま

輦

輦朝 ラテウ 君主の朝政に臨みたまはぬこと。

輦

輦食 テラシヨク 食物をくひさしに

輦

輦重 シヨウ 兵糧、軍需品、軍隊に

輦重シヨウ 兵糧、軍需品、軍隊に

物を運搬する車。

輦車 シヤ 糧餉等を運搬する軍輦重兵 シヤウヘイ 輦重の運搬及監視に任ずる兵士。

輦重輸卒 シヤウウツウ 輦重兵の命令の下に輦重の運搬を務むる兵卒。

輦

輦匹 リヤウヒツ 車と馬との稱。

輦

輦輦 フク、ホク。ことしげり。

輦

輦輦 フク、ホク。くるまのや。あつまる。

輦輦 フク、ホク。くるまのや。あつまる。集まり、いたること。

輦射 フタキ 車軸の如く一點より其の周圍に一直線に射出すること。

輦射線 フタキセン (理) 一點より其の周圍に一直線に射出する波の方向、即ち熱線、光線の如きもの。

輦射相稱 フクシヤウシヨウ (動) 棘皮動物の體の各部が其の中軸の周圍に射出すること。

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

輦輸 シユ。ス。おくる。うつす

車部 十畫

輯合 シラガ あつめあはせれること。
あつまること。
輯叙 シラガ あつめてついでつること。
シラガ 和してむつまじきこと。
なままりむつまじきこと。

十 畫

轅

エン。チン。
ながえ。くびき。
轅下 エンカ 車のながえの下。轉じて部下のこと。

輦

エンモシ 軍門のこと。①に降カッ。クワイ。かりも。くさび。すべつかささざる。くるまのこま。

輶

カシ 楔子。くさび。コク。輪の正中。こしき。

穀擊 コダギ 車の心棒のすれあふこと。群衆なごのこみ合ふこと。①肩摩りの地。

車部 十畫

輻

チン。ウン。いくさぐるま。えびするま。ヨ。くるまのやかた。くるまのす。おふ。こものつかはれもの。おほし。もろもろ。こし。てこし。地道又は大地。

輿

輿人 ヨシ たくさんの人。衆人。くるま大工。
輿子 ヨシ がかき。輦夫。

輿臣

ヨシ 多數の家来。衆臣。

輿地

ヨシ 全體の土地。地球全體。

輿師 ヨシ 地理學の書物。地理書。ヨシ たくさんの軍隊。
輿徒 ヨシ たくさんの人から受くる人望。衆望。①を負ふ。
輿臺 ヨシ 身分いやしきもの。
輿論 ヨシ 社會多數の議論。世間輿論。

車部 十一畫

輿

一般の公論。「全國輿地圖」ヨシ 世界の全圖。地球輿論政治 ヨシ 國民多數の意思を基礎として政治を行ふこと。即ち立憲政治。代議政治などの類。
デン。デン。ネン。みづくるま。めぐる。まろぶ。きしる。「まろぶ」と。

輶

輶轉 シラガ 半廻轉すること。ふし

輶

輶轉 シラガ 輶をふまざるもの。句の稱。韻をふまざるもの。
輶句 シラガ 漢詩にて絶句の第三句の稱。韻をふまざるもの。
輶化 シラガ うつりかはること。
輶回 シラガ めぐりまはること。
輶用 シラガ 他へうつして用ゐること。ゆうづう。

輶地 シラガ 居住の地をかふること。

車部 十一畫

轉宅 シラガ 家宅を移すこと。居所をかふること。やうつり。又轉居といふ。「文字」
轉字 シラガ さかさまになりたること。横目に見かへること。
轉厝 シラガ 流し目に振りかへること。横目に見かへること。
轉官 シラガ 官職のかはること。任務のかはること。
轉借 シラガ 人の借りたる物をまた借ること。またがり。
轉付 シラガ 彼より此にうつしわたすこと。「を巻く所」
轉手 シラガ 琵琶の歌に貫きて終テシメン 轉職と免職こと。
轉免 シラガ うつし送ること。
轉送 シラガ 他の官職へ轉すること。
轉任 シラガ 揚所をかふること。
轉所 シラガ 三味線の頭のいとぐちらより海老尾までの間の稱。
轉軫 シラガ (法)他人の取得したる物件又は權利を更に其人より取得すること。

車部 十一畫

轉寫 シラガ 彼を此にうつしとる。やうつり。やくがへ。「こと」
轉役 シラガ つぎよりつぎへ傳はる。このなまり。
轉傳 シラガ つぎよりつぎへ傳はる。このなまり。
轉訛 シラガ 言葉のなまること。よつりやざる。やどかへ。
轉宿 シラガ うつること。所をかふること。移動。わたまし。
轉替 シラガ 他人よりかりたる物をまた他人にかすこと。またがし。
轉貸 シラガ 他人よりかりたる物をまた他人にかすこと。またがし。
轉換 シラガ 買買の目的となれる貨物を種々の運輸機關其他の方法によりて其の位置を轉ずること。
轉業 シラガ 職業をかふること。
轉意 シラガ 心のかはること。氣を入れかふること。「よみすること」
轉經 シラガ 僧侶の處處經をぬきテシゴ なまれること。或る

車部 十一畫

話より他の話へ移ること。
轉嫁 シラガ 再度のよめいり。罪過又は責任などを他にゆきつこと。(經)政府より租税を賦課せられたるものが直接に租税を納付し更に自己の物品を他に賣却又は貸與するとき代金又は貸料に包含せしめて自己の負擔せる税金を徴收するをいふ。
轉結 シラガ 漢詩の轉句と結句と記載すること。
轉載 シラガ 他よりうつし取りて記載すること。
轉勤 シラガ つとめ所のかはること。
轉筋 シラガ こむらがへり。
轉蓬 シラガ あちらこちら旅行して定まりたる所なきこと。
轉變 シラガ うつりかはること。うつしかふこと。
轉轉 シラガ うつりゆくさま又はころがりゆくさまにふ語。
轉讀 シラガ 字句を追ひて經文を

辛部 五—六畫

辛酸 シケン からきとすきと。轉じてつらくなんぎなること。器具に—を嘗む。

辛氣 シキ 氣をじらすこと。きぐらうなること。心のはればれせぬこと。

辛味 シミ からみ。からきあぢ。

辛楚 シシ いたみくろしむこと。

辛辣 シラシラ 味の舌をさすが如くからきこと。甚しくきびしきこと。

五—六畫

〔辜〕

コク。つみ。かならず。はりつけ。さまたぐ。ぼ。

辜人 ヨシ。つみびと。罪人。

辜較 コタ。大概。大略。

辜負 ヲ。そむくこと。

〔辜〕

サイ。セ。つみ。まが。罪の古字。シ。辭の俗字。

辛部 五—六畫

〔辟〕

ヘキ。ヒ。ヘイ。ハク。ヒヤク。きみ。つま。のり。あきらか。めす。かたよる。よこしま。そばだつ。うすし。つみ。ひらく。しりぞく。にらむ。さく。避陣。警除。弭等に同じ用ゆ。「人。

辟人 ヘキ。いざり。びつこひく。

辟公 ヘキ。諸侯をいふ。

辟召 ヘキ。政府等より呼び招かること。「おめしだし。

辟命 ヘキ。君王又は官府よりの。

辟雍 ヘキ。支那にて天子の學校にして大射の禮を行ひし所。

辟易 ヘキ。恐れひるむこと。驚き逃げ退くと。勢におそる。ト。銳鋒に—す。

辟馬 ヘキ。びつこの馬。いざり馬。

辟睨 ヘキ。斜目に見ること。横目に見ること。「しなとこ。密夫辟陽公ヘキ。ヨウ。まなとこ。かく。

辛部 七—九畫以上

〔癖〕

ラツ。ラチ。からし。辣薤 ラシキウ (植) 百合科に屬する草。葉はれぎに似て細し根は鹽漬などにして食ふ。

九畫以上

〔辨〕

ヘン。ベン。わか。つ。わきま。かばる。かふ。をさむ。ただす。そなふ。いたす。あまねし。とりあつかひ。古太政官の官名。辨金 ベン。金の融通をつくると。辨理 ベリ。事務をとりさばくこと。事務をさり扱ふこと。辨別 ベツ。是非善惡などをわきまふこと。區別すると。差別する。と。わかまへ。

辨事 ベシ。事を取り扱ふ人。

辛部 九畫以上

辨明 ベン。ときあかすと。あかりをたつること。

辨天 ベン。辨財天の略。美人。

辨償 ベン。他人に代て債務を果すと。物品を引渡す代りに金員を以て其義務を果すが如きこと。

辨濟 ベン。借金などを返却する。

辨慶 ベン。勝手道具又は團扇を挿しておくもの。たいこもち。

辨證 ベン。直覺若くは經驗によらず概念を分析して事理を研究すること。

辨當 ベン。他にて食事する爲に携帶する飯。

辨財天 ベン。佛。七福神の一。辯舌の才をたすけ智慧をも與ふるものなりといふ。辨天。

辨天娘 ベン。いと美しきむすめ。

辨證法 ベン。辯證をなす方法。

辨慶縞 ベン。石疊の模様を濃。

辛部 九畫以上

辛部 九畫以上

淡縦横にせる縞。辨慶草 ベン。景天科に屬し圓莖叢生し淡江花色を開く。す。さいこの一名。

辨理公使 ベン。全權公使の在らざる外國に駐劄して本國政府の命を受け外交事務を處辨するもの。

辨當官吏 ベン。辨當を携帶して出勤する下級の官吏。

〔辨〕

ヘン。ベン。シ。シ。ことば。つぐ。とく。こふ。ことわる。うつつたへ。

辭世 シ。死ぬること。死に臨んで遺しておく詩歌。絶命の詞。

辭令 シ。官吏の任免の沙汰書。應對する言語。あいさつ。

辭色 シ。言葉つきと顔色と。

辭別 シ。いとまごひをして別ると。告別。

辛部 九畫以上

辛部 九畫以上

〔辯〕

辯却 シ。いなむこと。辭典 シ。ことばを集めて解釋したるもの。又辭林・辭彙・辭書などいふ。辭柄 シ。いひぐさ。辭表 シ。職務を辭するとき差出す文書。辭氣 シ。こざげかひ。物いひぶり。辭退 シ。へりくだりて否むこと。辭訣 シ。暇乞して別ると。辭儀 シ。遠慮すると。辭退。あいさつ。あしやく。禮。辭謝 シ。ことわる。職職を辭すること。辭讓 シ。辭退して他人にゆづらむ。あきらか。あらそふ。をさむ。たいす。こまへ。の巧みなること。

漢文にて物事の是非眞偽を判別する文章の稱。辯口 ベンコウ しやべると。口のきき方。又辯舌といふ。

辯士 ベンシ 辯舌の巧みなる人。演説などをなす人。●演壇の。辯才 ベンサイ 口さかしきこと。辯舌の才。「開きすること。」

辯安 ベンアン 其事の妄なるをいひ辯明 ベンメイ 明らかに説きあかすこと。「前の達者なる人。」

辯解者 ベンゲイシャ よくしやべる人。口辯 ベン 事由を述べていひ開くこと。いひわけ。「もと。」

辯論 ベンロン 言ひ争ふこと。議論す辯疏 ベンソ 言ひわけすること。言ひひらきすること。「もと。」

辯駁 ベンバク 他の言論をいひ破る辯難 ベンナン 言論を以て非難すること。いひ争ふこと。●攻撃す。

辯護 ベンゴ 言葉を以て其人の利益を保護すること。其人の利益な

辯護士 ベンゴシ 辯護をする人。辯護士。刑事被告人の辯護をなすもの。

辯護士會 ベンゴシカイ 各地方裁判所毎に組織せらるる其の所屬辯護士の團體。

辰部

辰 シン シン。十二支の一、たつ。ひ。さき。えと。やどり。

辰砂 シンサ (化) 水銀と硫黄との化合物。薬用又は塗物用に供す

辰宿 シンシュク ほしのやどり。ジヨク。ニク。けがす。はづかしむ。かたじけなし

辱汚 ジヨク はづかしめけがすこと

辱交 ジヨクカウ かたじけなく交際をかうむること。しりあひ。

辱劔 ジヨクケン けがしはづかしむること。はづかしむること。

辱知 ジヨクチ しりあひとなること。相交はるることを謙遜していふ語。●諸君に謹告す。

辱友 ジヨクユウ 目上の友に對して自分の地位をいふ敬語。●諸君に謹告す。

農

農夫 ノウフ 農業に従事する人。もの。雇はれて農業に従事する人。

農民 ノウミン 農業に従事する民。農作 ノウサク 耕作のわざ。農事。つくり。

農具 ノウク 農業を爲すに用ゐる農事 ノウジ 百姓のしごと。耕作の

業。「作物を育ててとる。」
農耕 ノウカウ 田島を耕作すること。
農務 ノウム 農業に關する仕事。農業上の政務又は事務。
農家 ノウカ 農業を営む家。百姓家のいそがはしき期節。又農期のいふ。「さいふ。」
農間 ノウカン 農業のひま。又農隙
農功 ノウコウ 農のしごと。
農談 ノウタン 農事に關する談話。
農兵 ノウヘイ 平時農業に従事するものをも徴收して組織したる軍隊。又その軍隊に屬する兵士
農圃 ノウボ はたけ。田島のこ。
農桑 ノウサウ 農事と養蠶と。
農業 ノウギョウ 土地を使用して有用なる植物を栽培し又は有用なる動物を飼養し以て人生の生活に必用なる貨物を生産する農婦 ノウフ 百姓女。「と。」
農父 ノウフ 百姓おやち。「と。」

農産 ノウサン 農業の生産物。
農相 ノウサウ 農商務大臣の異稱。
農會 ノウカイ 農事の改良發達を圖るために立てたる公共團體。市町村農會・郡農會・府縣農會等の別あり。
農學 ノウガク 農業上の原理原則を研究する科學。
農繁 ノウハン 農事の多忙なる時。
農藝 ノウゲイ 農事と園藝と。作物をつくること。
農穡 ノウソク 作物を植付くこと之を收取すること。農業のこと。
農學者 ノウガクシャ 農學を修むる人農學に長じたる人。
農務局 ノウムキョク 農商務大臣の意思を承けて農事・蠶・茶・家畜衛生及び狩獵に關する事務を掌る農商務省の一局。
農産製造 ノウサンセイゾウ 農産に多少の手續をかけて粗製品となす。

農業時代 ノウギョウジダイ (經) 人類が農業を主たる業務とし漁獵を副業とする時代。
農業學校 ノウギョウガク 農業に従事するものに必須なる教育を施す所。
農工銀行 ノウコウギンカウ 農工業の改良發達に要する資本の貸付を爲すことを目的とする株式會社。「應用する化學。」
農藝化學 ノウゲイケガク 農業上に農商務省 ノウムシヨウ 農・工・商の事業及び專賣特許などの事を司る役所。
農事試験場 ノウジケンギヤウ 農事に關する種々の事項につきて試験をなす所。
農事講習所 ノウジカウシヨ 農の事に従事せるものに必要なる事項を講習せしむる所。
農商務大臣 ノウムシヨウダイジン 各省大臣の一。農・商・工・水・産・林

野・嶺山・發明・意匠・商標及び地質等に關する事項を管理するもの。

走部

〔走〕 チャク。こゆ。たすむ。はしる。

二畫

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迂〕 (國字)。つじ。十字街。みちばた。ちまた。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔迅〕 (國字)。こむ。こみ。シヨウ。ニヨウ。ゆく。およぶ。

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

〔返〕 (國訓)。かへす。またきたる。さる。かへす。た

對して答ふる語。こたへ。又返事に作る。『つ料。返信料』

返

送

送

近

近上 キンギヤウ 現在の時代をしるしめさす天皇。『ち。』

近日 キンギヤウ ちかきうち。そのう近午 キンギヤウ ひるまへ。

近世 キンギヤウ ちかごろの世。近き世。近古以後の世。

近什 キンギヤウ 詩文などの近頃になりたるもの。『供費覽。』

近火 キンギヤウ 近所より出でたる火

近刊 キンギヤウ 近頃の出版。近き内に書物などを出版する。『』

近

近

近

近

近臣 キンギヤウ おそば付の臣下。近村 キンギヤウ 近邊の村。ちかきあたりの村。『の。』

近作 キンギヤウ 近頃こしらへたるもの。『』

近在 キンギヤウ 近き田舎。都市に遠からぬ田舎。『といふ。』

近况 キンギヤウ 近頃の有様。又近状近思 キンギヤウ 自己の身に體して考へみる。『』

近幸 キンギヤウ 近づけ愛すること。『』

近近 キンギヤウ 遠からず。近きうち。近侍 キンギヤウ おそばやく。近臣。こ

近所 キンギヤウ 近きところ。このあたり。又近傍。近邊といふ。『』

近

近

近

近

近來 キンギヤウ ちかごろ。このごろ。近郊 キンギヤウ 都近くの野邊。ほどこかき野。『散策。』

近者 キンギヤウ ちかごろ。頃者。『』

近信 キンギヤウ ちかごろのたより。近迫 キンギヤウ ちかよると。近接する。『の國。』

近國 キンギヤウ 近まぼりの國。近所近接 キンギヤウ ちかづく。接近。『』

近窺 キンギヤウ ちかよりて見ると。『』

近郷 キンギヤウ ほど近き田舎。都市に遠からぬ田舎。『』

近眼 キンギヤウ 近視の眼。ちかめ。前途を推察すること能はざるもの。『者流。』

近海 キンギヤウ 海の陸地に近き部分

近算 キンギヤウ (數)眞の値を求むるに能はざるさき之に近き値を算出する。『』

近稱 キンギヤウ (文法) 自身に近き物事又は場所用ふる代名詞。『』

近着 キンギヤウ ちかごろ到着したる。『の雑誌。』

近時 キンギヤウ いまごろ。このごろ。『』

近數 キンギヤウ (數)或數の眞價に近き數。例へば七八六・二八七の近數は七八六・二八なりといふが如し。『』

近業 キンギヤウ 近ごろ出來たる著述。又詩歌などの稱。『』

近畿 キンギヤウ 畿内に近き邊。帝都の附近の國々。都近き地方。『』

近親 キンギヤウ 血すぢの近き親類。ちかきみより。血屬。『の下。』

近穀 キンギヤウ 天子のお膝下。叢穀近隣 キンギヤウ となりきんじ。近所。『旅行。』

近縣 キンギヤウ 近まぼりの縣。『』

近邇 キンギヤウ ちかきと。『』

近古史 キンギヤウ 近世と中古との間の歴史の稱。我が國にては後鳥羽天皇の文治二年より後陽成天皇の慶長八年までの歴史を稱す。『』

近世史 キンギヤウ 近古以後の歴史。我が國にては後陽成天皇の慶長八年より明治維新までの歴史の稱。『』

近日點 キンギヤウ (天)遊星・衛星又は彗星が太陽に最も近き位置。『なご。』

近視眼 キンギヤウ ちかめ。近視のま近似値 キンギヤウ (數)無理數を扱む所の二つの有理數を此無理數の近似値といふ。『』

近眼鏡 キンギヤウ 物の近く見ゆるやうに作りたる凹眼鏡。『』

近衛兵 コノエイ 皇宮をまもり奉る兵士にして赤き筋の入つたる制帽を冠れるもの。『』

近衛府 コノエラ 古宮城近くに居りて警衛に任ぜし役所。左右に別れ各大將以下の武官あり。『』

近

五畫

述

述命 ジュツメイ 命に従ふ。『』

述作 ジュツサツ 書物を著はすと。著はしたる書物。著作。『』

述懐 ジュツワグワイ 思ひをのぶると。過さざりたることを想ひ陳ぶると。『往年をす。』

述職 ジュツシヨク 大名が天子の都へ赴つ。申しあぐる。『』

述奏 ジュツソウ 申しあぐる。『』

述敘 ジュツシヨウ のぶると。テツ。イツ。かばる。たがふ。おかす。つく。にく。はなる。『』

送

糸部 五畫

迭置 テツチ かはり／＼に置くこと。
迭遷 テンシ かはり／＼うつすこと。

迫 ハク ヒヤク。すみやか。きびし。せまる。

迫脅 ハクタク。せまりおびやかすこと。

迫厄 ハクタク。迫り苦むること。

迫難 ハクタク。なんぎに迫ること。

迨 タイ。テ。速に同じ。

迦 カ。ケ。速に通じ用ゆ。佛陀の名。

迦葉佛 カエツブ(佛)過去七佛の一。人生の二萬歳のとき娑婆世界に出現せりさいふ、即ち釋尊の前身なり。

糸部 五畫

迦陵頻伽 カリヨヒカ(佛)極樂淨土に棲みて死ぬるをなしといふ想像の鳥。

迴 ケイ。ギヤウ。とほし。はるか。ひかる。かがやく。

迴遠 ケイエン。遙に遠きこと。又迴還といふ。

迴隔 ケイカク。遠く隔たりたること。

迤 イ。タ。つらなる。

迤 イ。タ。つらなる。

迢 テウ。デウ。はるか。たかし。「ふ語。

迢迢 テウテウ。はるかなるまきに。テウテウ。さほくはるかなること。

迎 ゲイ。キヤウ。あふ。むかふ。まちうく。あらかじめかぞふる。

糸部 五畫

迎寒 ゲイカン。陰曆八月の異稱。迎接 ゲイセツ。迎ふること。迎へてなす。

迎親 ゲイシン。結婚すること。

迎陽 ゲイヤウ。春を迎ふること。立春。迎阿 ゲイア。人の心をむかへておれりへつらふこと。

迎迓 ゲイガ。出でむかふこと。

迎立 ゲイリツ。他より迎へておしたつること。「くりむかへ。

迎送 ゲイソウ。迎ふると送ると。お迎聘 ゲイペイ。迎へよぶこと。他より迎へてかかへること。

迎火 カカヒ。盂蘭盆に亡者を迎ふるための門火。

迎雲 ゲイウン。佛の化身を迎ふるため。又は死者を極樂に迎ふるために天くだるといふ紫の雲。むかへのくも。

迎年 ゲイネン。年を迎ふること。新年を迎ふること。又迎春・迎歳といふ。

糸部 六畫

六畫

逆

逆 ゲキ。ギヤク。さかふ。もとる。よこしま。つみの。ぼせ。さかしま。むかふ。しりぞく。あらかじめ。勇にして事にあたらずること。(數)一の定理の假定と終結とを轉倒して得たる定理。

逆上 ギクシヤウ。のぼせると。喪心すること。

逆手 ギクテ。柔術にて人の組みつきたるを逆を受けて防ぐ法。

逆水 ギクスイ。さかさに流る水。他の水流と反對に流るる川の。水。

逆臣 ギクシン。君にそむきたる臣下。むぼんにん。

逆行 ギクカウ。さかさに行くこと。物事の順序を顛倒して行ふこと。(天)遊星の運行が西より東に

糸部 六畫

向はずして時として東より西に向ふが如く見ゆること。

逆命 ギクメイ。仰を承はると。命令にそむくこと。

逆戻 ギクレイ。ねぢられること。

逆流 ギクレイ。さかさに流ること。流にさかふこと。

逆流 ギクレイ(佛)生死の流に逆ひ六塵に染まず聖道に入ること。

逆徒 ギクテ。わるものごも。君に叛きたるともがら。「み。

逆浪 ギクライ。さかまく浪。さかな吹きくる風。「手に入る」と。

逆取 ギクシュ。無理のしかたにて老人が生き残りてその回向なごすること。「かさの道理。

逆理 ギクリ。道理にそむくこと。さ

逆德 ギクタク。道に従はざる行ひ。

逆産 ギクサン。さかさに子の生るること。さかこ。

糸部 六畫

逆賊 ギクソク。反逆したる賊徒。

逆連 ギクレン。あしき運命。逆の非なること。「心。又逆心といふ。

逆意 ギクイ。むぼんの心。そむくこと。

逆境 ギクキョウ。志ならず失意の場合。運命の非なる境涯。

逆縁 ギクエン。さかさまの縁。子が親に先きだち死ぬるが如きこと。「て逆に攻めうつこと。

逆擊 ギクゲキ。寄せ来る敵に向ひ逆櫓。サカ。船を漕ぎもごすため。に逆に設けたる櫓。「び。

逆旅 ギクリョ。はたごや。やごや。たさるに我れより之を迎ふること。

逆詐 ギクサ。人の未だ我れを欺かざるに我れより之を迎ふること。

逆説 ギクセツ。主義又は意見の反對なる議論。「觸る。

逆鱗 ギクリン。天皇の御怒。觸る。逆睹。ギクト。まへかたより其物事の如何を推知すること。

逆襲 ギクシヤウ。守勢の位置にありたる軍隊が攻勢の位置に變じ

送還 ソウワン おくりかへすこと。
送兵 ソウヘイ 兵士を輸送すること。
送幣 ソウヘイ 幣物をおくりやること。
送電 ソウデン 電流をおくこと。
送傳 ソウデン つぎより次へ送ること。
送達 ソウダツ 一定の機關を経て書類等を甲者より乙者に送り届ること。

逆比例 ギヤクヒレイ (數) 甲數が數倍せらるれば乙數は同數分せらるゝ關係あるとき甲乙二數は相逆比例すといふ。
逆爲替 ギヤクカハセ 爲替手形の所持人及び其裏書人が其前者に對し償還金額の取立を爲す目的を以て其償還を爲さしめん爲に前者を支拂人として手形を發行すること。
逆旋風 ギヤクセンフウ (地) 地表の一點に高氣壓生ずるとき此部より四方に向ひ螺旋狀に旋動して吹く風。

送假名 オウリガチ 漢文を訓讀するときその語尾の音を漢字の右

送

逃 コウ。グ。たまさかであふこと。タウ。ドウ。かくす。まじろく。のがる。にぐ。さくまぬかる。

逃去 タウキョ 逃げさること。逃走。逃走。タウソウ にげ走ること。逃亡。タウキョウ 受くべき刑罰をのがること。

逃遁 タウテン にぐる。のがる。逃散。タウサン にげちること。逃亡。タウキョウ 逃げがること。逃嫁。カカハをすて、逃走して

逃刑 タウキョウ 受くべき刑罰をのがること。
逃匿 タウタク にげかくること。の

逃軍 タウケン 軍隊より逃亡すること。戦ひ敗れて單身難を逃るること。逃潜。タウセン にげひそむこと。逃逸。タウイツ にげうせること。のがれさること。

逃

逃名 タウイ 世の中をのがれかくること。◎一責を免る。
逃避 タウビ にげかくること。のがれさること。

逃竄 タウセン 逃げかくること。クワツ。クワチ。すみやか。とし。はやし。ソウ。ス。おくる。やる。したがふ。いたす。つかはす。はなむけす。みおくり。

送別 ソウバツ 旅立つ人を見送ること。又送行といふ。
送迎 ソウゲイ 送りむかへ。
送宴 ソウエン 送別のさかもり。
送致 ソウジ 送り届くこと。届くること。
送付 ソウフ 送りわたすこと。「こと」。
送本 ソウホン 書物をおくりやること。
送意 ソウイ おくりすること。おくりよする心。「りもの」。
送賻 ソウ 死を弔して送るおくりもの。

送還 ソウワン おくりかへすこと。
送兵 ソウヘイ 兵士を輸送すること。
送幣 ソウヘイ 幣物をおくりやること。
送電 ソウデン 電流をおくこと。
送傳 ソウデン つぎより次へ送ること。
送達 ソウダツ 一定の機關を経て書類等を甲者より乙者に送り届ること。

送金 ソウキン 金を送ること。
送状 ソウジヤウ 物を送る時に其の員數などを書き添へたる書面。
送籍 ソウセキ 戶籍を送ること。本籍を削りて他に入籍すること。
送款 ソウケン よしみを通すること。うらざりすること。
送葬 ソウサウ のへおくり。死人を葬りに行くこと。「もどす」。
送却 ソウキョク 送りかへすこと。送り送別會 ソウベツカイ 見送りの意を表する爲めの會。
送假名 オウリガチ 漢文を訓讀するときその語尾の音を漢字の右

退却 タイキョク 後へ退くこと。敗軍などの爲めに軍隊の退くこと。
退色 タイシヨク 色のさむること。色のうすくなること。「いんきよ」。
退老 タイロウ 年老いて隱居すること。
退身 タイシン 官を辭して身を退くこと。世をさけて閑居すること。
退社 タイシャ 會社などを退くこと。社員が其社員たる地位を脱退すること。
退軍 タイケン 軍勢をひきあぐること。
退官 タイカン 官職を退くこと。官をやむること。「ること」。
退舍 タイシャ 寄宿舎などを退き去ること。
退治 タイジ 敵又は妖怪などを打ちたばすこと。◎妖怪!。
退嬰 タイエイ あとへしざること。しりこみすること。
退滅 タイメツ 少くなること。へること。
退守 タイシュ しりぞき守ること。
退廷 タイテイ 朝廷よりしりぞくこと。法廷より退出すること。

退屈 タイラウ うみて屈すること。なすことなくしてくだぶること。
退然 タイセン よわ／＼しき貌。
退遁 タイテン 退きにくること。
退居 タイキ 世を退きて居ること。
退紅 タイワウ うすき桃色。古桃色の狩衣を着て履傘などを持ちし下官。「を離れての考。
退思 タイシ 退きて考ふること。局面退歩 タイホ 歩み退くと。あともどりすること。「りすること。
退後 タイゴ 後へ退くと。あともどり退食 タイシヨウ 食物の量をへらすこと。食慾の進まぬこと。「こと。
退懼 タイキウ おそれしりごみする退筆 タイヒツ さきのきれて用ひられざるに至りし筆。
退耕 タイコウ 農に歸すると。官をやめて田畑を耕やすこと。
退校 タイガウ 生徒の學校を退くと。生徒を學校より放逐すること。又退學といふ。
退病 タイビョウ 病勢の輕くなること。
退陣 タイジン 軍陣を引き拂ふこと。退軍。「延より退くと。
退朝 タイテウ 廟堂を下がること。朝退任 タイシ 其任務よりしりぞくこと。「くこと。
退役 タイヤク 職を退くと。役をひ退散 タイサン 集まれる人などの退き逃ぐること。群衆などの四方へ散り退くと。ばらばらに散ること。
退潮 タイテウ ひきしほ。「去ること。
退席 タイセキ 其席を退くと。席を退隱 タイイン 長く勤めし官職など退きて閑散の身となること。老いてつとめをひくと。
退路 タイロ 逃げみち。退き去るみち。「敵の―を扼す。
退廢 タイハイ いきほひ衰へて物事のすたると。わるくなること。
退避 タイヒ 退きさくこと。からだをひくと。「ちまると。
退縮 タイシュツ しりごみすること。ち退轉 タイテウ 身代潰れて他に移り轉ずること。うつりかばること。
退閣 タイカク おろかなるものをしりぞくこと。
退職 タイシヨウ 職務をしりぞくと。退讓 タイジヤウ 退きて人に譲ること。退きゆづること。「時間。
退廳 タイテイ 役所を退きさること。退隱料 タイインリョウ 退隱したる人に給與する年金などの稱。
退官賜金 タイクワンミキン 滿一年以上在職したる退官者に賜はる一時賜金。
退凡下乘 タイボウゲジョウ 釋迦牟尼御世五十年の頃多く靈鷲山に在りて説法す摩訶陀國王頻沙羅之を聞か人が爲め道を開きて山岑に至ると五六里中間に二の卒塔婆を立つ一は下乗此所より徒行す一は退凡一切の凡人をして此所より内に入らしめずさいへり。

追 シュン。シュン。こころ。さきんす。レイ。テイ。レツ。さへぎ。みちきよむ。とどむ。さきばらひ。ツ井。タイ。ス井。おふ。おひかく。みおくる。したがふ。およぶ。すくふ。さかのぼる。さぐ。
追分 オウブン 街道の左右に分るること。おひわけぶしの略。
追及 オウキツ 追いつくこと。(法) 占有者に異動を生ずるも其物件を追ふて権利を行ひ之を取戻すを得ること。
追申 オウシン 手紙などの本文に附け加へて末尾に書くと。又追白といふ。
追加 オウカ 後からつけ加ふること。つき足すと。①豫算。
追北 オウホク 逃げ行くを追ひかくること。
追刑 オウケイ 追放の刑罰。
追求 オウキウ 後より又求め望むこと。
追尾 オウビ 跡を付け追ふこと。電報の受信人が指定の場所に居らざりし場合に其居所を追ひて傳送し交付する手續。
追兵 オウヘイ 追撃する兵。敵を追ひうつ兵。「すこと。
追伐 オウバツ おひかけて打ち滅ぼすこと。
追言 オウゲン 後から又言ひ出すこと。附け加へて言ふこと。
追究 オウキウ 追加の研究。ごこまでも追いつむること。
追放 オウハウ 徳川時代の刑名。住地より追ひ拂ふこと。おひはなつこと。①に處す。
追叙 オウキョ 本文に附加して叙すること。死後に位などを贈らると。
追行 オウカウ あさよりおひ行ふこと。あとをつけゆくこと。あとよりおひかけ行くこと。
追思 オウシ 過ぎ去りたる事などを追記 オウキ あとより書き記すこと。
追念 オウネン なくなりし人を思ひしのぶこと。思ひだすこと。
追送 オウソウ 伴ふて送り行くこと。物品の不足などをあとより送附すること。
追納 オウナウ 不足額をあとより納付すること。追加して納付すること。
追従 オウジユウ 後につきしたがふこと。あとにつきゆくこと。
追従 オウジユウ びへつらふこと。へつらひおられること。
追討 オウテウ 追ひ討つこと。國敵などを追ひかけて討つこと。
追捕 オウブツ 追ひかけて捕ふること。朝廷より人を遣はし各國の不良の輩を捕へしめられたること。
追逐 オウシュツ 追ひかくること。跡より追ふこと。つれあふこと。競争すること。
追記 オウキ あとより書き記すこと。

追部 六畫

本文の末尾に附加へ記すと。
追琢 ツキタ 後より又みがくこと。
 事後訂正すること。「ふと」
追贈 ツキソウ 死後に官位などを賜ふこと。
追惜 ツキセキ 人の死後其人を思ひ起して悼み惜むこと。
追完 ツキクワン 既に成したる物事の缺陷をあとよりおぎなひたすこと。
追奪 ツキダツ 死後其人の生前に受けたる官位などをとりあぐること。(法)一旦他人の権利に属したるものを自己にさりもどすこと。
追啓 ツキカイ 手紙などの本文に追加して書き送ること。
追考 ツキカウ あとより以前の物事に就きて考ふること。
追弔 ツキシウ 死者をとぶらふこと。
追善 ツキゼン 死者の冥福を祈りて佛事を營むこと。
追訴 ツキソツ 一旦訴へたる事柄に

追部 六畫

附加して後から訴ふること。
追跡 ツキセキ 跡をつけておひかくること。追尾。
追想 ツキサウ むかしの人又は事をおもひおこすこと。「と」
追賞 ツキシヤウ 後に褒美を興ふること。
追福 ツキフク 死者の冥福を祈ること。
追慕 ツキボ 死したる人などを思ひ出して慕ふこと。思ひ出してこがれ慕ふこと。
追徴 ツキテウ 後より不足額を取りたつること。追加して取り立つること。「と」
追擒 ツキキン 追ひ掛けて擒にすること。
追褒 ツキハウ あとより賞すること。
追罰 ツキバツ 主刑に附加してあとより罰すること。「り思ふこと」
追憶 ツキエク 思ひ出すこと。あさよ追撃 ツキゲキ にぐる敵をあとより追ひかけてうつこと。戦。
追薦 ツキゼン あとをつけておひかくること。

追部 六畫

追認 ツキニン 承諾を得て爲すべき事を承諾を経ずして爲したる場合に承諾を爲すべかりしものが事後に承諾と同一なる効力を興ふること。「なしむこと」
追悼 ツキダウ 死にし人をおもひか附き纏ふて離れぬこと。
追諡 ツキシ おくりなを送ること。おくりな。「據を立つること」
追證 ツキシウ 證據立てて後又證願 ツキクワン あとより追加して願ひたすこと。「と」
追録 ツキロク あさよしかき加ふること。
追議 ツキギ 本會議などにつけ加へて評議すること。
追懷 ツキワイ 過ぎ去りたる事又は人を思ひ出すこと。
追驅 ツキク 追ひかくること。跡より追ひ廻ること。
追儼 ツキゲン おにやらひをなすこと。おにやらひ。まめまき。

追部 六畫

追躡 ツキテウ 跡をつけ追行くこと。
追分節 ツキブンセツ 小唄のふしの名聲をながくひきて唄ふもの。
追捕使 ツキブツシ 昔國毎に置きてその國內の追捕の事を司りたる役。
追及權 ツキキヤクケン (法) 權利の目的物が後に何人の所有に歸するとも其主張に妨げなき權利。
追悼會 ツキダウカイ 追悼の意を表するための會合。「備す會」
追弔會 ツキシウカイ 追弔のためにツキタウシ 賊軍を追討せしむるため差遣する使。
追撃戰 ツキゲキセン にぐる敵をおひうちてたゝかふ戰爭。
追加條約 ツキカドウヤク 既定の條約に追加したる條約。
追加豫算 ツキカヨゼン (法) 必要避くべからざる經費及法律又は契約に基く經費に不足を生じたる場合に既成の豫算の追加

追部 六畫

として提出する豫算。
追尾電報 ツキビシデンパウ 追尾の手續による電報、和文にては「テラ」
 歌文にては「ツ」の符號を用ふ
追善供養 ツキゼンキヤウ 死者の冥福のためになす供養。
造 ツキ けつ。
 おどる。
 セキ。シヤク。あと。あし
 あと。あゆみ。ゆくへ。わ
 ざ。いさを。たづぬ。かん
 がふ。跡と同じく又續と
 通す。
 ハウ。ヒヤウ。遊に同じ。
 ろる。はしる。とばす。ち
 らう。
逆 ツキ 逆に同じ。
逆發 ハウハツ ほさばしりいづること
逆流 ハウリウ ほさばしり流ること
逆水 ハウスイ ほさばしり流ること
逆水 ハウスイ ほさばしり流ること
逆散 ハウサン ほさばしり散ること
飛散 ヒサン ほさばしり散ること。

迷部 六畫

迷開 ツキカイ ほとばしる事の意味を強めていふ語。
迷 ツキ 迷ひ。まよひ。まよふ。まよはす。
迷宮 ツキキウ 其中に入れれば出口のわからざるやうに作りたる宮殿。
迷目 ツキメ 目のまばゆくらむこと。
迷妄 ツキマヤウ まよひ。まどひ。まよひてまよひたる考を起すこと。
迷見 ツキミ 迷ひたる見込み。まよひたる見解。
迷信 ツキシン とりとめなきものなごに迷ひ信仰すること。正しからぬ信仰。「ふ」
迷陽 ツキヤウ 詐り狂するものない
迷津 ツキシン 方向に迷ふこと。渡場のあるところをふみまよふこと。
迷謬 ツキビウ まよひあやまること。
迷亂 ツキラン まよひみだること。
迷想 ツキシヨウ 迷ひ亂れたる考へ。

迷惑 イワク 迷ひわづらふこと。まどひ苦しむこと。「ひ易き路。

迷路 イロ 方角のわからぬ道。迷藏 イサカ 小兒の遊戯。かくれんぼ。

迷煩 イハン まよひわづらふこと。迷執 イイラ 迷ふて執着すること。迷ひ執着して離れぬこと。まよひ

迷夢 イム まどひ。迷ひたる考へ。鎖國の。

迷眩 イケン 目くらむこと。まよひて目のくるめくこと。

迷魂 イシン 死したるものなどの魂の迷ふこと。迷ひたる魂。まよひて浮かばれぬ精神。

迷廬 イロ 須彌山の稱。

迷信界 イシカイ 迷信の行はるる社會。

迷走神經 イソウシキイ 一種の神經。トウ。ツ。

洞 ツ。ツ。すぐ。まほる。とほす。

七畫

連

連。ラン。つらなる。まがる。ふんじや。つづく。しきりに。およぶ。なやむ。おそし。あらふ。一つ。つきに。つらなりたるものを數ふる語。西洋紙を數ふる語。

連木 レンキ すすりこぎ。

連夕 レンセキ 毎夜。又連宵といふ。「連り續けること。」

連山 レンセン つづきたる山。山の

連月 レンゲツ 毎月。つきづき。

連日 レンジツ 毎日。日々。「同伴。

連中 レンチュウ つれ。なま。くみ。

連天 レンテン 毎日。日日。

連及 レンキチ かり合ひ。つならり。およぶ。「まに打つこと。」

連打 レンダ つけつけうち。つけつけ

連印 レンイン 二名以上のものが連名にて一通の紙面に印を捺す

こと。又連判といふ。

連行 レンカウ つれだちて行くこと。共に行くこと。

連旬 レンジン 毎十日間。

連合 レンガフ つらなり合ふこと。各體が連りて一となること。

連名 レンメイ 名を連ぬること。數人の姓名を連ねしるすこと。〇一の證文。「歳といふ。

連年 レンネン 毎年。さしごし。又連

連坐 レンサ かりあひになること。まさぞへ。さもに罪に行はるる

こと。〇數人一す。

連作 レンサク 同一の地に毎年同一の作物をうゑつくること。

連尺 レンシヤク 二片の板に繩をつなぎて背につくるやうにせるものにて物を負ふ具。肩より腋下にかけてなゝめに背負ふこと。

連火 レンカフ 漢字の下に點の四つ並びたるもの、即ち烈・蒸などの如し。

連射 レンシャ 續けさまに矢・鐵砲などをはなつこと。

連借 レンシヤク 連名で物を借ること。連帶の責任にて借用すること。

連係 レンケイ つらなりのぶること。つられかゝること。

連雀 レンシヤク (動) 燕雀類中の鳥、山に棲み雀より較大なり。

連接 レンケツ 結び合ふこと。くつつき合ふこと。つらなりつづくこと。

連敗 レンバイ 續けさまに敗るること。たゝかふことにまкруること。まけつづく。

連連 レンレン おもむろに働かさま又はひきつづくさまにいふ語。

連累 レンレイ まきぞへなくふこと。かかりあひ。

連理 レンレイ 根を異にせる木の枝の相近く交はれるもの。男女交情のむつまじきにいふ語。〇一の枝。

連勝 レンシヨウ 續けさまに勝つこと。

連絡 レンラツ つづくこと。つらなること。つらなりつづくこと。

連着 レンチャク 物を荷ふるときに用ゐる具、二つの板に繩をつけこれに兩腕をとほして脊につくるもの。轉じて物を荷ひて賣り行く商人。

連綿 レンメン 引きつゞきて絶えずるさまにいふ語。〇皇統一。

連署 レンショ 一通の書狀などに二人以上の名を連れ記すること。

連枷 レンカ からのさをた。

連繫 レンケイ つながりつづくこと。つられつなぐこと。

連發 レンガツ つゞきさまにうちばなすこと。〇巨彈を一す。

連盟 レンメイ 一同のものが盟ひ合ふこと。同盟すること。「の苦。

連屨 レンル 打ち續く山道。永き間

連歌 レンカ 歌の上の句、即ち發句を一人が讀めば下の句即ち舉

連結 レンケツ つらなりむすばるること。つらねむすぶこと。

連朝 レンチウ あさこと。まいいさ。

連雨 レンウ つづけさまにふる雨。ながあめ。〇數句。

連呼 レンコ しきりに呼ぶこと。〇萬

連房 レンボウ ながや。「歳を一す。

連夜 レンヤ 毎夜。まればん。

連歩 レンポ 足なみをそるふること。

連枝 レンシ 一幹より出でたる二つの枝。姉妹。ばらから。深く契ること。「つづくこと。」

連延 レンエン のびつづくこと。引き

連岳 レンガク 連り重れる山岳。

連垣 レンケン 連りめぐらしたる垣根。かれきを。つづくこと。

連姻 レンイン 婚禮に依て親類となりたるもの。つゞき合ひの親戚

連帶 レンタイ 共に連なること。共通の權利義務を負ふこと。〇一の責任。〇一。〇一。〇一。〇一。

連峰 レンホウ つづきたる峰。連山。

糸部 七畫

糸部 七畫

糸部 七畫

句を一人が詠みつけて互に應答する。

連語 レンゴ 二語以上の言葉の連りて一語となれるもの。熟語。

連樓 レンロウ 高樓大廈の引き續けること。

連銭 レンゼン ぜにがた。錢形を連

連戦 レンゼン つづけざまに戦ふこと。毎戦。皆克つ。

連撃 レンゲキ つづけうち。續けざまにうつこと。「り重れる屋根

連菱 レンロウ つらなりたる瓦。連

連衡 レンカウ 横に連る。結び合

へし政策にして蘇秦の合縱を破り六國をして秦に服従せしめたる策。轉じて國際間の同盟

連翅 レンチャ (植)木犀科に屬する

灌木。蔓狀の枝條に春四瓣黃花を開く。「に聲を出すこと。

連聲 レンメイ 他の聲につれて一所

連類 レンルイ 仲間。同類。

連輸 レンシュ 續けざまに益すること。續けざまに損すること。

連環 レンクワン くさり。つづきわ。

連鎖 レンサ 鎖をつなぐこと。連なり

連續 レンゾク つらなりつづこと。

連纏 レンテン 附きまとふこと。

連纏病 レンテンビョウ 永くならぬ病氣。持病。

連比例 レンビレイ 數個の相等しき比を順次に並べたる比例式。

連環馬 レンカウバ 騎兵の乗馬を互にくさりにてつなぎあはせ一

齊に敵陣に突貫するもの。

連用言 レンヨウゲン (文法)動詞の用

言に連續すべき語尾の變化。

連歌師 レンカシ 連歌に長けたる人

徳川時代に連歌の事を司りたるもの。

連體言 レンタイゲン (文法)動詞の體

言に連續すべき語尾の變化。

連判狀 レンパンジョウ 約束の箇條を

しるし其次に同盟者の名をしるして連判したるもの。

連理枝 レンリシ 連理となれる枝

ちぎり深き男女又は夫婦。

連理契 レンリキ 夫婦又は男女

の永遠かはることなきいと睦じきらざり。

連城壁 レンジヤウキヤ 支那の古趙王

の所持せし名玉。秦王之を數個の城とかへんさ申送りしより

此名あり。

連珠砦 レンシュウ 多數のとりてを

互に相應援し得るやうにきづきたるもの。「借金。

連帶借 レンタイシャク 連帶にてなす

連山眉 レンサンメイ 長く横にひきたる眉。

連鎖法 レンサツフ (數)種々の名數

が順次相連繫する關係を知りて最初の名數と同種類の名數

若干量が最後の名數と同種類の名數幾何に當るかを見出す

糸部 七畫

糸部 七畫

糸部 七畫

逢

逢世 ホリヨイ 立身出世すること。

逢遇 ホリグワ 出で會ふこと。あふこと。

連發銃 レンパツジウ 弾を連發し得る裝置の小銃。

連續犯 レンゾクハン (法)同一の犯意を以て二個以上の單行犯をつづける罪。「たるもの。

連判帳 レンパンチャウ 連判狀を綴り

連帶債務 レンタイシャク (法)多數の債務者が債務の履行を確實ならしむる爲に各債務者が全部履行の義務ありとなす債務。

連錢革毛 レンゼンカウ 革毛に灰色

の斑點の交れる馬の毛色。

連帶證書 レンタイシャクシヨウ 二人以上の連帶なる證書。

ホウ。プ。あふ。でくはす

いであふ。むかふ。おほ

いなりのろし。

造句 ゼウク 句をつくりつくること。

造化 ゼウカ 萬物を造りなすこと。

造次 ゼウジ わづかの間に。いはか。

造花 ゼウカ 製したる草花。

造言 ゼウゲン 造りこき。無根のこ

造

造衣 ゼウイ 儒者の衣服。

造言 ゼウゲン 造りこき。無根のこ

造花 ゼウカ 製したる草花。

造次 ゼウジ わづかの間に。いはか。

造化 ゼウカ 萬物を造りなすこと。

造句 ゼウク 句をつくりつくること。

造言 ゼウゲン 造りこき。無根のこ

造花 ゼウカ 製したる草花。

造次 ゼウジ わづかの間に。いはか。

造化 ゼウカ 萬物を造りなすこと。

造句 ゼウク 句をつくりつくること。

造言 ゼウゲン 造りこき。無根のこ

造花 ゼウカ 製したる草花。

造次 ゼウジ わづかの間に。いはか。

造化 ゼウカ 萬物を造りなすこと。

造句 ゼウク 句をつくりつくること。

造作 ゼウサク 物を造ること。家屋の

戸障子などないふ。「附貸家

造作 ゼウサク てだて。しかた。てま。

造兵 ゼウヘイ 兵器を製造すること。

造詣 ゼウキ 學問又は技藝にいた

り及び又は熟練してある程合。

造語 ゼウゴ 造り上ぐる。出來

造酒 ゼウシュ 酒をつくること。

造船 ゼウセン 船舶又は艦艇を建造

すること。「くること。

造林 ゼウリン 樹木を植えて林をつ

造營 ゼウエイ 家屋などを建築する

こと。いとなみつくこと。

造幣 ゼウヘイ 貨幣をこしらふる

造意 ゼウイ 思ひ付き。かんがへ。

造形 ゼウケイ 形體をつくりこしら

造幣局 ゼウヘイキョク 貨幣の鑄造。

走部 七畫

走部 七畫

走部 七畫

鑄造・賞牌の製造・地金銀の精製及分析・諸礦物の試験を爲す所。
造兵官 ゼウヘイケン 兵器製造のこゝをたつかさどる高等官。
造船所 ゼウセンシヨ 船艦を建造し汽機・汽罐其他諸種の附属具を製造又は修理し且つ機装等を爲す工作場。
造物者 ゼウブツシャ 世界の森羅萬象を經營支配する神。「問」
造船學 ゼウセンガク 造船に關する學
造酒司 ミチツカサ 古宮内省に屬して酒・酢の事を司りし役所。
造神宮使 ゼウシノミヤノシ 伊勢神宮の神殿及び拜殿の造營又は神寶などを取扱ふもの。
造次頭沛 ゼウジノヘイ わづかの間僅少の時間。
造神宮使廳 ゼウシノミヤノシヤウ 伊勢神宮の造營又は神寶などの事を取扱ふ官廳、内務省に屬す。

造化奇妙 ゼウクワキョウ しゃあはせよきこと。つかふよきこと。
造化三神 ゼウクワノサンジン 神道にて天御中主神・高皇產靈神・神皇產靈神の稱。
造形藝術 ゼウケイゲイジュツ 繪畫又は建築などの如く形ある藝術。
速 ソク せはし。すみやか。はす。いやし。
速力 ソクリョク 速度の力。物の速に動く力。「がてん」
速了 ソクレウ はやのみこみ。はや
速決 ソクケツ 速に決定すること。手早く定むること。「きと」
速捷 ソクセツ てばやくこと。すばやく
速至 ソクシ すぐにいること。
速成 ソクセイ はやごしらへ。速かになしとぐること。「と」
速射 ソクシャ すみやかに發射する
速斷 ソクダン 速に決斷又は判斷す
速迅 ソクシン 迅速なること。「ると」

速速 ソクソク いやしげなるさま又は人の鄙陋なるさま若くは速きさまにいふ語。「くること」
速罪 ソクザイ 罪を招くこと。罪をう
速賓 ソクヒン 客を招くこと。
速度 ソクド はやさ。運動の遲速のほどあひ。(理)運動體が單位時間に進む距離。
速記 ソクキ 速に書きしるすこと。速記術にてしるすこと。「ると」
速答 ソクタ 問に應じ直に答ふ
速報 ソクホウ 猶豫なく報知すること。はやしらせ。「ると」
速辨 ソクベン 速かにさばきをつく
速寫 ソクシャ 速にうつしとること。
速健 ソクケン 早くして健者なること
速辜 ソクコ つみをまされきもこむること。
速記法 ソクキハフ 速記のしかた。一種の簡短なる符號を以て演説議論などを速かに書きとる法。又速記術といふ。

走部 七畫

走部 七畫

走部 七畫

速記者 ソクキシャ 速記術にて速記をす人。
速記録 ソクキロク 速記術にて速記したるものを文字にて書き直したる記録。
速射砲 ソクシャハウ 一種の閉鎖機・照準機等を用ひて速かに彈藥を裝填し彈丸を打ち出す火砲。テイ。チャウ。さほる。はしる。たくまし。こころよし。ただし。さし。きはむ。ほこる。
逞巧 テウカウ たくみなること。
逞勇 テウユウ たけいさましきこと
逞志 テウシ 思ふままにする。志をたほすこと。
逞快 テウクワイ 氣もちのよきこと。心よきこと。快樂をつくすこと。
逞疾 テウシツ 非常に速かなること。
逞行 テウカウ 疾く行くこと。速に行ふこと。敢て行ふこと。
逞兵 テウヘイ すぐれたるつばもの

逞雄 テウユウ 逞しきこと。たけきこと。トウ。ツ。なごる。すぐ。すく。すかす。とほる。とほす。おどろく。
透 トウ すすきとほる。物體の光をたほすこと。「とほる」と。
透中 トウチュウ 中をつきさほすこと。
透明 トウメイ トウイ。すすき透りて明らかなること。すすきとほる。物體の光をたほすこと。「とほる」と。
透過 トウカ 貫きとほること。すすき
透徹 トウテツ 水などのすすきとほれること。「と」
透晰 トウセキ はつきりさ明かなること。とほすこと。
透穿 トウセン 穿ちとほること。つきとほすこと。
透綾 トウレイ 生絹に似て薄く物のすすきとほりて見ゆる織物。
透視畫 トウシツ 物體を遠近に從ひて眼に映する大きさの割合に畫く法。
透明體 トウメイタイ 透明なる物體。生地すすきて見ゆるもの。

透中直線 トウチュウチョクセン 中央を貫く直線。
逝 セイ せい。ゆく。さる。ほる。ぶ。こころに。
逝去 セイキ 死ねること。死去。
逝者 セイシャ 死したるもの。①再び還らず。
トウ。ツウ。とほる。とどく。およぶ。いたる。つらぬく。すぐ。のぶ。ひらく。まうく。ゆきかふ。まじはる。しめくくり。みな。すべて。あまねく。かよひ。人情にゆきわたりにさばけたること。其の物事にゆきわたりによく知りて居ること。さばりなきこと。
通力 ソウリキ 神佛の力。不思議の力。萬事萬物に通じて自由自在なる不思議の力。
通人 ソウジン 世事にあかるき人。

示部 七畫

示部 七畫

示部 七畫

人情に通じて粹なる人。花柳社會の事情に通ぜる人。又通士・通客といふ。

通告 ツウコウ つげしらすこと。

通加 ツウカ すべてを加ふる事。

通式 ツウシキ 一般の式。「合」。

通比 ツウヒ すべてに通じたる割合。

通分 ツウブン (數)分母の異りたる分數を變じて公分母を有する分數となす事。「ふ」。

通音 ツウオン (文法)音と音と相通性。ツウイ 一般のもの、具有する性質。又通有性といふ。

通涉 ツウシャ ひろく物事にゆきわたりにて知りてある事。

通用 ツウヨウ 貨幣などの世に流用せらるる事。雙方に通じて用ひらるる事。一般に通じ用ひらるる事。①一般の「」。

通行 ツウカウ 通ひ行く事。往來する事。

通有 ツウウ 凡てに行き渡つてある事。凡ての物に等しく備はり

て有する事。②人間の「性」。

通好 ツウカウ 好を結ぶ事。交際する事。交りを通ずる事。

通見 ツウケン 残らず見ると。始めより終まで目を通ずる事。

通欸 ツウケン ひそかにまことな敵につうずる事。うらざり。

通稱 ツウケウ 普通にとなる名稱。一般に通ずる名稱。

通法 ツウハフ 一般の場合に通じたる法則。(數)種々の單位にて表はされたる量を一つの單位にて表はす事。

通判 ツウパン 宋の太祖の置きたる役。州郡の軍民の政を掌る。

通例 ツウレイ ならはし。しきたり。慣例。なみ。世の常。

通券 ツウケン 通ひの切手。通りてかた。通行免狀。

通明 ツウメイ 奥底まで明るき事。あまねく行きわたりにて明かなる事。③事理に「す」。

通知 ツウチ しらせる事。報知。沙汰。告げ知らす事。しらせ。又通報といふ。

通夜 ツウヤ 寺などに籠りて終夜祈ると。死者を葬らぬ前に親類などの人人が終夜守り居ると。通宵する事。徹夜。

通事 ツウジ 通辯。外國語を自國の語に自國語を外國語に直して話すと。又其人。又通辯・通譯といふ。「全體の定則」。

通則 ツウツク おしなべたる規則。

通差 ツウサ いづれにも通じたるちがひ。「通ずるおきて」。

通律 ツウリツ 一般の規律。一般に「す」。

通信 ツウシン 音信する事。たよりする事。電信・電話・郵便其他の機關又は手段によりて相互の意思を通ずる事。「はす」。

通穿 ツウセン 穿ち通ると。穿ちと「す」。

通俗 ツウツク 世事一般に通ずると。誰にも分り易き事。

示部 七畫

示部 七畫

示部 七畫

通流 ツウリウ 水などを通はせ流す事。つらぬき流るる事。「し」。

通宵 ツウコウ 夜を通ずる事。よどほ「し」。

通規 ツウキ 一般に適用せらるる規則。「し」。

通船 ツウセン 通ひ船。ゆきかよふ事。「し」。

通理 ツウリ 普通の道理。一般に通ずる道理。「算」。

通計 ツウケイ しめだか。全體の計。「算」。

通常 ツウジョウ なみ。なみなみ。つれ。通例。尋常。

通開 ツウカイ 道のさわりなく開くと。故障を排除して道を開くと。

通典 ツウテン 一般ののり。「し」。

通國 ツウコク くちゆう。ぜんこ。「し」。

通航 ツウカウ 船舶の通行。

通商 ツウショウ 内外兩國人の互に交通して商事を營む事。往復して商業を營む事。①條約。

通視 ツウシ ヤぶにらみ。斜視。

通貨 ツウカ 世間一般に通用する貨幣及紙幣。

通問 ツウモン 相互にあいさつする事。互になづぬる事。

通情 ツウセイ 情を通ずる事。普通一般の人情。普通の事情。

通過 ツウカウ 通りすぐる事。議會にて議案の否決ならざる事。

通勤 ツウキン 通ひて勤む事。

通患 ツウケン 一般に渡つての心配。彼我共通の憂。すべてのもの、弊害。②社會の「」。

通韻 ツウウン (文法)五十音圖中同じ列の聲のひびきの相通ひて變化する事。「道。公道」。

通道 ツウダウ 自由に往來し得る事。

通達 ツウタク 行き届くと。つらぬきいたると。いたりつくこと。造詣ふかき事。

通透 ツウツウ つらぬき通れる事。つらぬきとほす事。「し」。

通牒 ツウテウ かきつけにて知らす事。

通帳 ツウチャウ 商家にて得意先きへ掛け賣りする毎にその品・金

高・月日などを記して後日の證にする帳簿。かよひ。

通鼓 ツウコ 太鼓をならして全體のものに相圖となす事。ふれた「し」。

通話 ツウワ 電話などにて話をす事。「し」。

通語 ツウゴ 普通語。世間一般に通じて用ゐらるる言葉。又通言といふ。「し」。

通路 ツウロ 通ひみち。常に往來す事。「し」。

通運 ツウウン 運ぶ事。荷物などを運送する事。「憂」。

通憂 ツウウ 一般の心配。共通の「憂」。

通曉 ツウコウ 物事を能く知りさる事。③學藝に「す」。

通塞 ツウサク とほるとふさがると。運・不運。「かに見ると」。

通察 ツウサツ 見抜くと。全體を明「し」。

通暢 ツウチャウ とご。ほりのなき事。のびのびとせると。

通義 ツウギ 世間一般に通ずる道理。④天下の「」。

定部 七畫

通學 ツウガク 學校又は塾へ通ふこと。
通窮 ツウキウ 通ずると窮ずること。
よき運命とわるき運命と。

通誼 ツウギ 普通に踐行すべき人の道。
の道。①人生の道。②業の道。
「業」

通弊 ツウヘイ 一般にしみわたる悪しきならはし。
①社會の。②社會の。

通論 ツウロン 世間一般の論。著書などの巻首に其大體を論じたるもの。よく萬物の道理に通じてるもの。

通謀 ツウバウ 謀を互にしめし合せたる論。
「る」。

通線 ツウセン 糸をとほすと。隠れたる秘密を露にしらせること。

通徹 ツウテツ つらぬき通れること。つらぬきとほすと。

通算 ツウサン 全體をひきくるめて計算すること。

通観 ツウカン 残らず目を通すと。ツウカン 全體に目をとほすと。

定部 七畫

通衢 ツウキ ゆききの道。往來。通有性 ツウイウセイ 一般のものに亘りて具有せる性質。

通用口 ツウヨウクチ 常にゆき通ふ出入口。勝手口。

通用門 ツウヨウモン 常に出入する門。
通風器 ツウフウキ 風通しの悪しき所に風を送り通はすための器械。
「る高等官」。

通譯官 ツウダクワン 通譯の事に當る爲に使用する醫術の器械。

通尿器 ツウニョウキ 小便を通ぜしむる爲に使用する醫術の器械。

通商局 ツウシャウキョウ 外務大臣の意思を承けて通商・航海及移民に關する事を扱ふ外務省の一局。

通俗文 ツウソクブン 世間一般のものにわかりやすい文。書簡文。

通信局 ツウシンキョウ 通信大臣の意思を承けて郵便・小包郵便・郵便爲替・郵便貯金・電信・電話其他

定部 七畫

陸運及電氣等の事項を掌る遞信省の一局。
通信員 ツウシンイン 新聞雜誌等に其地の出來事を知り通ずるもの。

通信簿 ツウシンボ 小學校と在校生徒の父兄との間に通信する爲めに當人の勤惰其他の事項を摘記する帳簿。

通約數 ツウヤクスウ (數) 兩數の中の同じ乗子を互に除き去りたる數。

通關票 ツウカンビウ 關所などを通行する通行券。

通行權 ツウカウケン 自己の所有地以外を往來するの權利。

通行税 ツウカウゼイ 汽車・汽船其他の交通機關によりて通行するものに課する税。

通行錢 ツウカウゼン 通行するものよ

定部 七畫

り取立つる料金。
通發流 ツウハツリウ (植) 根より吸收せる水が莖及枝を経て葉に上昇する状態。

通行免狀 ツウカウメンジヤウ 通行することをして許可して下付する免狀。

通常郵便 ツウジョウユウビン 小包郵便に對し通常の取扱にする郵便。

通常爲替 ツウジョウワカハセ 電信爲替又は小爲替に對して通常の郵便爲替の稱。「開く總會」。

通常總會 ツウジョウウツウクワイ 定期に對して燕尾服の稱。

通常禮服 ツウジョウレイフク 大禮服に對して燕尾服の稱。

通常警察 ツウジョウケイサツ 直接に個人の身體財産の危害を豫防し又は排除する警察行政。

通常訴訟 ツウジョウウツウシヤウ (法) 爲替訴訟などに對して通常の手續にする訴訟。

通常電報 ツウジョウデンパン 特別電報に對して通常の取扱による電

定部 七畫

報。
通發作用 ツウハツサウヨウ (植) 葉が根より吸收せる水を水蒸氣となして其面より發散せしむる作用。

通信技師 ツウシンギシ 通信に關する事務を扱ふ官署に於て技術上のことを掌る高等官。

通信技手 ツウシンギテ 通信に關する事務を扱ふ官署に於て技術上のことを掌る判任官。

通商條約 ツウシャウジョウやく 通商上に關して締結せられたる國際條約。

通過貨物 ツウカウワカクツ 外國より他の外國へ運送する爲め一旦我國に輸入せらるる貨物。

通運會社 ツウウンカイシャ 貨錢を受けて通運を業とする會社。

通常裁判所 ツウジョウサイバンシヨ 特別裁判所に對して一般臣民の民事刑事の訴訟を裁判する裁

判所。
這 ゲン。シャ。はらばらふ。はふ。むかふ。この(國訓)。

這般 シヤウ。これら。この。この。この。この。「行動」。

這個 シヤウ。この。「行動」。

逗留 トウリウ。留まりて進まぬこと。旅にありて暫時一處に滞留すること。「ゆむ」。

逗遠 トウゼン。心弱くひるむこと。た。テキ。チャク。とほし。さ。ほさがる。おそる。はる。

逖 テキ。利を欲する貌。

逖 ケイ。キヤウ。こみち。ち。かみち。とし。ちかし。す。ぐなり。いたる。すぐ。

逖 ケイ。イ。かけちがひのあると懸隔せると。相去ること遠きと

定部 七畫

途

ト。ヅ。みち。
 途上 トシヨウ みちすがら。路上。
 途次 トシヨウ みちすがら。みちのついで。古墟を巾す。
 途説 トシヨウ 路上の物語り。據る所なき説。うわさ。
 途中 トシヨウ 途を歩める間。みちなか。物事の未だ終らぬ間。なかげ。
 途方 トシヨウ 行く方向。しかた。てだて。暮れる。
 途轍 トシヨウ みち。すぢみち。テイ。ダイ。
 述匹 キウヒツ 相手に。
 述速 キウヒツ 述に同じ。
 述遅 キウヒツ 述に同じ。
 述逸 キウヒツ 述に同じ。

逐

逐條 チカシ 各箇條を逐ひて次第に。審議す。
 逐項 チカシ うちいちのかど。毎逐靡 チカシ 君主より逐ひのけられたる臣。遠ざけられたる家來逐斥 チカシ おひのくると。おひはらふと。
 逐客 チカシ その國を逐はれたる逐鹿 チカシ 鹿を逐ふと。政權又は地位を得んと争ふと。選挙の競争。
 逐得 チカシ あそをおひて捕ふる逐次 チカシ 次第を逐ひて。順々に逐電 チカシ 住所を去り跡をくらまし逃ぐる。かけおちする。にげうせる。
 逐奇 チカシ めづらしきこと。を求逐一 チカシ いちいち。一つことに。くはしく。委細。
 逐日 チカシ まいにち。日に日に。

逐

逐夜 チカシ まいばん。
 逐戰 チカシ おひかけて戦ふと。
 逐條審議 チカシ ウシギ 會議などにて原案などを一個條宛順を逐ひて詳細に議する。
 逐鹿場裡 チカシ ヤマシ 選挙の競争ある範圍。
 逍遙 セウ。たちもごると。ぶらつく。あそぶ。
 逍遙 セウ であてごもなくあそびあると。そぞろあるきすると現世の境を離れたる高遠なる境に思想を馳すると。
 逍遙遊 セウ 心な人世の外に遊ばせて自ら樂しむと。
 逋 トラ。の。の。の。
 逋亡 ホウ 逃げうせる。
 逋竄 ホン 逃げかくる。
 逋免 ホン にげのぶると。

逸

逸出 イウシュツ はなれいづると。
 逸文 イウブン すぐれたる文章。
 逸才 イウサイ 衆にすぐれたる智慧才能のまさりたる。又逸材に逸少女 イウジョウ 美人の稱。「作る。」
 逸少 イウショウ すぐれたるわかしもの逸秀 イウシウ すぐれて秀でたる。

八畫

逸口 イウコウ 失言。言ひすぎたる。いひそ。なひ。
 逸士 イウシ 逸遊して仕へざるも逸丸 イウワン それ玉。狙ひはづれたる玉。「隣村を焼く。」
 逸火 イウカ 飛びたる火。とび火。逸火 イウカ 的をそれたる矢。
 逸色 イウシキ うれたる色。色のうせる。
 逸羽 イウウ 早く飛ぶ鳥。すぐれた逸字 イウジ 書き落したる文字。字を書きおとすと。
 逸民 イウミン 社會に遠ざかり居る民。浮世をさけ居る人民。
 逸足 イウソク 足のすぐれたる馬。すばやく走ると。早く歩む足。天下の。み。
 逸興 イウキョウ おもしろみ。たのし逸身 イウシン 身を安んずると。
 逸事 イウジ 世に多くあらはれざる事柄。「男子の精。男根。逸物 イウモノ 衆に優れたるもの。

逸散 イウサン にげらる。
 逸書 イウショ 世間にあはれざるふみ。
 逸歌 イウカ すぐれてよく出来た逸居 イウキョ なすともなくくらすと。社會をはなれて居ると。
 逸美 イウビ すぐれて美しきと。實際よりもほめずると。
 逸馬 イウバ あしはやきうま。駿馬逸情 イウジキョ 俗情をはなれたること。
 逸隱 イウイン 社會の外に隠れ去る逸話 イウワ すぐれたる話。珍らしき話。「遊びくらすと。」
 逸遊 イウユウ きまりなく遊ぶと。
 逸群 イウケン 群衆にすぐれたると逸獄 イウコク 牢獄よりにげると。
 逸樂 イウラク 遊びたのしむと。
 逸豫 イウヨ 遊び樂むと。
 逸藻 イウソウ 詩文などのすぐれたるもの。「玉什」。
 逸韻 イウイン 風雅なると。

走部 八畫

逸辯 イニシ すぐれたる辯舌。

透

透進 イニシ ながくゆるる貌。斜にゆるる。

透迂

透迂 イニシ 迂るにまはる。

透進

透進 イニシ 山勢ゆるやかにして路の困難ならざるにいふ。

達

進 進み行く運命。

進

進 進み行く。進歩のみならず。

進 進み出で、敵をうつつ

進 進み出でて戦ふ。

進 貴人に物を呈上する。進上に同じ。

進水式 シンシキ 新に造りたる艦船を始めて水に浮べ試むる式。

進水式 シンシキ 新に造りたる艦船を始めて水に浮べ試むる式。

進水式 シンシキ 新に造りたる艦船を始めて水に浮べ試むる式。

走部 八畫

走部 八畫

進上 シニシ 呈上。又進呈といふ。

進止 シニシ 進むと止まると。たちぬふるまひ。

進仕 シニシ 官途に進み仕へると。

進任 シニシ 官途に進み仕へると。

進功 シニシ 攻めよする。進み漸次に變化すると。外界の影響と内部の發展により時代を經過する間に同一物なりしものが漸次に互の状態を異にする。

進水 シニシ 新に造りたる艦船を始めて水におろして浮かぶ。

進出 シニシ 贈りもの。つかひも。

進歩 シニシ 進み歩む。物事の次第にして今日の状態となりたりとする説。

進退伺 シニシ 官吏などが過失などのありし時自ら罪を請ひて進退の處置を其かゝりの上官に仰ぐ。

進善旌 シニシ 幾帝の時に旌を四通五達の道に設け善を進むることあらんとする者をして旌下に立ちて之を言はしめたるをいふ。

遊 (國字) ほめたとふる時に用ゆる字。あつげれ。イウ。ユ。

逮 タイ。ダイ。はかる。およぶ。おふ。やはらぐ。

逮夜 タイ。タイ。忌日の前夜。忌日の前夜の佛事。

逮捕 タイ。タイ。罪人を捕ふ。人の身體の自由を束縛して一定の場所にとめ置く。

走部 八畫

進取 シニシ 進んで取ると。前途の困難又は故障を排除し進みて事をなすと。一の氣象。

進計 シニシ 謀を奉ると。

進軍 シニシ 軍隊を進むると。

進退 シニシ 進むと退くと。かけひき。たちぬふるまひ。職務の去就。一維れ谷まる。

進貢 シニシ 貢物を奉ると。たてまつりみつけ。

進級 シニシ 等級の進むると。

進納 シニシ すすめ納むると。

進發 シニシ 進み出づると。進行すると。軍隊が戦争などに立出ると。

進境 シニシ 進歩の境遇。次第次に進むと。進運。

進路 シニシ 進み行く道。進みいづる路。ゆくて。

進達 シニシ 官への上書などを取次きて届く。

逮 進んで取ると。進歩の境遇。次第次に進むと。進運。

逮部 タイ。タイ。追ひ及ぶ。追ひとりて。捕吏。

逮縛 タイ。タイ。めしとると。からめ

逮獄 タイ。タイ。獄屋へ入ると。

逮撃 タイ。タイ。追ひ打ちすると。追撃すると。

逮捕狀 タイ。タイ。(法)所在地の知らざる禁錮以上の刑事被告人を逮捕するために檢事の發する命令書。

追 クワン。のがる。めぐる。ゆく。たがひに。

追逃 クワン。のがれにぐる。逃げ去ると。

追避 クワン。逃げかくると。

追走 クワン。逃げ去ると。

逖 ン。カウ。あざむく。はしるさま。

走部 八畫

走部 八畫

【週】

シウ。めぐる。一日。周に同じ。

週日 シウ。一週間の日、即ち七週番 シウ。一週ごとに交代して服する勤務。又其勤務に當りたるもの。

週間 シウ。七日の間。一週の間。週報 シウ。一週毎に其間の出来事又は事柄を報する文書。

週刊 シウ。一週に一度刊行すること。一雑誌。一世界。

週遊 シウ。めぐり遊ぶこと。歴史。遊。シウ。ひとまはりの時期。

週期 (理) 振動體の一回の振動の時間。公轉體の一回の公轉の時間。

週期律 シウ。凡ての原素を原千量の順に排列すれば其間の化學的性質も亦一定の規律を示すといふ法則。

週番士官 シウ。一週間に交代して管内及び隊中の特別の勤務に服する士官。

定部 八畫

定部 九畫

定部 九畫

九畫

違 非。もどる。たがふ。はなれる。さほごかる。さく。にぐ。よこしま。あやまち。うらむ。そむく。はしる。

違反 シウ。そむいたがふこと。違犯 シウ。法度を犯すこと。法を破ること。あはん。憲法。

違去 シウ。はなれ去ること。違式 シウ。本式に異なること。法則に違ふこと。不作。

違作 シウ。稽のみのりの悪しき違旨 シウ。仰せに違ふこと。違命。違忘 シウ。仰するること。失念。違命 シウ。仰に違ふこと。命令に背くこと。

違背 シウ。たがひそむこと。もと違例 シウ。普通の例に違ふこと。したたりに異なること。疾病におかざること。「法度」にそむくと。違法 シウ。國のおきてに違ふこと。

違戻 シウ。たがひもどること。違約 シウ。約束に違ふこと。天子のよせにそむくこと。

違勅 シウ。勅命に違ふこと。天子のよせにそむくこと。違勘 シウ。天皇の仰せにそむきたる罪。「道理」にそむくこと。

違道 シウ。公の道にはづるること。違算 シウ。かぞへちがひ。勘定ちがひ。考への違ふこと。計畫のちがふこと。

違憲 シウ。憲法に違反すること。違舊 シウ。古きものをのくこと。違變 シウ。約束などをたがふこと。たがひかはること。

違約金 シウ。約束を違へたる賠償として出ださしむる金。違警罪 シウ。(法) 犯罪の輕きものにして拘留又は科料に處せらるるもの。

違法處分 シウ。法にもとりたる處分。法律に定めたる以外の處分。

【達】

タツ。タチ。とほる。さしむ。すすむ。あまねく。みな。よろし。さだむ。おくる。すぐれたる人。ほしいまま。

達人 タツ。物事に熟練したる人。人生を達観してささりを開きたる人。達識の人。斯道の。

達才 タツ。普通のものよりもすぐれたる才。物事によく通じたる才。

達文 タツ。達者なる文章。よくわかるやうに書いてある文。

達志 タツ。見込通りにすること。志を達しとぐること。

達見 タツ。普通のものよりもすぐれたる見解。末迄見抜くこと。世態などを見ぬこと。

達官 タツ。重き官職。高官。達底 タツ。蕩典に達したること。達者 タツ。物事に熟達したる人の強壯なること。巧にしてはや

定部 九畫

定部 九畫

定部 九畫

達書 タツ。歩行の速なること。ふれのかきつけ。「べきもの」。

達尊 タツ。世間一般にたふとぶ達孝 タツ。父母につかへてよく孝をつくこと。

達曙 タツ。あけがたにいたること。達徳 タツ。人生何れの場合にも通じてたふとき徳。習仁勇は天下の。

達練 タツ。通達熟練すること。達言 タツ。道理に通達したる言

達磨 タツ。天然の僧の名。梁の武帝の時支那に來りて直指人心見性成佛の正法眼蔵を傳へたり。稱して禪宗の始祖となす。後世其像を圖畫彫刻などにす。又淫賣婦の稱。

達道 タツ。人の一般に守るべき道。大道。人道をさばめたる人。

達筆 タツ。筆道に達したること。又その人。達者に文章を書くこと。

達意 タツ。思ひをとぐること。自分の思想を十分にのべあらはすこと。「ぐること」。

達途 タツ。なしとぐること。しと達想 タツ。凡俗ならざる考。すぐれたる思想。

達聞 タツ。廣く聞き知れること。廣く物事を心得居ること。

達識 タツ。すぐれたるひろく知識のあること。普通のものよりはすぐれたる識見。ものしり。

達辯 タツ。辯口のよきこと。よどみなき辯舌。「ほること」。

達聲 タツ。遠くまで聲のよくさ達観 タツ。一局部に偏せずして廣く觀察すること。わたかまちなき心にて觀察すること。

タウ。ダウ。みち。なをさむる。みちびく。ひく。した。がふ。すち。いふ。よる。昔我國の畿を基とし京都より通ずる道路に

【道】

定部 九畫

道心 ダウシン 善惡正邪を直覺する意識。私慾煩惱の爲に蔽はれず

道人 ダウジン 佛道を會得したる人。隱遁者。道術をなさむる人。

道破 ダウハ いひはるる。言ひ貫く。

道念 ダウネン 道義の念。道を求むるを處理する役所。

道志 ダウシ 昔大學の明法道を卒業し檢非違使のさくわんとなりしもの。

道上 ダウジョウ みちのほとり。みち道士 ダウジ 道教を奉ずる人。道教に入りて修行するもの。

道中 ダウチュウ 道のなか。旅路にある。遊廓にて遊女が日を定め

道化 ダウケ おかしき眞似をして人の笑を買ふわざ。おどけ。たはむれ。滑稽。

道車 ダウシャ 天子の御車の一。

道俗 ダウゾク 出家と俗人と。緇素。道者 ダウシャ よすて人。神佛に參詣せんために旅行する人。巡禮

道書 ダウショ 道教の書物。

道家 ダウカ 道教を奉ずる人。道士 ダウジ 道はた。道さば。

道服 ダウフク 中古貴人などが外出のとき塵のかゝるを防ぐ爲に上着せし服。袖ひろくして形羽織の如く腰より下にひだあり。道士の着る服。

道具 ダウグ 其道々に使用するもの。つは。武家にて槍の稱。僧家に

てたくばふる器物。他人の爲に使用せらるゝ人の稱。陰莖の稱

道途 ダウト 往來の街道。

道理 ダウリ 事物の然らざる可らざる理義。すぢみち。すぢあひ。わけ。物の一を辨ふ。

道教 ダウキョウ 道德の教。支那に行はるる一種の教。老子を祖とし慾望をばなれて清淨潔白を旨とす。

道場 ダウジョウ 佛家にて心靜かに道を修むる場所。寺。精舎。武道の諸術を修むる場所。

道話 ダウワ 心學のはなし。道德に關するはなし。

道程 ダウテイ 道のり。里程。

道童 ダウドウ 仙人に侍する童子。

道義 ダウギ 人の行ひふむべき正道。道德上の條理。人倫。

道路 ダウロウ 通行のみち。みち。道術 ダウジュツ 道士などの行ふ術。道號 ダウガウ 入道して後の號。のりの名。

道臺 ダウダイ 支那の官名。日本の道歌 ダウカ ささりのうた。世態を觀じての歌。修身道德の意を説きたる心學の歌。

道學 ダウガク 道義をなさむる學問。道德を説く學問。心學。老子の學。さとりて心を錬る學問。

道樂 ダウラク 己れの職業にあらざる他の道にふけりたるしむこと。よからぬ遊興。ものすきなると

道德 ダウトク 人間のふむべきみち人倫五常の道。

道聽 ダウテイ 風評。據り處なきうはさ。一巻説。

道祖神 ダウソジン 道路を守る神。ちまたの神。手向けの神。

道明寺 ダウメイジ ほしい。米を炊きて乾したるもの。

道灌草 ダウカンクサ (植) 石竹科に屬し春莖を出し夏五瓣紅白色の小花を開く。

道化形 ダウケガタ 芝居にて滑稽の役をするもの。「軌條の敷地。道路敷 ダウロク 道路及び通行用

道陸神 ダウリクジン 道祖神の訛。道中師 ダウチュウシ 常に道中して人の用を辨すること。職とする人。徳川時代の三度飛脚。

道中差 ダウチュウサ 昔旅行中に帶びし刀。長さ短く揃及び鞘に袋をかけしもの。

道中記 ダウチュウキ 道中の宿驛里程などを明細にしるして旅人の案内に便する書物。旅行案内書。旅中の日記。紀行文。

道德心 ダウトクシン 道德を守る心。善惡を判断する心。

道德學 ダウトクガク 倫理學に同じ。道德的 ダウトクテキ 道德に關する事柄にいふ語。

道幸棚 ダウキヨウタナ 茶室の爐傍の壁に袋戸棚の如くつくりて茶器を載する棚。

道具屋 ダウグ 古道具をあきなふ人。又はその家。

道具持 ダウグチ 武家にて槍持の稱。消防中にてまとひ持の稱。

道具方 ダウグカタ 芝居其他興行物等にて道具に關すること。當るもの。

道具立 ダウグタテ 必要なる器具を調へおくこと。諸種の準備。

道具箱 ダウグバコ 諸種の道具を入れたおくはこ。

道中双六 ダウチュウソウロク 東海道五十三驛の圖をよがき之を道中するさまに作りたる双六。

道路警察 ダウロクケイサツ 道路通行の安全を保持する警察。

道路以目 ダウロクニモウメス 公言をばばかりて互に目にて情を通ずる。

定部 九畫

道學先生 ダウガクシヤ 道學をなさむる先生。道德に拘泥して事に暗き學者。「演ずる芝居」

道化芝居 ダウケシバ 滑稽の技を演ずる芝居

道樂息子 ダウラクニコ 道樂なる少年

道樂坊主 ダウラクボウ 墮落破戒の道聽途説ダウナヤドコ きつたるま、のものがたり。

道聽途説 ダウナヤドコ たるま、のものがたり。

道 ミチ クリウ。ワウ。いそがばし。おそろ。いとま。ひま

遑遑 ツラツラ おちつかざるさまにいふ語。

遑暇 ツラカ いとま。ひま。閑暇。カ。ゲ。ばるか。なんで。

遐 トホ とほざる。

遐邇 カヨク 遠きと。ばるかに遠ざかること。

遐荒 カワウ 遠方のこと。

遐暢 カヤウ ばるかに遠くまですきわたること。

定部 九畫

遐棄 カキ 遠ざけつること。

遐福 カク 遠大の幸福。

遐遠 カシ 遙かなること。遠きこと。

遐志 カシ 遠くなる志

遐氓 カウ 遠隔の地にある民。

遐迹 カヤキ とほきむかしのあと。

遐阪 カウ 遠く帝都をばなれたる土地。ばるか遠方のほしほし

遐域 カキ 外國をいふ。いと。

遐窺 カキ ばるかにうかがひ見る

遐齡 カシ 高き齡。長壽。

遐邇 カシ 遠きと近きこと。

遐 アツ。アチ。やむ。

遐 アツ。アチ。やむ。

遐 アツ。アチ。やむ。

遐 アツ。アチ。やむ。

遐 アツ。アチ。やむ。

定部 九畫

過大 カダ 大にすぐること。度を越して大なること。①の賞典。

過山 カサン 山を越ゆること。

過水 カスイ 川を渡ること。

過少 カシウ 餘りに少なきこと。

過日 カジツ 先日。日をすぐすと。過ぎさりたる日。「たる月」

過月 カグヅク 先月。去月。過ぎ去り

過分 カフン 分限をこゆること。不相應なること。①の勞働。

過午 カフン ひるすぎ。午後。通り行くこと。まへの世。前身。(文法)動詞及び助動詞の過ぎ去りし動作をあらはすもの。①の夢。「おほかた」

過半 カハ 半ばすぎ。半分以上。

過失 カシ あやまち。やりそこなひ。(法)法を犯さんとする故意なくして法を犯す行爲あること。「ぎ。無事―す。過生」

過生 カシ 暮して行くこと。世

定部 九畫

過多 カダ 多きに失すること。程度を越ゆること。「先年」

過年 カケン 年をすぎること。去年。

過言 カゲン 言ひすぎ。わる口。

過安 カアン 相應を越ゆること。程度をすぎること。

過信 カシン 信用しすぎること。

過刻 カク さきほど。せんこく。又過頃といふ。

過夜 カヤ 先夜。夜を明かすこと。

過所 カシヨ 關所を通るための手形。とほしてがた。

過雨 カウ 雨の降りすぎる。降りすぎる雨。「すぎる」

過美 カミ 甚しく美しきこと。ほめ

過怠 カタイ をこたりあやまること。あやまち。おこたり。「こ」

過計 カケイ 失策。計をあやまる

過限 カケン 限度をすぎること。

過客 カク 通行する人。旅人。

過度 カド 程をこゆること。度をすぎること。

定部 九畫

過食 カシヨク くひすぎる。

過重 カシユウ 重きに過ぐる。過度に大事にする。①の税率

過格 カク 格式をばゆること。格式を越ゆること。「なふ」

過差 カサ ことなること。やりそこ

過料 カウリョウ 官署に對する或る届出などを怠りたるさきの制裁として科せらるる財産上の刑罰。(法)法令に違反せる行爲者より國家が強制的徴収せなす金錢。

過訪 カウボウ 立寄り尋ねること。

過望 カウバウ 望み過ぐる。

過般 カハン 先き頃。先般。

過貶 カケン 悪くいひすぎる。

過期 カキ 定日の期限をすぎること。時期をあやまること。

過淫 カウイン 淫事の程度をこえたること。房事をすぎること。

過剩 カウジョウ 勘定後の残り。餘餘

過等 カウトウ なみより過ぎたること。

定部 九畫

過程 カケイ 物事の經過せるみち

過渡 カト わたること。わたり。すでに舊態を脱して未だ新態を爲さざる途の状態。

過敏 カビ 神經などの普通よりもするどくなりて刺激・感受のばげしきこと。

過爐 カウロ 自己の住家の謙稱。

過飲 カウイン 酒なごをのみすぎる

過督 カトク 責め付くこと。「こ」

過賞 カウシヤウ ほめすぎる。過ちをせめ功を賞すること。

過稱 カウシヨウ 非常にほめたたふること。實際にこえたるほまれ。

過輕 カウキヤウ かるすぎる。餘りにかろきこと。「過失」

過誤 カウゴ あやまち。やり損ふこと

過當 カウダウ 相應を越ゆること。程度をすぎること。分不相當。

過賣 カウバイ 品物をうり歩くこと。行商。

忒部 九畫

過慮 タリヨ おもひすぎること。思ひすぎること。「常に貪慾なること。」
 過慾 タリヨ 慾の深すぎるること。非過褒 タリヨ ほめすぎるること。過賞 タリヨ ほめすぎるること。過稱 タリヨ 甚だあらうしきこと。極めて激烈なること。はげしすぎるること。①の運動。
 過擧 タリヨ 失策。やりそこなひ。過禮 タリヨ 禮にすぎること。相應せぬ禮儀。「ほめすぎるること。」
 過譽 タリヨ 身にすぎたるほまれ。過繼 タリヨ 後繼ぎを定むること。過房子 タリヨ やしなひもの。過不及 タリヨ 過ぎたること及びざること。程のよからぬこと。
 過不足 タリヨ 足ると足らざること。十分なると不十分なること。過怠金 タリヨ タリヨ をこたたりを罰して課する金。過料。
 過半數 タリヨ 全數の半以上に到りたる數。

忒部 九畫

過去帳 タリヨ 死人の法名を書き止めておく帳簿。鬼籍。
 過渡時代 タリヨ 物事が過渡の状態にある時代。
 過熱蒸氣 タリヨ (理) 飽和してあらざる蒸氣。
 過失殺傷罪 タリヨ (法) 過失によりて他人を殺傷したるものに課する罪の名。
 過酸化水素 タリヨ (化) 過酸化バリウムに稀硫酸を注ぎて得る無色の液、容易に酸素を放出するを以て酸化の作用強し。
 過酸化窒素 タリヨ (化) 二酸化窒素の稱。
 過飽和溶液 タリヨ (化) 或溫度に於ける飽和溶液を靜かに冷却したるもの。
 過磷酸石灰 タリヨ (化) 磷酸鹽と硫酸カルシウムとの混合物、肥料に用ふ。

忒部 九畫

〔遍〕 ヘン。あまねし。徧に向じ。
 徧在 ヘン 一般に存在すること。
 徧身 ヘン からだぢゆう。全身。
 徧路 ヘン 到るところに食を乞ひて各地の寺院を參詣しあるくもの。こじき。
 徧歴 ヘン 諸國をかけて旅行すること。へめぐること。①諸國を―す。
 〔還〕 カク。ゴ。グ。あふ。はからずあひみる。
 還 ウン。オン。はこぶ。めぐもちゆる。めぐらす。はるかなり。人の身にめぐり來る命數。
 運上 ウン 商人の營業又は運送の物品に課する租稅。徳川時代の未明治の初に輸出入品に課したる稅の稱。
 運斗 ウン 火のし。

忒部 九畫

運用 ウン 其物の性質使用方法に従ひはたらかし用ふること。利用。活用。
 運行 ウン 廻り歩むこと。めぐりうつること。(天)遊星・彗星・衛星などの其軌道上を運動すること。①天體の―。
 運命 ウン 廻り合ひ。しあはせ。天命。人の身にめぐり來る善惡吉凶の事情。
 運河 ウン ぼりわり。運送に便するために陸地を掘りたる河。
 運送 ウン はこび送ること。(法)陸上又は湖川・港灣にて物品又は旅客のはこびおくりをなすこと。
 運筆 ウン 筆の運び方。筆のつれき。しあはせ。うん。又運筆といふ。「催す席。」
 運座 ウン 連歌又は俳句などを運掌 ウン 手のひらをかへすこと。の容易なるをいふ。

忒部 九畫

運動 ウン めぐりうごこと。衛生のためにかただをうごかすこと。動きはたらくこと。物體が其位置を變へること。物事に奔走盡力すること。散歩すること。
 運算 ウン (數) 式の示す規則に従ひ加減乗除又は移項等を行ひて要する數値を算出すること。勘定すること。算用すること。
 運賃 ウン 貨物などを運送する賃錢。
 運漕 ウン 船にて貨物などを運送すること。
 運搬 ウン もちはこび。物品又は旅客の輸送。(地)河水又は海水若くは風が土砂などを流轉せしむること。
 運輸 ウン 荷物をはこび送ること。
 運轉 ウン 動きまはること。動かしまはすこと。動かしばたらかすこと。繰りまはし。利用。①資本を―す。
 運籌 ウン 謀をめぐらすこと。

忒部 九畫

運命論 ウン (哲) 人類の貴愚又は盛衰浮沈などはすべて先天的に定まれるものにして人力の如何ともすべからざるものなりとする説。
 運上方 ウン カタ 輸入品などに課する稅を取扱ふ役人。
 運上所 ウン 運上を取扱ふところ。
 運漕店 ウン 荷物の運漕を業とする店。
 運送人 ウン (法) 荷送人がつき交付する證書。運送人が荷受人に對して物品と共に發送する通知狀。「物品。」
 運送品 ウン 運送の目的たる物品。
 運送船 ウン 運送に供する船。軍事の輸送に用ふる船。
 運送人 ウン 陸上又は湖川港灣に於て貨物の運送を營業とする人。
 運動器 ウン (動) 高等動物のもの。

走部 九畫

骨及び筋肉より成りたる肢部の如く動物が身體の移動を行ふための機関。
 運動者 ウンドリヤ或物事のために奔走盡力する人。
 運動量 ウンドリヤ(理) 物體の質量と速度との相乗積。
 運動計 ウンドリヤ 日月の運行をはかる器。
 運轉手 ウンブシ 汽船汽車などの機關の運轉をつかさどる人。
 運送保險 ウンブシ 運送する物品に對して生ずべき損害を補填する爲に荷主の爲す保險。
 運送契約 ウンブシ (法) 當事者の一方が相手方に物を運送せんことを約し他の一方が之に對して運賃を拂ふことを約すること。
 運送營業 ウンブシ 運賃又は手数料を受けて運送の業を営むこと。

走部 九畫

運送取扱 ウンブシ 物品又は旅客運送の取次を爲すこと。
 運輸營業 ウンブシ 運賃又は手数料を受けてのもの、はこび送り業を營むこと。
 運動神經 ウンブシ 神經の中樞より末梢にまで傳ふるもの。
 運動中樞 ウンブシ 統て運動に關する遠心神經を出す神經細胞の運動の中樞。
 運動定律 ウンブシ (理) 物體の運動に關する定律、ニュートン氏の創説に係り三則あり、第一物體は外力の作用を受けざれば常に静止するか又は一直線上に等速の運動を爲す、第二運動量の變化は其作用したるものに比例し其方向に起る、第三作用あれば之に等しき反作用あり。
 運否天賦 ウンブシ 運の吉凶は自然の天命なりといふこと。うん

走部 九畫

まかせ。なりゆきにまかせること。
 運送取扱人 ウンブシ 自己の名を以て運送營業を爲すもの。
 運送取扱營業 ウンブシ 自己の名を以て運送の取扱ひを營業となすこと。
 イウ。ユ。あそぶ。あそび。まじはり。よしみ。ひま。ひまのひと。とも。たのしむ。いづ。ゆく。ちる。なぐさみ。ものみ。たび。どこに出かくる人。
 遊人 イウシ 遊び人。物見遊びなどに出かくる人。
 遊子 イウシ 旅人。旅行する人。
 遊女 イウシ つかれめ。女郎。娼妓。
 遊山 イウシ 山に遊ぶこと。あそびあらく。行樂。
 遊士 イウシ あそびをとこと。うはきもの。たばれた。
 遊行 イウシ 遊び歩くこと。遊行をする。僧侶の諸國を巡り歩くこと。

走部 九畫

と。あんぎや。
 遊手 イウシ なすこともなくして衣食して居ること。又其人。
 遊民 イウシ 職業もなく遊び暮すもの。
 遊牝 イウシ 獸の交尾すること。牝。
 遊治 イウシ 酒色などに耽りて身もちの悪しきこと。
 遊間 イウシ 志の寛大にして急促ならざること。
 遊僧 イウシ あんぎやの僧。
 遊憩 イウシ あそびやすむこと。
 遊君 イウシ あそびめ。いうぢよ。
 遊里 イウシ 色ご。花柳の巷。遊女の居るところ。
 遊牧 イウシ 居所を定めず所在に水草を逐ひて移り畜類を飼ひて年月を送ること。「具の稱」。
 遊具 イウシ 凡て遊戯に用ゆる器。
 遊郎 イウシ 遊治なる男。うはきもの。なまけもの。
 遊軍 イウシ 戦列外にありて時の

走部 九畫

勢を見て味方を援護する軍勢。
 遊庠 イウシ 學校に入學すること。
 遊亭 イウシ 遊び茶屋。「遊學」。
 遊俠 イウシ 男伊達。狹客のこと。
 遊客 イウシ 遊覽の客。あそびて重に女郎買ひする客をいふ。
 遊歩 イウシ 遊び歩くこと。そでろあらく。さんぽ。
 遊星 イウシ (天) その軌道を周りに行きて恒星をめぐる星。
 遊食 イウシ あそびくらすと。
 遊道 イウシ まじはり。つきあひ。
 遊金 イウシ 活用させずあそびしておける金。「士」。
 遊倅 イウシ 未だ官職を得ざる浪遊宴。酒宴を設けて遊ぶこと。さかもり。一度なし。
 遊財 イウシ 利用せざる金錢。活用させずにある金。
 遊偵 イウシ ぶらぶらと様子を探り歩く探偵。めあかし。
 遊鳥 イウシ 他の鳥を誘ふため繫

走部 九畫

ぎおく鳥。おさり。「びの舟」。
 遊船 イウシ 遊ぶふね。ふなあそくらすと。
 遊惰 イウシ 遊びなまけること。遊びくらすと。
 遊學 イウシ 他國に行きて學問すること。諸國を遊歴して學問すること。諸國を遊歴して學問すること。
 遊郭 イウシ 色ご。遊里。「と」。
 遊説 イウシ 諸方を廻りて己が意見などを説き動むること。
 遊蝶 イウシ 花などに戯るる蝶。
 遊艇 イウシ ゆさんぶれ。いうせん。「に遊ぶにいふ」。
 遊興 イウシ 遊びたのしみ。特別。
 遊覽 イウシ 風景などの好きを探りて見物すること。「見る」。
 遊觀 イウシ あそびたのしみ。特別。
 遊豫 イウシ あそびたのしみ。特別。
 遊歴 イウシ 諸國を遊びめぐること。たびあるき。諸國をす。
 遊蕩 イウシ あそびにふけること。

遊樂 酒色に耽ること。
遊戯 遊ぶ戯るわざ。あそびたばむること。一定の方法に従ふ興味ある運動。
遊撃 別定まりたる敵なく戦列の外に居りて臨機應變に敵をうつこと。
遊離 他物とのなれ居ること。(化)元素の化合物よりはなれいづること。①酸素。
遊藝 実用なき技藝。あそびに属する藝能。
遊獵 山林をなぐさみあそりて獵をする。
遊女屋 遊女をかへおく家。ちよらうや。
遊水類 水中に棲息し常に水面又は水中に游泳して魚類を捕食する鳥類。
遊山船 遊山に乘る船。
遊治郎 遊治なる男。放蕩者。うはきもの。やさをとこ。

遊惰漢 放蕩もの。なまけもの。又遊蕩漢といふ。
遊船宿 遊船を出す宿。
遊魚石 庭の瀧の流れて池に入るあたりへ雅致を添ふるためにこころがしおく石。
遊仙窟 唐の張文成が仙窟に遊びたることを記したる支那小説。
遊學生 他國に出てて學問をする學生。留學生。
遊撃隊 一定の目的なく臨機應變に敵を攻撃する軍隊。
遊獵地 遊獵をなす地。
遊牧人種 遊牧を事とする人種。
遊牧時代 一定住する所なく水草を逐ふて一生を過ごす人類の野蠻の時代をいふ。
遊雲驚龍 草書を

遊手徒食 遊びたぐひつふすこと。なすこともなくして遊びくらすこと。①の輩。
遊火鐵箱 支那の武器。箭筒の時に寄手の兵を焼き若しくは夜を照らすもの。
遺 遺に同じ。しのびもの。ただす。さすが(國訓)。
遺 シウ。シユ。せまる。いそぐ。たつる。つよし。やすんずる。なさむる。かたむる。つくる。なばる。グ。ゴ。ギヨウ。ゴウ。あふ。たまたま。まみゆる。もてなす。あひしらふ。みちにてあふ。
遇 不意に出遇ふこと。
遇逢 道にてあふこと。出逢ふ。
遇禍 不意のわざはひ。
遇患 憂患。

遇難 おもひがけなく災難に出あふこと。
遇厄 おもひがけなき災厄。接接もてなし。接待。
遇接 セン。はやし。すみやか。とし。ス井。かなふ。とぐる。なふ。ゆく。なる。よる。つく。みち。つひに。やすし。とどまる。したがふ。すすむ。こみぞ。
遂 スキカ。なしはたすと。遂げ行ふこと。行ひとげること。
遂成 スキイ。なしとげること。
遂究 スキキ。きはじめたこと。おしむること。
遂遂 物事のさかんに起るさまにいふ語。隨行の貌。一と。
遂志 スキシ。目的をとげ志を貫くこと。のがる。うつる。かくる。にぐ。さる。
遁甲 トウカ。人目をまぎらして身

遁逃 隠れかくす妖術。にんじゆつ。トウタウ。にぐる。のがる。こと。敵艦。げたすと。
遁出 トウシュ。のがれいづること。逃辭。トウジ。のがれごぼ。にげ口上。關係又は答辭をまわかれんためにいふことば。
遁世 トウセイ。浮世を遁るること。戸主たる地位をすて、事に關せざること。
遁走 トウソウ。遁れ走ること。逃ぐる妖術。トウシュ。人知れず遁れ出づる妖術。みがくしの術。
遁世者 トウセイシャ。遁世したる人。世すて人。ユ。こゆる。こす。とほしすすむ。すぐる。いよいよ。ばなはだ。ますます。
逾日 ヨジツ。他の日にまたがること。
逾月 ヨグツ。月をこゆること。
逾越 ヨエツ。のりこすこと。
逾邁 ヨイ。すきゆくこと。

逼 ヒツ。ヒヨク。ヒキ。せまる。ちかづく。もよほす。かる。ちやむ。つまる。なかつ。かす。
逼迫 ヒツパツ。さしせまると。乏しくなること。流通の滞滯すること。
逼塞 ヒツサイ。徳川時代士分以上の関刑の一。閉門。さしせまりてふさがること。
逼扶 ヒツフ。せまりたすること。
遺 ケン。おくる。やる。つかはす。しりぞくる。はなす。つばなす。
遺外 ケンガイ。他國へつかはすこと。
遺發 ケンパツ。人をつかほしやると遣車。ケンキ。迎への車をやると。葬式の車。
遺懷 ケンクワイ。思をばらすこと。氣晴しをすること。又遺情といふ。

走部 十畫

走部 十畫

走部 十畫

遣歸 ケシキ かへらしむると。かへしやること。

遣唐使 ケシタウシ 古支那の唐朝の頃我が國よりその朝へつかはされし使者。

遣外公使 ケシクワイコシ 外國に派遣せられてある公使。

遠人 エシジン 遠方の人。遠國の人。とほき昔の人。

遠山 エシサン 遠く隔たりたる山。

遠方 エシバウ 遠く隔れるところ。

遠行 エシカウ 遠くへ行くこと。遠足。遠見 エシケン とほきみること。

遠大 エシダイ あさはかならずして規模の大きいなること。非常に大なること。思想一。

遠望 エシバウ 遠くを望むこと。とほき遠見。一甚佳なり。

遠景 エシケイ 遠見の景色。遠く隔りて見ゆる景色。

遠隔 エシカク 遠くへだたれること。山河一。

遠雷 エシライ 遠く隔りてなり轟く。

遠遐 エシカ 遠くかすかなること。

遠籌 エシチウ 永遠のばかりこと。

遠郷 エシキヤウ とほき他郷。

遠路 エシロ 遠きみち。長程。長途。

遠境 エシキヤウ 遠きくに。遠隔なる國。とほきくにさかひ。

遠慮 エシヨ 人に對して控へ懼むこと。未來を考へ注意すること。

遠足 エシツク 遠路を歩むこと。運動のため遠方へ行くこと。

遠志 エシシ 大なる志。ひめばき。

遠村 エシラン かけはなれたる村。

遠倅 エシチイ へつらひ者を遠ざくること。一の佳賓。

遠來 エシライ 遠方より來ること。

遠林 エシリン 遠方の森林。

遠征 エシセイ 遠隔の地に長旅行すること。遠國を征伐すること。遠くへ出でて戦ふこと。一軍。

遠地 エシチ 遠き土地。

遠視 エシシ 遠きを見ること。遠方の見ゆること。一リ。一。

遠略 エシリヤク とほくふかきはか。

遠近 エシチン 遠きと近きと。なちこち。畫にて遠きと近きとのかさわけ。

遠流 エシリウ 遠島へ流すこと。しまな。

遠姦 エシケン 悪者を遠ざくること。

遠郊 エシカウ かけはなれたる原野とほきのべ。

遠洋 エシヤウ とほき海。とほき沖。

遠馬 エシバ 馬にて遠のりすること。

遠島 エシタウ 遠隔の海洋にある島。追放より重く死罪より輕き徳川時代の刑罰。伊豆・薩摩の七島。肥後の天草・佐渡・隱岐・壹岐等に流したり。しまながし。

又遠流といふ。

遠遊 エシユウ とほき他郷へあそぶこと。

遠猷 エシユウ とほきばかりこと。

遠播 エシハ とほくまでつたはること。海。遠洋。

遠海 エシカイ 遠くへだたりたる國。

遠國 エシクニ 遠きくに。遠隔の國。

遠阪 エシツク 遠隔の片田舎。遠きひな。遠くかけへだたりたる僻地。

遠雁 エシガン 遙かに天空に鳴き渡すこと。

遠陲 エシシ 遠きくにさかひ。

遠陵 エシリヤウ 十陵以外の普通の山陵。遙かに底の淺きこと。

遠淺 トホサ 海濱より沖の方まで。

遠心力 エシシヨク (理) 運動せる

物体が求心力の作用を受くるとき物体は其慣性により求心力に對する抵抗起るを以て物体は宛も求心力と等しく且つ反對の力の作用を受くものと考ふべし此の假想的の力を遠心力といふ。

遠水近火 エシスイキンキリ 用の事に及ばざるにいふ。

遠國奉行 エシクニツギヤウ 徳川時代に堺・奈良・伏見・山田・長崎・函館・下關などの諸所の都會の地に置かれたる奉行の總稱。

遠交近攻 エシカウキンコウ 支那戰國時代に秦の范雎の立てたる策。遠き國と交りて結びて近き國を攻め取ること。

遠語近聲 エシゴンギンシ 遠近の人々のつれこれいふこと。

遠謀深慮 エシボシシヨ 遠き先きとほきの事までを深く考ふること。

走部 十畫

走部 十畫

走部 十畫

遡

遡行 ソス。ゆく。さかのぼる。むかふ。うつたふ。つぐ。る。くだる。派に同じ。遡行 なるがれにさからひて行くも。「遡流さいふ。」
 遡水 ソス。流にさかのぼると。又遡江 ソコ。川にさかのぼると。
 遡源 ソカシ。水源にさかのぼると。物事の起源をたづぬると。
 遡風 ソワ。風に向ひ行くも。
 遡洞 ソライ。水源にさかのぼると。遡遊 ソウ。流水をさかのぼりて遊ぶも。
 遡駛 ソシ。流れに遡ふて早く走る。テイ。はるか。とほし。た。かひ。めぐらす。めぐ。る。たがひ。まどふ。
 遡夫 テウ。ものを擔ひ運ぶ人夫。に。かつぎ。
 遡馬 テイ。つぎうま。てんま。驛。年。テイ。ねん。毎年。
 遡代 テイ。ダイ。互に代ると。かはる。

遞

遞用 テイヨウ。交代に用ゐると。がはる。交替。
 遞加 テイカ。次第次第に増加する。と。等を追ひて次第に加はると。
 遞送 テイソウ。次々へ送ると。
 遞次 テイジ。順次。順序。しゆ。く。は。しゆく。つき。増す。
 遞傳 テイデン。つきつきにつたへおくるも。宿次の傳へ送ると。宿場の車馬人足。
 遞更 テイカウ。たがひにかはりあふ。遞戰 テイセン。思ひおもひに戦ひて一致せざると。
 遞謝 テイシャ。かはるがはる退くと。遞信 テイシン。音信を通ずると。信書の取扱ひを爲すと。
 遞相 テイシャウ。遞信大臣の稱。
 遞進 テイシン。かはりかはり進むも。次第次第に進み行くも。
 遞減 テイケン。次第次第に減ずると。等を追ひて次第に減ずると。
 遞減法 テイケンホフ。數金額などの

遞

本を次第次第にへらし利もそれに従ひて減じゆく算法。
 遞信省 テイシンシヤウ。遞信大臣の統轄の下に屬し其意思を承けて郵便・電信・鐵道・燈臺・商船等に關するを司る官省。
 遞信大臣 テイシンダイジン。各省大臣の一にして鐵道・郵便・小包・郵便・郵便爲替・郵便貯金・電信・電話・航路標識を管理し私設鐵道・電氣・造船・水陸運輸業・航路・船舶・海員等を監督するもの。
 遞信行政 テイシンキョウサイ。専ら交通機關の改善發達乃至保護に關する行政。
 逕 夕フ。ドフ。あつまる。まじはる。およぶ。とどく。ソンの。がる。したがふ。ゆづる。へりくだる。さくる。
 逕心 ソンシン。へりくだる心。謙讓

遶

遶心。又遶意といふ。
 遶友 ソンイウ。謙遜なる友人。やさしき友。
 遶讓 ソンジヤウ。へりくだりて人にゆづると。謙讓。
 遶避 ソンヒ。へりくだりて避くる。ありさま。へりくだりたるやうす。彼に比して更に一なし。
 遶位 ソンイ。天位をゆづりたまふ。へりくだりて位をゆづると。
 遶辭 ソンジ。へりくだりたる言葉。遶恭 ソンキョウ。へりくだりて恭し身を持つ。
 遶馬 ソンバ。馬を散歩すと。遶打 ソンダ。運動すると。
 遶遙 エウ。さほし。はるか。ながし。遶村 エウソン。遠方の村。

遶

遶看 エウケン。はるかに看ると。
 遶馬 エウマ。はるかに遠き貌。
 遶遠 エウエン。はるかに遠きと。
 遶映 エウエイ。さほくうつると。
 遶拜 エウハイ。はるかにはなれたる所にありて神佛などを拜する。
 遶昔 エウセキ。おほむかし。「と。
 遶眺 エウテウ。遠くから見ると。
 遶蕩 エウダウ。心のさだまらざると。
 遶空 エウクウ。はるかなるそら。
 遶村 エウソン。遠方のむら。
 遶指 エウシ。はるかなるかたを指す。「君徳を。」
 遶望 エウバウ。はるかに望むと。
 遶拜式 エウハイシキ。遶拜の爲に行ふ式。
 遶拜所 エウハイショ。遶拜をなすために設けたる場所。
 遶 夕方。コウ。ク。あふ。およぶ。かまへる。むかへみる。タフ。
 遶 ありむ。みたり。

遲

古文の道の字。
 チ。ヂ。おそし。ひきし。ゆるやか。いこふ。たたすむ。みやびやか。はるか。ながし。くづる。とほし。やぶる。まつ。すなはち。天の未だ明けざるころ。天明をまつ。
 遲日 チジツ。春の日。日あし永く暮る。ことの遅きをいふ。「と。
 遲引 チイン。おそくなるも。延引す。
 遲延 チエン。おそくなるも。ながびくも。「利子。
 遲速 チソク。おそきさはやきと。
 遲明 チメイ。夜あけまへ。
 遲刻 チコク。刻限に遅ると。「と。
 遲着 チチヤク。期に後れて到着する。
 遲遲 チチチチ。あやうずしたるさま。又はゆるやかなるさま。若くは春

○二二一
の日ののどかなるさまにいふ語。○一たる春光。

遅鈍 チクン ゆるやかなる。のろきと。おそきと。

遅滯 チクタイ とごこほると。すすまぬと。おそくなる。

遅鈍 チクン ゆるやかにしてのろき。のろくしてにぶき。

遅疑 チクイタ ふたふと。ためらふこと。うたがひ。まよひてぐづすこと。躊躇。狐疑。

遅暮 チクネ 年よると。「参ると。遅参 チクン 定めの際より遅く遅熟 チクク 時候よりも遅くなつて實が入ると。馴に後れて成熟すること。

遅延利息 チクエンリク 元金の返済を遅延したるとき返済の期日より遅延して辨済する日までの利息。

【逐】 トン。通の本字。にぐ。のがる。

逐逃 トシク にぐる。のがる。トシク にげはしる。「と。逐世 トシイ 世を捨つると。戸主たる地位を去りて世事に關せざること。

逐竄 トシク にげかくる。のろむ。中立地にす。

逐出 トシク のかれいづると。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

【遮】 シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮日 シジツ 日をさへぎること。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮扞 シヤカン へぎりとむむること。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮留 シヤリウ さへぎりとむむること。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮抑 シヤウ 面をおほふこと。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮斷 シヤタン さへぎりたつこと。シヤ。セ。さへざる。おほふ。たつ。まもる。をかす。とどむる。まちぶせ。

遮欄 シヤラン てすり。「交通」。

遮莫 シヤク しかあらばあれ。さもあらばあれ。それほさうと。サウ。ソウ。あふ。

【遭】 サウ。ソウ。あふ。めぐる。めぐりあふ。サウ。ソウ。あふ。

遭遇 サウウ 出で會ふこと。はからずも出會すること。又遭會といふ。

遭難 サウナン 災難に遇ふこと。サウ。ソウ。あふ。

遭回祿 サウワイク 肉體と精神と實際論 サウワロン 肉體と精神とは相互直接に作用するものにあらすして一者或變化の起りし時神が其の間に立ちて前者に相應する變化を他者に來さしむるものなりと説く見解。

【適】 ソク。チヨク。となふ。すみやひ。はやし。ちぢむ。ひらく。はる。

適實 テキシ 實際にあてはまると。テキ。チヤク。ゆく。よりかなふ。したがふ。ひとし。せむる。いたる。たよ

【適】 ソク。チヨク。となふ。すみやひ。はやし。ちぢむ。ひらく。はる。テキ。チヤク。ゆく。よりかなふ。したがふ。ひとし。せむる。いたる。たよ

つし。あるじ。したしむ。

適人 テキシ 人の家に嫁ぐこと。よめいりする。想にす。

適中 テキチュウ よくあたると。豫

適心 テキシ 氣に入ると。心にか

適口 テキコウ 口になふこと。味よ

適宵 テキヨウ 夜もすがら。

適用 テキヨウ あてはむると。あて

適切 テキセウ よくあてはまると。

適切 テキセウ よくあてはまると。

適任 テキン その任によくかなふ

適役 テキヤク ある役によくかなふ

適否 テキヒ かなふとかなはぬと。

適妻 テキサイ 正妻。木妻。「す。

適法 テキフ 道理にかなふと。正

適嗣 テキシ 適當なるあそつき。

適當 テキタウ よく相應すること。あ

【適】 たのしむ。

適者生存 テキシエンシ ヨン 進化論の語、自然又は競争に堪えて能く生存を全ふし得といふこと。

【適】 たのしむ。

十一畫

【遠】

レウ。とほし。

遼遠

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

遼遠

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

遼迴

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

遼落

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

遼豕

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

遼東豕

レウ。とほし。水の名。はるか。水の名。

【選】

ゴ。ガク。あふ。むかふ。もごる。さかふ。おどろく。ふるる。

【遺】

遺制。まゝむかしの制度のあまにのこれるもの。

遺風。マツのこれるならひのこれるをしへ。

遺事

マツ生前仕残したる事柄。古來のこり傳はれる事跡。もれおちたる事跡。

遺書

マツ書き置き。死者の残せる書。後世にのこしたる書。

遺訓

マツ遺言による教訓。臨終のいましめ。

遺族

マツ死者のあとに遺れる家族。戦死者の。

遺財

マツ跡にのこりたる財産。遺烈。マツ功績のあとに残ると。後世までも残れる功勳。

遺產

マツ死者の一身に專屬せざる財産にして未だ相續者に歸せざるもの。

遺脫

マツぬげ落ちること。もるる遺胤。マツおとしたれ。父の生前母の胎内に宿れる子。

遺子。マツ父母の死後に遺れる子供。又遺兒といふ。

遺矢

マツ大小便をさりばなすといびたり。

遺文

マツ生前に書き残したる遺功。マツあとまでも残るいさを。ながく後世に残る勳功。

遺失

マツ取り落すこと。忘るゝこと。遺臣。マツ主君の死後に残れる家來。先代の臣。

遺存

マツ思ひ残り。思ひのこること。あとにのこりあること。

遺名

マツあとまで名を残すこと。後世までのこれる名。

遺弟

マツ死去したる人の門人。遺法。マツ古人の残せしおきて。遺音。マツ古人の後世にのこしたる音調。

遺忘

マツもの忘れすること。遺香。マツのこれるかたり。遺戒。マツゆめごんしていましむること。遺訓。

遺詔。マツ天子の御遺す。遺寫。マツ寫し落しをすること。遺留。マツわすれおくと。死後に遺すとごめると。手荷物の遺愛。マツ生前に愛したるもの。遺棄。マツのこしする。遺跡。マツ古跡。死者のあとめ。遺業。マツ死したる後に残せる事業。人の死したる後の事業。遺漏。マツぬげ落ちること。もるること。一を補ふ。

遺德。マツ後世までも残れる徳。遺骸。マツなきがら。しかげれ。遺腹。マツ忘れがたみ。父の死するとき尙ほ母胎にある子。父の死後に生れたる子。事業。遺緒。マツ先人の遺し置きたる遺傳。マツ生物の有する性質の傾向が其の系統を受けて生じたるものにのこり傳はること。親子代々血すぢなどの傳はること。

遺志。マツ生前前途に抱ける志。遺言。マツ死するときにいひのこと語。死者が自己の死後に法律上の効力を生ぜしむる目的を以てなしたる意思。「命令」。遺命。マツ死に臨みていひ遺す遺物。マツかたみ。死去したる人のあとに残せるもの。わすれもの。おとしもの。「文」。遺券。マツあとあごに残れる證遺尿。マツ寝小便。いびたり。よつぱり。

遺典。マツ古より傳はれる法典。遺芳。マツあとに遺れる香り。後世にのこれる筆跡。遺骨。マツなきがら。死者のほれ遺計。マツ計をあやまること。遺俗。マツ古より傳はれる風俗。遺風。マツ「りおしくおもふこと。遺恨。マツ永くのこるうらみ。遺金。マツわすれおきたる金錢。

遺精。マツ睡眠中にはからず精遺塵。マツすぐれたる人のあと。遺廢。マツすたること。遺落。遺髮。マツかたみのかみの毛。遺憾。マツ残りおしきこと。残念なること。遺稿。マツ死者が残せし詩歌・文遺贈。マツ物を人におくこと。おくりもの。「法」遺言を以て自己の財産を無償にて他人に與ふること。「頼」。遺囑。マツ死者のいひ遺せる依遺蹟。マツ後世までも残れる古代前人の事業のあと。古蹟。遺類。マツのこれるやから。遺族。遺失品。マツ遺失したる品物。遺失者。マツ物を遺失したる當人。遺留品。マツわすれもの。遺留分。マツ（法）被相續人の遺產中其自由に處分するを禁

じ、必ず遺留すべきものと規定せられたる部分。
遺傳病 昔シキヲ祖先又は親より遺傳したる病氣。
遺産相續 昔シキヲ(法)死亡者の遺産をうけつぎて自己の所有となす。
遺族扶助料 昔シキヲ遺族を扶助するために給與する金。
遺産相續人 昔シキヲ遺産を相續する人。
遺選 イツ。キツ。イチ。こゝにくるひはしる。ひがむ。したかふ。よる。のぶる。よこしま。
選 セン。サン。えらむ。せる。つかはす。しばらく。かぞふる。すぐる。おそる。はかる。ひとし。かす。よわし。めぐりまふ。
選入 センラ。えらびて其中へ加へ入る。

選士 センシ 選拔せられたる武士。
 選才 センサイ 衆にすぐれたる才。
 選什 センシツ 詩文などのえりぬきたるもの。傑作。
 選手 センシュ 競馬・野球・競艇などに選まれて技を行ふもの。すぐれて競技に巧みなる人。「科」
 選科 センカ 選擇して學習する學選者 センヤ 選擇の局にあたる人
 選伐 センバツ 立木などを選擇してきる。
 選評 センビョウ えらびて批評する
 選用 センヨウ 選拔して採用すると
 選出 センシュツ えらみだすと。えりだすと。代議士を「と」
 選錄 センロク えらびてのせ加ふる
 選歌 センカ うたをえらぶと。えらばれたるうた。「ると」
 選任 センニン えりぬきて役に任ず
 選拔 センバツ えりぬくと。多くのもの、中よりよきと。
 選閱 センエン えらみけみすと。

選擇 センタク えりぬくと。善しとするものを取り悪しとするものを取らざる。
選良 センリョウ 衆にすぐれてよきもの。多くのものより推されて或位地に擧げられたるもの。代議士などを一國の「といふが如し」。
選簡 センカン えらびあれたむる。えらびけみすと。
選舉 センヨウ 多人数の中よりえらみあぐると。投票などにて人を選ぶと。「拔擢すると」
選擢 センタク えりぬきてあぐると
選舉人 センヨウジン 代議士などを選舉する人。選舉の資格あるもの
選舉權 センヨウケン 選舉人たる權利。選舉に参加し選舉を行ふ權利。
選舉區 センヨウク 衆議院議員を選舉する爲に設定したる土地の區域。
選舉長 センヨウチャウ 議員の選舉を

行ふときに選舉に關する事務を統轄するもの。
選舉場 センヨウチャウ 選舉を行ふ所。
選舉會 センヨウカイ 衆議院議員の總選舉を行ふとき投票管理者。選舉立會人等相會して其選舉區内の投票紙によりて當選人を定むる會をいふ。
選舉法 センヨウホウ 選舉人及被選舉人の資格並に選舉の方法等を規定したる法律。
選科生 センカウセイ 選科の生徒。
選言的 センゲンテキ(論)命題の主辭と賓辭との關係に就きて選擇をなす意義あるにいふ。
選擇債務 センタクセム 法)債權の目的二個以上ありて當事者の一方は第二者の選擇に依り其中の一個の給付を以て辨償を爲すと。
選舉運動 センヨウウドウ 或人を選擧の當選者たらしめん爲め

走周旋すると。
選舉干涉 センヨウカンショウ 政府の當局者が公力を藉りて民選議員の選舉に干渉し敵黨を妨げて自黨の候補者を多く當選せしめんとする。
選舉資格 センヨウシカク 選舉人たることを得る法律上の資格。
選舉訴訟 センヨウシヨウ(法)衆議院の選舉の効力に關し異議ある選舉人が選舉の當日より三十日以内に選舉長を被告として控訴院に出訴すること。
選舉場裡 センヨウチャウリ 選舉を行ふ場所。選舉を行ふ最初より終り迄の間をいふ。逐鹿を爭ふ。
選舉人名簿 センヨウニンネボ 選舉區内に於て選舉資格あるもの氏名・官位・職業・身分・住所・生年月・納税額及納税地等を記載したる帳簿。

選舉立會人 センヨウタテヒニン 選舉會に立會ひ監視するものにして選舉長が選任するものとす。
遷 セン。うつる。うつす。はなつ。かへる。のぼる。さがる。せむる。ひくきを去りて高きにつく。
遷化 センカ 僧侶の死ぬと。「り」
遷居 センキョウ わたまし。ひきうつ
遷斥 センセキ うつしりぞくこと
遷延 センエン のびのびになること。
遷幸 センサイ 天皇の都を他所へ移らせらるること。
遷宮 センキョウ 宮を移すと。神靈を新宮にうつすと。
遷徙 センシ 移すと。うつると。
遷移 センイ うつりかへり。
遷渝 センユ 次第次第にうつりかはること。
遷喬 センキョウ 卑きより高きに登ると。善き地位又は方向にうつり

邀招 エウサウ ムカヘ招くと。
邀撃 エウゲキ まらまうけてうつとむかへうつ。**敵**を退路に―す

邀要 エウエウ ムカヘもむむむむ。
ヒ。ビ。のがるる。

【避】 さくろ。そむく。さる。
避脱 ヒクダツのがれ脱すると。
避暑 ヒキサケいみると。

避穀 ヒコク 五穀をたちて食はずる。**こ。く。い。み。**

避寒 ヒカン 冬の寒さをさくると。
避廻 ヒクワイ にげさくると。廻避。

避難 ヒキナン 災危をさくると。
避地 ヒキチ 隠れ家。隠遁すると。

避水 ヒスイ 水をさくると。
避世 ヒセ 世をのがれかくると。

避路 ヒキロ ぼけみち。間道。**「こ。」**
避者 ヒキヤ ねれちけたる心の人。奇僻の行を好む人。
避難地 ヒキナンチ 避難してある地。

避病院 ヒキヤウイン 流行病患者を收容する病院。
キヨ。コ。にはか。きびし

【遽】 せまる。なののく。すみ
やか。はやし。いそぐ。と

遽急 キウキウ さしせまりてにはかなる。急卒なると。

遽疾 キウジツ さしせまりたる貌。
遽人 キウジン 走り使ひ。ひきやく。

遽然 キウゼン にはかなるさまにいふ語。にはかに。あはて。又連々さいふ。

遽惶 キウキウ 恐れあわてると。
十四畫以上

【邊】 ぱく。ミヤク。はるか。とほし。いきどほる。あなごる。もだへる。かるんす。しのぐ。
邊逸 バグダク はるかにはれたるありさま。又は極めて古きさまに

邊土 ヘンド 都に遠き片田舎。あなか。くにざかひ。『田舎の民。』
邊民 ヘンミン 都に遠き國の民。片邊尼 ペンネイ 英國の銅貨凡そわが二錢〇一毛五絲にあたる。
邊夷 ヘンエイ 遠き夷國。

【邊】 幾何學にては多角形を圍める直線の限界たる部分の稱。

【選】 選言 ジゲン ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選遠 イケン はるかに遠きこと。① ちかし。うつる。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

邊守 ヘンシュ 國境の兵備。外寇に備ふる軍備。

邊防 ヘンポウ 國境の防禦。

邊邑 ヘンイ 片田舎。僻邑。

邊材 ヘンサイ しらた。木材の白色を呈せる木質部。

邊見 ヘンケン (佛) 斷常の二邊を執して中道を見ざる事。

邊帥 ヘンシュ 國のさかひを守る兵隊の總督。邊軍の大將。

邊戒 ヘンケイ 國境の警戒。

邊軍 ヘンくん 國境にありて其守備に任ずる軍隊。國はづれの軍隊

邊要 ヘンヤウ 國境にある要害の地

邊海 ヘンカイ あたりのうみ。國の端の海。遠きところの海。

邊域 ヘンキョク 都に遠き片田舎。

邊陲 ヘンシ 國のさかひ。片田舎。

邊寇 ヘンコウ 國境に侵入る敵。

邊幅 ヘンフク はし。へり。身のまはり。容儀。①一を飾らす。

邊隅 ヘンクウ 國の片すみ。

走部 十四畫以上

走部 十四畫以上

邑部

邊國 ヘンコク 海邊に接したる國。邊傍 ヘンポウ そば。かたはら。ほとり。漢字の邊をつくりと。又邊側といふ。

邊塞 ヘンサイ 國境のとりで。邊壘。ヘンレイ くにざかひ。國境。

邊境 ヘンキョウ くにざかひ。國境。邊鄙 ヘンビ 都會に遠き片田舎。不便なる土地。あなか。

邊備 ヘンビ 國境の兵備。

邊處 ヘンショ 片田舎にをると。かたるな。

邊隣 ヘンリン 近きさまなり。近所。近邊關 ヘンケン 國境にある關門。

邊壘 ヘンレイ 國境のとりで。國さかひの堡壘。

邊警 ヘンケイ 國境の警戒又は警報レフ。ラフ。

【遼】 レイ。マイ。おそる。すくくじく。ゆく。

【遼】 しゆるやかにあるく。

【遼】 ラ。しのびのもの。みまはる。めぐる。さへざる。

選卒 ラクソウ 見廻りの兵卒。巡邏する兵。

選巡 ランジュン 巡り歩きして様子を見る兵。

選兵 ランメイ みまはりの兵。巡邏する兵。

選騎 ランキ 巡邏する騎馬武者。

選齋 ランサイ 僧の布施を請ひあること。托鉢。轉じて乞食の異名。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

【選】 選言 ためになるよきことば。淺近のことば。

邑宰 イワイ むらのかしら。むら

邑里 イリ むらごと。又邑閭とい

邑人 イジン むらびと。さとびと。

二四畫

邨 サウ マウ。

邨 ヤマ の名。

邨 キヨウ ウ。ク。やまひ。

邨 ヨウ ヲ。ク。たまりいけ。ふ

邨 シヤ ヤ。セ。よこしま。

邨 ナ なめ。ただしからず。

邨 モ もとる。もちれる。ゆが

邨 ム む。あしし。おもれる。ひ

邨 ダ だり。不正なるも。小人。

邨 ト 時候の人身に害を爲す

邨 ヨ よこしまなる心。よ

邨 ヨ よこしまなる心。よ

邨 ヨ よこしまなる心。よ

邨 ヨ よこしまなる心。よ

邪正 ジャセイ よこしまとたゞしき

邪神 ジャシン 不正なる神。

邪行 ジャギョウ よこしまなる行ひ。

邪臣 ジャシン よこしまなる家來。

邪私 ジャシ よこしまなること。

邪見 ジャケン 無慈悲に人を扱ふこ

邪性 ジャセイ よこしまなる性質。

邪法 ジャフ よこしまなる法。正

邪計 ジャケイ わるだくみ。あくさ

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪念 ジャネン わるき心。よこしま

邪教 ジャクワウ 不正なる宗教。世道

邪淫 ジャイン (佛) 五戒の一、妻又

邪術 ジャジュツ まはふ。よこしまな

邪智 ジャチ れぢけたるちふ。わる

邪推 ジャサイ れぢけたるあて推量

邪意 ジャイ よこしまなること。ろ

邪視 ジャシ よこめ。ながしめ。

邪宗 ジャシュウ 正しからざる宗旨。

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪道 ジャダウ よこしまなる道。不

邪曲 ジャキョク よこしまなること。不

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪心 ジャシン よこしまなる心。よ

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邪説 ジャセツ 世を迷はす説。不正

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

邦制 ハウセイ 國の建て方。國家の

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

那山 ナサン 億の千萬倍(梵語)

邑部 五十七畫

邯

カン。ガシ。地の名。水の名。

邯鄲 カンチン 小唄の名。諸曲の名。

邯鄲歩 カンチンフ 一つを守らず多くに志して一も爲し得ざるに譬へていふ語。學びの道の中途に入げにして何等の効なきにいふ。

邯鄲夢 カンチンノユメ 人の世の夢の如くはかなきにたさへていふ語。又邯鄲の枕といふ。

邯鄲師 カンチンシ 旅客の睡中をうかがひ其懐中物などをぬすむもの。まくらさかし。

邱

キウ。ク。邱に同じ。

邱陵 キウリヤウ 小山。こたかき岡。邱壘といふ。

郊

カウ。ケウ。なか。のほらひろの。まつりのな。くるはぞこ。天地を祭る祭

邑部 五十七畫

郊

カウ。ケウ。市街のまわりの野邊。まちのはづれの野。散策。

郊行 カウカウ 野邊あるきすること。郊外の散歩。遊ぶと。

郊遊 カウイウ 野遊び。野に出でて遊ぶ。やまをか。

郊墟 カウキョ 野原のべ。はら。

郊原 カウケン 野原のべ。はら。野邊。

郊野 カウヤ のほら。市街はづれの

郊兆 カウテウ 天地をまつるには。

郊野 カウノ ぬなか。かふと。

郊野 カウセン 都會の附近にてたつり。

郊外散步 カウガイサンボ 町外れのシツ。チツ。いたる。のぼる。はたさほ。おほいな

邳

カウ。ケウ。いなる。のぼる。はたさほ。おほいな

邑部 八十九畫

郁

イク。オク。さかんなり。かうばし。地の名。

郁文 イクブン 文物の盛なること。

郁郁 イクイク 物事の盛に榮ゆる貌。文物のさかんなる貌。

郁氣 イクキ かくばしき氣。

郁烈 イクレツ 香氣のばげしき貌。

郁李 イクリ (植) 薔薇科に屬する木。葉は廣披針形を爲し花は小形にして五瓣白色。果實は小形の球状を爲し食ふべし。

邳

ケイ。ケ。あがたのな。

八九畫

郤

ゲキ。キヤク。ひま。あぶぐ。あひだ。骨肉の突り。なかたがひ。隙と通す。

郤行 キヤクカウ 客を門に迎へ恭敬してあさしざりして退くこと。

郤老 キヤクラウ (植) くこの木の異名。

邑部 八十九畫

郛

ケン。エン。こほり。むらがる。むれ。あつまる。(法) 地方團體の一にして又行政區劃の一、町村を包括し法人として第一次に府縣知事、第二次に内務大臣の監督を受け法令により事務を處理するもの。支那にては周以後宋以前の行政区

郛金 キョウキン 借金をかへすと。

郛走 キョウソウ しりぞき走ると。

郛退 キョウタイ しりぞくこと。

郛郛 キョウキョウ 詩文の添削を乞ふとき用ふる語。

郛曲 キョウキョク 今様風のうたひもの。郛は支那春秋戰國時代の楚の都なり。郛の歌曲は淫靡なりしより俗曲を稱して郛曲といふ。

郛代 キョウダイ 徳川幕府の直轄地に置きし役、即ち郡奉行。

郛部 キョウブ 郡に屬する部分。郡の部分。市部の對。

郛會 キョウカイ 郡内の町村より選出せられたる議員を以て組織し郡の歲出入豫算其他郡政の重要なる事件を議決する機關。

郛縣 キョウケン 郡と縣。行政区劃の

邑部 八十九畫

郛役所 キョウヤクショ 郡の行政事務を

郛令 キョウレイ 一郡の區域内。郡内せられたる範圍内に於て發する行政命令。

郛領 キョウリョウ 昔郡の大領と小領

郛村 キョウソン 郡と村と。あなが。

郛吏 キョウシ 郡長の指揮統率に屬し其意思を受けて事務を扱ふ人。郡役所の吏員。

郛内編 キョウナイヒン 甲斐國郡内地方より織出す絹織物。かき織の一種。

郛奉行 キョウホウキョウ 代官の頭。郡の庶務をすべつかさどる武家の役。

邑部 八十九畫

郛組合 キョウガヒ (法) 二郡又は二郡以上が共同して特定の事務を處理するために設置する組合。

邑部 八一九畫

郡村宅地 ケンケンタチ 市街宅地以外
の宅地の稱。

郡會議員 ケンケンギ 郡内の町
村公民にして町村會議員の選
舉權を有し且其の郡内に一
年以上直接國稅年額三圓以上
を納むるものより選舉せられ
て郡會を組織する議員。

郡縣制度 ケンケンセド 中央政府よ
り地方にひとしく政令を布く
制度。國を郡縣に區劃して行政
を行ふ制度。

郡參事會 ケンケンシカイ 郡長・郡參
事會より成れる合議制の機
關にして郡行政に參與し郡會
議決の範圍内に於て郡行政の
重要な事件を議決し、又臨時
緊急の事件ありて郡會を召集
する暇なきとき郡會に代りて
議決をなすもの。

郡參事會員 ケンケンシカイギ 郡參
事會を組織する名譽職。郡會議
員中より互選す。

邑部 八一九畫

郎 ラウ をとこ。なつと。

郎子 ラウシ 年若き男子を愛し親
みて呼ぶ稱。「しみて呼ぶ語。

郎女 ラウニョ 年若き女子を愛し親
わかつ。とのこ。良人。

郎君 ラウケン 女が男に對する敬稱

郎從 ラウジユウ いへのこ。らうごう
郎黨 ラウトウ 家の子。けらい。又郎

等。に作る。

郎 ラウ カク。セキ。シヤク。
たがやす。さとのな。
フ。さつと。

郎 ラウ くるわ。

郎 ラウ イウ。ウ。ひとやご。しゆ
くば。せむる。もつとも
とが。すすむ。あやまち。
いへ。おほし。ほとり。

郎 ラウ 郵便脚夫。郵便脚達夫

郎 ラウ 郵信 ラウシン 郵便にて通ずる音信
手紙のたより。

邑部 八一九畫

郵亭 ラウテイ 郵便の取扱ひをなす
しゆくば。宿次ぎを爲す所。

郵便 ラウビン 公共の通信を目的と
して信書又は一定量の物品を
遞送する業務。

郵程 ラウテイ しゆくつきのみちの
郵便税 ラウビンゼイ 郵便を出すものより
郵便局に納むる料金。郵便税。

郵送 ラウソウ 郵便にて送ると。

郵書 ラウショ 郵便にて發する書狀

郵券 ラウケン 郵便切手。「便船」

郵船 ラウケン 郵便物を積む船。郵
電 ラウデン 郵便と電信と。「き」

郵驛 ラウエキ しゆくば。しゆくつ
郵送料 ラウソウリョウ 郵便にて物品を
送附するに要する料金。郵税。

郵便局 ラウビンキョウ 郵便物の遞送
業務及び郵便貯金・郵便爲替等
の事務を取扱ふ局。

郵便物 ラウビンモノ 凡て郵便にて送
るものの稱。四種の別あり、即

邑部 八一九畫

ち書狀は第一種、はがきと往復
はがきは第二種、毎月三回以
上發行する定時印刷物とその
附録とは第三種、書籍・帳簿・書
畫・營業品の見本・農産物の種
子などは第四種。

郵便函 ラウビンブツ 郵便物を投入す
る爲に各所に附けある函。ポス
ト。

郵便船 ラウビンセン 郵便物を遞送し
たれて航海中は船中にて郵便
事務を取扱ふ船。

郵便切手 ラウビンキッテ 郵稅拂ひ濟
の證として書狀その他の郵便
物に貼用する切手。

郵便貯金 ラウビンチヨキン 郵便局の
取扱ふ預金。

郵便爲替 ラウビンカハセ 郵便を以て
取扱ふ送金の方法。

郵便飛脚船 ラウビンヒキョクセン 郵便
物のせて航行する船。

郵便爲替券 ラウビンカハセケン 郵便

爲替の證券。又郵便爲替證券と
いふ。

郵便集配人 ラウビンシライニン 郵便
物を各所の郵便局より取り集
め又到達せし郵便物を夫々配
達する使丁。

郵便振替貯金 ラウビンアラカヘチヨキン

郵便貯金の手續によりて金銭
の取引ある人の預金を帳簿上
にて受拂を爲し相互の貸借を
完了せしむる制度。

郭 クワク くるわ。おほぐ
るわ。そとがこひ。おほ
がまへのささ。はかる。

郭公 クワクコウ ほととさすの異名。
ホウ。ア。すぶる。つかさ
かしら。さかひ。わかづ。
しらす。物事の區分。こ
わけ。物事の一方。書物
の全體。

郭 クワク 下の全體。

郭 クワク 下の全體。

郭 クワク 下の全體。

郭 クワク 下の全體。

郭 クワク 下の全體。

郭 クワク 下の全體。

邑部 八一九畫

部 ブ の區別。ぶわけ。局部。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

部 ブ 各部を定めて手わけすること。

邑部 八一九畫

邑部 八一九畫

限を委任せられたるもの。
部分攻撃 ヲソコガキ 總體の或一部の缺點を指摘し又は總體中の一局部の缺陷に乗じて之を攻撃すること。
ガク。あらそふ。ただす。おどろく。かぎり。ト。ツ。みやこ。すべて。さかんなり。みづたまりをる。くに。

鄂

都

都人 トシ。みやこびと。市府に住む人。市民。 「輩下。都下 トカ。都のうち。みやこ。府下 トカ。琵琶法師。如一。檢校の流の總稱。
都市 トシ。都のまち。みやこ。都會 トシ。あんなばい。様子。手筈。通計。
都邑 トウ。都と田舎と。市街と村と。澤の中にある小山。澤と岡と。
都府 トウ。一國の首府。みやこ。

邑部 八一九畫

都門 トシ。都の入口。みやこ。都門に入る。
都俗 トシ。都の風俗。
都度 トシ。たびたび。毎々。その度毎に。其一通知すべし。
都城 トシ。みやこ。都市にて城郭のあるところ。在郷の士族のさき。
都尉 トシ。支那秦の頃武事を司り都統 トシ。衆人をすべおさむる。總大將。
都雅 トシ。みやこびやかに美しきこと。みやこ。風雅。文雅。
都會 トシ。みやこ。人家しげく人口多く繁華なる市街。
都督 トシ。すべひきある大將。一方面に於ける軍務及び政務を監督する官。近衛兵の長官。明治二十九年創設せられ三十七年廢止されたる職。當時の全國十二師團を東部・中部・西部に分ち

邑部 八一九畫

各一人を置きてその部内の各師團を管轄せるもの、天皇に直隸し陸軍大將又は中將を以て親補せられたり。
都鄙 トシ。都と田舎と。市街と田舎と。
都養 トシ。衆人のまかなひを爲すこと。
都聚 トシ。あつまること。寄せ集まること。
都講 トシ。一番弟子。塾頭。學生。
都窟 トシ。食物をむし炊きする大なる竈。
都督府 トシ。都督の事務を處理する所。
都督部 トシ。各都督がおのづから其の事務を取扱ふ所。
都人士 トシ。都の人。みやこに住める人々。
都都 トシ。俗曲の小歌。七・七七・五の四句よりなり最も多く流行するもの。
都了張了 トシ。都督が職權都督府令 トシ。都督が職權

邑部 十畫

郷

又は特別委任によりて其の管轄地に發する行政命令。
都督官房 トシ。都督に直隸して秘密の事務を取扱ふ所。
キヤウ。ガウ。さと。と。ろ。むかふ。まど。むかし。さきに。ひびき。支那にて一萬二千五百家を郷といふ。
郷人 キヤウシ。故郷の人。ふるさとの人。さとびと。
郷天 キヤウシ。さやうのそら。
郷地 キヤウシ。ふるさと。くにとも。
郷土 キヤウシ。其の人の生れ出でし土地。ふるさと。さやう。
郷士 ガウシ。地方のさむらひ。農民にして帶刀を許されたるもの。
郷老 キヤウシ。故郷の老人。村のとしより。 「又郷里といふ。
郷邑 キヤウシ。むらさと。ふるさと

十畫以上

郷中 キヤウシ。村のなか。
郷村 キヤウシ。あな。村里。村落。
郷社 ガウシ。神社の格式の一。第四等に位するもの、即ち府縣社の下にして村社の上なるもの。村の神社。 「を以て慰む。
郷信 キヤウシ。故郷からの手紙。
郷思 キヤウシ。故郷をおもふ心。
郷校 キヤウシ。村の學校。あな。の學校。又郷學といふ。
郷國 キヤウシ。ふるさと。本國。生ふるさと。ふるさと。
郷園 キヤウシ。むらさと。ふるさと。
郷愿 キヤウシ。郷里に於て好人物のの評判よき小人。 「うれひ。
郷愁 キヤウシ。故郷を想起しての思ひ。
郷談 キヤウシ。くにもとのけなし。
郷夢 キヤウシ。他郷にて故郷の物事を夢みること。
郷貫 キヤウシ。ふるさと。
郷豪 キヤウシ。村の財産家。
郷關 キヤウシ。故郷の入口。むらざかひの門。ふるさと。 「を

邑部 十畫

邑部 十一畫以上

鄆

鄆

鄆

鄆

郷黨 キヤウシ。一郷の内にありて由緒ある農民。郷士。村のなか。の譽れ。
郷土地理 キヤウシ。兒童の就學せる學校のある地方の地理。
鄆 スウ。シウ。
鄆 あがたのな。
鄆 魯 キヤウシ。鄆は孟子の故郷にして魯は孔子の故里なり故に孟子孔子との稱。
十畫以上
シヤウ。サウ。邑の名。
かくす。さほり。
エン。カン。
地の名。
サウ。セウ。
さとの名。
ヒ。ひな。あな。いやしかたばら。かたほさり。おるか。うすし。財に吝

邑部 十一畫以上

邑部 十一畫以上

邑部 十一畫以上

なるもの。王弟子の食邑にして畿内にあるもの。

鄙人 ヒジン 田舎もの。いやしきもの。又鄙夫といふ。

鄙吝 ヒジン いやしく物を惜むこと。財に吝嗇なること。

鄙見 ヒジン 己れの考へを謙遜しないでいふ語。己が見込。又鄙懐といふ。

鄙劣 ヒソク いやしくさもしきこと。心根のいやしきこと。

鄙陋 ヒソク いやしくあさましく、いやしくみだりがはしきこと。けびてけがらはしきこと。

鄙倍 ヒソク 凡鄙にして理にそむき、いやしくしてゆたかならざること。

鄙語 ヒソク いやしき語。あな言のむらがる。むら。

鄙祖 ヒソク あせじゆばん。「葉」

鄙都 ヒソク 田舎の都會。諸國の國府。

鄙野 ヒソク 古の支那の縣の名。やまのはて。つくる。

鄙水 ヒソク 水の名。

鄙隣 ヒソク 隣に同じ。

鄙火 ヒソク となり火の地。「見舞」

鄙地 ヒソク となり土地。

鄙交 ヒソク となり交際。「隣」

鄙向 ヒソク むかふとなり。

鄙佑 ヒソク となり近所に住む人。

鄙好 ヒソク となりのみし。

鄙女 ヒソク となりむすめ。

鄙邸 ヒソク となりやしき。

鄙邦 ヒソク となりむら。

鄙村 ヒソク 又隣邑といふ。

鄙近 ヒソク 地の相近きこと。とな

鄙里 ヒソク となりすまぬ。

鄙舍 ヒソク となりいへ。又鄙屋といふ。

鄙保 ヒソク となり家。あたり

鄙室 ヒソク となりさしき。さな

鄙者 ヒソク となり。さなりの

鄙席 ヒソク となり。次の

鄙家 ヒソク となり。つづく

鄙接 ヒソク となり。つづく

鄙國 ヒソク となり。つづく

鄙街 ヒソク となり。つづく

鄙境 ヒソク となり。つづく

鄙熟 ヒソク となり。つづく

鄙熱 ヒソク となり。つづく

鄙酒 ヒソク となり。つづく

鄙肉 ヒソク となり。つづく

鄙色 ヒソク となり。つづく

鄙肉 ヒソク となり。つづく

鄙酒 ヒソク となり。つづく

鄙酒 ヒソク となり。つづく

鄙酒 ヒソク となり。つづく

邑部 十一畫以上

西部 二二三畫

西部 二二三畫

鄰衢 リンキョ となりのちまた。

鄰郷 リンキョ となりむら。となりのむらごと。

鄰邊 リンペン きんじよ。きんべん

鄰醫 リンイ となり住へる醫師。

鄰婦 リンブ となりの婦人。

鄰翁 リンウ となりの老人。

鄭重 テイチュウ 丁寧なること。れんご

鄭聲 テイセイ 猥雑・野鄙なる俗曲

鄭衛 テイエイ 俗曲の淫猥にして人心を亂す者を鄭衛の音といふ。

鄠 コ 地の名。

鄠 コ 地の名。

酉部

酉 ユ 十二支の一。イウ。ユ。

酉町 ユチウ 十一月の酉の日に

酉日 ユジツ 十一月の酉の日に

酉祭 ユマツリ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酉會 ユカイ 十一月の酉の日に

酒保 シホ さかやのやとひ人。軍隊の中にて軍人に飲食物をひきつぐ所。

酒戶 シユ 酒舖。さかや。飲酒の

酒戒 シユカイ 禁酒のいましめ。

酒母 シユボ 醸酒の原因となる菌の類。酒などを醸すとき用ゐる

酒仙 シユセン 大酒のみ。大酒家。

酒色 シユシキ 酒と女色。「酒に溺

酒肉 シユニク さげさかな。「酒

酒狂 シユキヤウ 酒に酔ひ狂ふこと。又その性質。

酒肴 シユカウ さげさかなのこと。

酒杯 シユハイ さかづき。

酒店 シユテン さかや。酒戶。さかみや。又酒坊といふ。「ごんく

酒毒 シユドク さげのどく。飲酒の

酒食 シユシヨク 酒を飲み物を食ふこと。のみくひ。酒と膳部と。

酒客 シユカク 酒のみ。

酒席 シユセキ 酒宴の席。宴席。

酒宴 シュエン 酒もり。宴飲すること。
 酒鬼 シュキ 酒仙。大酒のみ。大酒家。
 酒家 シュカ さかや。さけみせ。さけのり。
 酒資 シュシ さかだ。い。
 酒徒 シュト さけのみ。な。か。ま。
 酒榷 シュカ 酒を賣りて利益を獨占すること。
 酒榜 シュバウ さかやのかんばん。
 酒氣 シュキ 酒の氣。酒のにはひ。
 酒海 シュカイ 昔酒をもりし一種の酒をのみたるけはひ。粉々。
 酒造 シュゾウ 酒をつくること。「器」。
 酒商 シュシャウ 酒商人。酒の取引をする商業。「分量」。
 酒量 シュリヤウ 酒をのむかき。酒の量。
 酒痕 シュコン 酒のしみたるあこ。
 酒税 シュゼイ 酒に課する税金。
 酒壺 シュカ 酒を盛る器。
 酒蓋 シュカ 酒の蓋。
 酒亂 シュラン 酒により亂れること。
 酒精 シュキウ 酒を蒸溜したる液。その性よく燃ゆるを以て燈油の代りに用ゆ。アルコール。
 酒興 シュキウ 酒宴のなぐさみ。酒を飲みての興味。乗じて。
 酒槽 シュカ 酒を盛る器。
 酒舖 シュカ 酒を賣りて利益を獨占すること。又酒肆といふ。
 酒樓 シュロウ 料理屋。おちやや。
 酒類 シュルビ 酒の種類。酒造税法には清酒・濁酒・白酒・味醂・焼酎及び酒精をいふ。
 酒器 シュキ 酒を酌むに用ふる器。
 酒戦 シュセン 互に酒のみあひて酒量の優劣をあらそふこと。
 酒癖 シュキ 酒に酔ひたるよきのくせ。さか。くせのよからぬ性質。
 酒旗 シュキ 酒の旗。
 酒債 シュサイ 酒代のかげ。
 酒壇 シュバン 酒徳利。酒を入る壇。
 酒釀 シュラン 酒を醸すこと。酒の醸すこと。
 酒樽 シュン 酒を盛る器。さかだる。さかつば。
 酒麩 シュク 酒の上のたばこ。
 酒造税 シュゾウゼイ 酒造の石数に應じ一定の税率によりて徵收する税。
 酒精分 シュキウブン アルコールの成分。
 酒石英 シュセキエイ (化) 酸味ある結晶體にして少しく水に溶解し葡萄酒を貯へたる樽に自然に凝り生ず。薬品及染料に供す。
 酒石酸 シュセキサン (化) 無色透明の結晶體。酒石英にて製したる薬品。味頗る酸し。
 酒吐氏 シュトシ 酒を醸す人。
 酒造年度 シュゾウネンド 酒造税法にて酒造に關して定めたる年度。十月一日より翌年九月三十日迄の期間。
 酒造組合 シュゾウクワヒ 營業上の弊害を矯正し信用を保持することを目的として酒家の組織する公共團體。

酒精洋燈 シュキヤウテイ 酒精を油の代用として火をともしらんぶ。
 酒囊飯袋 シュウツクン いたづらに酒食するのみにてはたらきなき人をあざけりていふ語。
 酒池肉林 シュチニクリン 豪奢を極めたる大仕掛の酒宴を形容していふ語。「の人をいふ」。
 酒麩飯囊 シュウツクン 無智無能チウ。ヂウ。あつし。こきさけ。か。も。す。こ。き。しんしゆ。
 配目 ハイキク 目を諸所にくばりて見ること。注意すること。
 配石 ハイシキ 圓碁などにて打石を盤面に配置すること。
 配札 ハイカク ふたをくばること。くばりふた。「りわたすこと」。
 配付 ハイフ くりあつること。くばりふた。「りわたすこと」。
 配色 ハイシキウ 色をとり合せること。彩色すること。「あはすこと」。
 配合 ハイカウ ざりあはすること。妻配兵 ハイヘイ それぞれ兵隊を配置すること。兵士の配置。
 配味 ハイミ 味を取り合せること。
 配祀 ハイシ 本尊たる神と合せ祀ること。「れたる所」の月。
 配所 ハイショ 流罪の地。左遷せらるる所。
 配財 ハイサイ 財産が社會の各人に分配せらるること。
 配軍 ハイケン 軍の部署を定むること。
 配陣 ハイチン 陣を配りあてること。
 配所を設け置と。「罪に行ふこと」。
 配流 ハイリウ 島流しにすること。流らるること。
 配偶 ハイクウ そへあはすこと。つれあひ。夫婦。
 配符 ハイフ 木片に證文を記して二つに分ち其一片を留め置き他の一片を與へて後日の證とする。わりふ。
 配達 ハイタク くりとぎること。くりとりとぐること。郵便。
 配置 ハイチ 配り置くこと。てくり配當 ハイタク わりあつること。分配すること。銀行會社などが純益金を持株に應じて株主にわりあつること。わりまへ。
 配賦 ハイフ わりつけ。くりつけ。又配布に作る。「なふる」こと。
 配膳 ハイセン 膳部を客にくりつけ配劑 ハイジ 薬を調合すること。くりつけ。わりあはすこと。
 配慮 ハイリウ 心を配ること。心配すること。こころづかひ。
 配謫 ハイチャク 遠方の地へ追放せらるること。

配分器 ハイデンキ(理)蒸汽機關の

汽笛の横側にある箱、此の箱内
にある瓣の運動により蒸汽を
活塞の上下に交々送る用をな
すもの。

配偶者 ハイダウヤ夫婦のうちいづ
れか一方の稱。つれあひ。

配當案 ハイダラン(法)破産管財人
が破産財團の配當を行ふ爲に
調製したる書面。

配當金 ハイダラン 株券の利益金を
株主に配當する金。

配達人 ハイダラン 配達をなす人。
又配達夫といふ。「くる先方。」

配達先 ハイダラン ものをなくばり届
配達證明 ハイダラン 郵便物を
たしかに配達したる事の證明。

配當手續 ハイダラン(法)強制
執行によりて收得したる金銭
の總額が多數債権者の債務を
完済するに足らずして債権者
間の分配協議も亦調はざると

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

配達證明郵便 ハイダラン 小包
シヤク。サク。くみとる。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酌量減刑 シヤクリヤクシヤクイ(法)裁
判官が刑事被告人の罪情をお
しほかりてその職權を以て本
刑より一等若くは二等刑を輕
くすると。

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酬 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

酖 多シシ 酒に沈耽するも。荒

醜魚肆 ほんにつけたるもの。
のを商ふ店。

醜 ラン。ロン。
つけもの。ほしがき。
ウ。フ。さかもり。
あかつき。

醜

醜

九 畫

醜

醜

醜

醜

醜

醜酒 酒の未だ濃ざるも

の。もろみさげ。

醜 カイ。
さかづき。

醜 コク。

醜 あまざけ。

醜 カン。鹹に同じ。
しほがらし。

醜 テイ。タイ。
すみさげ。

醜 醍醐味の。味甘美薬用に供せらるも。

醜 醍醐味。常位の眞理、牛乳より酪。

醜 生酥。熱酥を経て醍醐の味を

醜 生するが如く方便權教より一

醜 乘眞實教に進むをいふ。

醜 カイ。ししびしほ。

醜 ウン。オン。さげかます。

醜 さげつくる。

醜 醜籍。含著して暴露せざる

醜 こと。ひろくしてあまりあると。

醜 シウ。ス。みにくし。たぐ

醜 ひあしし。ほづる。くさ

醜 し。おほし。もろもろ。お

醜 なじ。ひとし。くらぶ。行

醜 爲のにくむべき人。

醜 醜女。シウ。みにくき女。わるき

醜風 シウ。フ。いやしき風俗。みに

醜俗 シウ。フ。みにくき風俗。

醜美 シウ。ビ。みにくきと美しきと。

醜女 シウ。ニョ。みにくき女。

醜陋 シウ。ロウ。みにくくいやしきと

醜聲 シウ。セイ。不名譽の風評。耻づ

醜容 シウ。ヨウ。みにくき顔。みめわ

醜習 シウ。シヨウ。あしきならはし。

醜婦 シウ。フ。容姿のみにくき女。み

醜態 シウ。タイ。みにくきこと。はづべ

醜窟 シウ。クツ。色里。悪しき所。耻づ

醜虜 シウ。ロ。外国人又はこりこを

醜業 シウ。ゲツ。藝娼妓などの如き耻

罵つていふ語。變夷。

罵つていふ語。變夷。

罵つていふ語。變夷。

醜語 シウ。ゴ。いやしきことば。はづ

醜漢 シウ。ハン。みにくき男。耻づべ

醜態 シウ。タイ。みにくきやうす。

醜聞 シウ。ブン。あしき評判。よから

醜貌 シウ。ボウ。みにくきかほ。

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

醜類 シウ。レイ。あしきやから。醜行

十一 畫

醜 シヤウ。サウ。ししびし

醜 ほ。あへしほ。あへもの。

醜 醜名。シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜 醜名。シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醜名 シウ。ニョ。悪しき評判。あしき

醫官 イカワン 醫者にして官につかふる人。軍醫。「すし。醫師」
醫師 イイ 醫術を業とする人。
醫者 イイ 醫者の仲間。
醫學 イイ 醫學を科學の一種としての稱。
醫師 イイ 人畜の疾病を診療するを業とする人。いしや。くすし。
醫家 イカ 醫術を行ふ家。すし。醫術を行ふ人。醫者。
醫書 イイヨ 醫術を記したる書物。
醫會 イカイ 醫師のあつまり。いしやの組合。
醫員 イカイン 病院等に勤務する人。
醫道 イカダ 醫者の道。醫術。
醫術 イカジュ 療治の仕方。病を治する技術。①の進歩。「の業」
醫學 イカガク 醫術に關する學問。
醫學 イカガク 醫者の療治。疾病をなすを治すこと。「ゆる藥劑」
醫藥 イカク 病氣を藥と。醫術に用

醫院 イカン 病院。「異稱」
醫者倒 イイダシ (植) せんぶりの醫術開業。イイダシ。醫術を營業と爲すこと。
醫師組合 イイグミ 或區域内に於ける開業醫師の藥料。診療代其の他に關し規約を定めて催せる組合。
醫療機械 イレウキ 醫療に要する機械類をいふ。
醫藥分業法 イイブンゴフ 醫師の診断と藥の給付との業を分ちて行ふこと。即ち醫は病性を診断し藥劑師は當該醫師の處方箋により藥味を調劑して與ふる方法。
醪 ラウ。ロウ。かすさけ。もろみさけ。にこりさけ。
醪酒 ラウジュ。もろみ酒。にこり酒。り。しる。あまさけ。
醪 ラウ。うすきさけ。
醪酒 ラウジュ。うすきさけ。下等酒。

十二畫
醴 ケイ。カイ。キ。すし。す。ひしほ。まくなき。かつのむし。しほから。
醴 セウ。セウ。つくす。やつる。よめいりまつり。かじく。つく。
醴 キヨ。キヤク。ゼにを出しあひて酒を飲む。さけかふ。會衆して食す。
醴 キヨ。多敷のものが金品を出しあふこと。
醴 キヨ。かねを出し合ふこと。
醴 キヨ。金を出し合ひて酒を飲むこと。
醴 ハツ。酒を再びかす。
醴 ハツカワ (化) 醱母菌の作用によりて生ずる化學的變化。其の砂糖に作用してアルコールと炭酸瓦斯とに變せしむるが如

きものはれなり。
醴 ハツカワ もろみ。
十三畫以上

醴 レイ。ライ。ひとよさけ。あまさけ。いさけ。うまさけ。
醴 レイ。あまさけ。こさけ。ひとよさけ。又醴醴といふ。
醴 レイ。あまさけ。甘露。クン。コン。ふふ。さけくさし。よろこぶ。たのしむ。
醴 タシシ 酒にふひたる人。醴然 クシシ よき心地に酒にふさまにふ語。
醴 エン。宴に通じ用ゆ。まうく。さかもり。ヂヤウ。ニヤウ。さけか。もす。さけつくる。「と。醸成 ヨウセイ 叛亂などをおこす酒などをかもしつくること。醴

醴 亂の原因をす。
醴 醱母。酒などを醸造するに其の原料を醱せしむるために用ふるもろみ。
醴 醱。酒なごをかもし造る。も。ししたるさけ。
醴 醱酒。サウ。さけなかもす。か醱發。サウ。酒なごの醱する。と。酒母の泡立ちわくと。
醴 醱母菌。サウ。菌 (植) 酒などを醸す原因をなすものにして盛んなる醱作用を營む菌。ラン。ロン。すし。
醴 エキ。にがきさけ。冬かもして夏成る酒。よきさけ。ふるさけ。ねきらふ。醱兵。サウ。酒食を以て兵士をねきらふ。ピ。ミ。にこりさけ。

釐 セウ。飲んで盡く。のみつくす。ほす。
釐 キン。ちねる。ちまつり。すきま。ぬる。うごき。さし。つみ。ふすぶる。
釐 キン。器物に牲血をぬると。釐鐘。キン。鐘に牲血をぬると。釐端。キン。あらしひのはじめ。釐起。キン。さすこと。
釐 キン。すきま。交情などの破れんとするにいふ。
采部
釐 ヘン。ハン。わかつ。けものつめ。
釐 サイ。セイ。いろごり。かざり。てにとる。あや。こと。こととす。つむ。ひるふ。うるはし。えらぶ。ちぎやうし。食邑。雙六の附屬具。ぬき。

里部

代々傳はると。
重犯 ジユワン おもき犯罪。
重犯 ジユワン 二度目の犯罪。犯罪をかさねると。
重臣 ジユウジン 重任を負へる臣。おもきけらい。祿高き臣。
重刑 ジユウケイ おもき刑罰。重罪犯に課する刑。「名。」
重光 ジユウクワウ 十千の一、辛の異任務。①に堪えず。
重任 ジユウジン 任滿ちて後かさねて其の職に任ぜらるゝと。
重砲 ジユウハウ 口径九瓏以上の火砲の稱。
重位 ジユウイ おもきくらゐ。
重言 ジユウゴン 同一のこゝばを重ねていふと。重れる語。
重役 ジユウヤク 重き役目。重き役を勤むる人。會社銀行などにて社長・取締役・支配人・監査役などの稱。②會社の「。

里部

重利 チヨウリ 貸金の利息を元金に加へその利息にまた利をつけると。複利。「と。」
重要 ジユウウチ 大切なる。肝要なる。
重服 ジユウフク 忌服中に更に忌服をかされたらるゝ。「きもの。」
重物 ジユウモノ 大切なるもの。おもき箱箱 食物を入れ盛る器。方形にして同形のものを多く組み重ぬるやうに作るを常とすれどもまた一個なるもあり。
重臺 ジユウダイ 重箱をのする臺。
重詰 ジユウジツ 料理などを重箱につめこむと。「たるもの。」
重内 ジユウナイ 重箱のうちにつめこむと。
重嶺 ジユウレイ かさなりたる山。
重巒 ジユウラン かさなりたる山。
重苦 ジユウク 甚しく苦むと。
重典 ジユウテン 重々しき儀式。大切なる儀式。①一家の「。
重味 ジユウミ 濃厚なる味。こつてりしたる味。

里部

重科 ジユウカク 重きとが。重罪。
重重 ジユウジュウ かさねがされ。非常に。度々。「正するも。再訂。
重訂 チヨウテイ 書物などを再び訂重負 身にあまるばかりの負擔。負擔。「さげ。
重恩 ジユウオン 深きめぐみ。厚きなる症。ジユウシヤウ おもき病氣。危篤なる疾病。①に罹る。
重病 ジユウビヤウ おもきやまひ。大病。大病。
重祚 チヨウソク 一度位を去り給へる帝王の再び其位に即き給ふと。
重荷 ジユウカ 重擔。重負。おもに。重曹 ジユウソウ 重炭酸曹達の略。
重婚 ジユウコン (法) 配偶ある者が更に又他の配偶者を求むると。
重痾 ジユウカウ 重ききず。ふかききず。いたで。
重祿 ジユウロク たかき知行。多きふり。
重婦 ジユウフ 長子の妻。
重責 ジユウセキ 重き責任。大切なる

里部

責任。「そかに出版するも。
重版 ジユウバン 他人の出版物をひきと。おもき病狀。量目の多き物體。①に陥る。
重點 ジユウテン (理) 權杆にて動かさんとする物體のかゝる點。
重閣 チヨウカク 幾重にもかさなりたる宮門。
重年 チヨウネン 年齢をかさねると。
重油 ジユウユウ (化) 一・二乃至一・三の比重を有する粘質の石油。
重鎮 ジユウジン おもきおさへ。おもみのあるもの。②東北の「。
重用 ジユウユウ おもき地位におきつかふと。おもく用ふるも。
重肴 ジユウヤク 重づめのさかな。
重創 ジユウソウ おもききず。大なる怪我。ふかだ。
重傷 ジユウシヤウ いたで。重き負傷。②身に「を負ふ。
重陽 チヨウヤウ 九月九日の節句。

里部

重量 ジユウリヤウ 物體が地球の重力に引かれて起る力の分量。おもさはかりに於てはかりたるおもさ。
重患 ジユウワン おもきやまひ。大病。篤疾。又重病といふ。
重圍 チヨウイ 軍隊などのために強くさびしく包圍せらるると。幾重にもとりかこむと。②孤軍「の裏。
重罪 ジユウザイ (法) おもきつみ。死刑。徒刑。流刑。懲役。禁獄の中何れかの刑を以て罰すべき罪。
重鼎 ジユウテイ 大なるかなへ。
重複 チヨウフク 同じ物事がいくつも重り合ふと。
重賞 ジユウシヤウ 手あつきほうび。再度の褒美。①を添うす。
重塹 チヨウゼン 二重のほり。幾重にもめぐらし設けたる城のほり。
重器 ジユウキ 貴重なる器。立派なる器量のある人。

里部

重疊 チヨウタツ 重り合ふと。此の上もなき満足。②山岳「す。
重選 チヨウセン 重れてえらまると。
重幣 ジユウヘイ おもき幣物。
重稅 ジユウゼイ 納稅者の負擔し得る力以上に超えて課する稅。おもき稅。「と。つんば。
重聽 チヨウテイ 二度かさねてきく。
重譯 チヨウヤク 他人の譯したるものを更に譯すると。
重縁 ジユウエン 既に縁に繫れる家と重ねて縁組又は婚姻すると。
重寶 ジユウハウ 貴重なるたから。大切なる寶物。「きもの。
重寶 チヨウハウ 便利なる。利用多き。
重幃 チヨウチ かさなりたるさばり。
重遲 ジユウチ 遅さ。重々しく遅さ。「るもの。
重瞳 ジユウドウ 一眼に瞳の二つあり。
重擔 ジユウタン 重荷。重き荷物。重負。「る樋。あまどひ。
重雷 ジユウライ 屋根の雨水を受く

里部

重職 ヂユウシヨク 大切な職務。お

重讒 ヂユウゼン てひどくさかむる

重籐 シダトリ 間を少しづつおきて

重聴 ヂユウチャウ つんば。聾。

重母音 ヂユウボオン 母音と母音と重

重追放 ヂユウツイハウ 中追放より一

重罪犯 ヂユウザイハン (法) 重罪にあ

重婚罪 ヂユウコンザイ 重婚を爲した

重晶石 ヂユウケンシヨウ (礦) 多くは諸

重金屬の鑛脈中に存在する硫酸

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

重禁獄 ヂユウキンコク (法) 重罪に科

重禁鋼 ヂユウキンコウ (法) 輕罪に科

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

里部

せば先づ一國內に於ける貨幣

の高を可及的增加することを以

て其目的とし従つて商工業を

重んじ農業を度外視せる學派。

重箱讀 ジユウバコヨミ 音と訓とを混

同する讀方の稱。

重心點 ヂユウシンテン (理) 物體の重

心たる點。

重農派 ヂユウノウハ (經) 經濟の政策

上農業を主とする學派。

重商派 ヂユウシヤウハ (經) 重金派の

一名。經濟の政策上商業を主と

する學派。

重禁獄 ヂユウキンコク (法) 重罪に科

する主刑の一、内地の獄に入れ

定役に服せしむるもの。

重懲役 ヂユウチャウエキ (法) 懲役の

重きもの、九年以上十一年以下

里部

重役會議 ヂユウヤクウイギ 重役が其

の擔當せる事務上に就てなす

會議。

重力單位 ヂユウリヨクタンシ (理) 重力

を標準とする力の單位、即ち單

位の質量の重さを以て力の單

位とするもの。

重炭酸曹達 ヂユウタンセンサウダ (化)

白色にして細粒狀をなす結晶

體、醫藥等に用ひらる。

重過磷酸石灰 ヂユウワクリンセンセキク

質、肥料として用ふ。

野 ヤ シヨソ。の。すなほ。

野犬 ヤケン のいぬ。野生の犬。

野牛 ヤウ (動) のうし、牛に似て

小さし、北亞米利加の原野に群

里部

棲す。

野心 ヤシン なれなつかざる心。い

やしき、ころ。むほん心。ふた

ころ。たくらむ心。①一勃々。

野生 ヤシ 動植物の山野に自然

に生長すること。又我が身の謙稱

①動物。

野史 ヤシ 民間にて撰述したる歴

史。又野乘といふ。

野火 ヤヒ 野に焚く火。のび。

野羊 ヤヒ (動) 偶蹄類中反芻類に

屬する獸、形羊に似て頭上に強

大なる二個の角を有す、角は中

空にして後方に曲る、其の肉及

び毛は羊に劣れど需用多く乳

汁は滋養に富む。

野干 ヤカン (動) 狐の異稱。「士。

野客 ヤカク 官に仕へざるもの。處

野外 ヤガイ 野邊。原野。①一散步

野色 ヤシヨク 野邊のいる。野原の

いろ。野原の景色。

野老 ヤウ めななかおやち。野翁。

里部

野行 ヤウキョウ いやしき行ひ。粗野な

る所行。「る性質。

野性 ヤシヨウ いやしきたち。野鄙な

野合 ヤガク 男女などの父母の許

しなく不正に交ると。男女の互

にくつつき合ふも。ざれあひ。

野狐 ヤウ のぎつね。人になれぬ

狐。「る花。

野花 ヤウ 野生の花。原野に咲け

野兔 ヤウ 山うさぎ。のうさぎ。

野拙 ヤウ いやしくつたなきこと。

野郎 ヤウ いやしき男。男子を賤

野師 ヤウ 縁日などにて大業に言

むさばるとを業とする者の總

稱。香具師。

野流 ヤウ (地) 傾斜緩慢なる地

野砲 ヤウ 野戦に川ぬる大砲。野

野翁 ヤウ めななかおやち。野老。

野馬 ヤウ のうま。野がひの馬。

里部

野球 ヤクウ ベースボール。一種の

遊戲、九人宛二組に分れ交る

となりて行ふもの、正方形の線

路の各隅に第一第二第三第四

の四壘を設け第四壘を打球場

とし攻手のもの交る、互に

立ち其の背後に受球者立つ、他

の三個の壘には守手のもの一

人宛立つ、投球者は線路の對角

線の交叉點に立ち攻手は打球

者より投ぐる球を打ち線路に

従つて第一第二第三壘を奪ひ

奪ひて通過し第四壘に復せん

とし守手は之を妨げて通過せ

しめざらんとす、而して攻手は

打ちたる球の地に落ちざる間

に守手に入るか又は地に落つ

るとき敵壘に赴くまで、其の

壘の守手の手に入らば通過す

ることを得ず攻手首尾能く球

を打ち悉く敵壘を奪ひて通過

里部

したる時は勝の一點となり若し通過し得ざるときは敗の一點なる敗三點に及ぶときは攻守交代して之を行ひかくて九回に及び最後に點數を比較計算して勝敗を決す。

里部

野遊 ヤウ 野邊のあそび。野原に出でて遊ぶ。

里部

野外演習 ヤウゲイエンシツ 野外に於て行ふ演習。「縦する砲兵。野戰砲兵 ヤウゼンハウヘイ 野戰砲を操ける軍隊の後方にありて負傷者に治療を施すところ。

量部

量人 リヤウジン 人を推しはかると。人を見はかると。

金部

【釐】 リ。キ。な。さ。む。む。さ。ば。る。た。ま。ふ。さいはひ。ひもろぎ。「厘と毛と。釐毫 リカウ 極めてわづかなる。

金部

金衣 キンイ 極めてうるはしく價高き衣服。①玉食。

金部

金目 キンメ 昔の兩・歩・朱などの量目。リヤウメク はかりめ。ますめ。

金部

金部

金高 キンカウ 合せて計算したる金
錢の高。

金鏢 キンビョウ 金にてつくりたるつ
金山 キンサン 黄金を掘り出す金山

金玉 キンギョク 金と玉と。尊き物。
金天 キンテン 秋のそら。

金主 キンシュ もとの金を出す人
資本主。きんかた。

金斗 キントウ 黄金の杯。金杯。
金穴 キンケツ 金礦のいづる山。財

産家。金持。金満家。資本又は費
用なごをみつぎくる人。

金糸 キンシ 黄金色の糸。金箔を薄
き紙に塗りて細く切りたるも

の。

金札 キンサツ がねのふた。金貨
の代りに通用せしむる紙幣。

金毛 キンモウ 黄金の光りある毛。
●九尾の狐。

金坑 キンキョウ 金を掘る穴。金山。
金利 キンリ 利子。利息。金銭の借
用に對する報酬。

金部

金言 キンゴン 教へになる言葉。名
言。貴重すべき言語。

金風 キンフウ 秋の風。秋風。
金屋 キンウチ 美しい家。金にて装
飾せる家。おごりをつくしたる

家。●玉樓。

金魚 キンギョ (動) ひぶなの變種な
る小魚。腹はふくれて尾は短く
色は黄金色若くは白銀色等あ

り。「たるうつは」。

金器 キンキ がねを用ひて作り
金屬 キンゾク 金屬元素又は其の合
金の總稱。

金縁 キンゼン うるしぬりのふちに
金をぬりたるもの。金にて縁を
つくりたるもの。

金將 キンシャウ 將基の駒の名。後方
へ二隅に斜に退くこと能はざ
るのみにて何れの隅へも一畫
づゝ進み得るもの。

金策 キンサク 金を調達する工夫。
金海 キンカイ 朝鮮の陶器の一種。

金部

金紙 キンシ 金箔又は金色の箔を
塗りたる紙。

金粉 キンコ 黄金の粉末。博奕に川
ふる一種の賽。穴を穿ち其中
に金粉を入れて如何に投ぐる
さも其の重量により必ず定ま

りたる目の現出するやうにた
くみこしらへたるもの。

金葉 キンエフ 紙の如く薄く金を延
ばしたるもの。

金砂 キンサ 金礦の細末なるもの
金波 キンハ 月の光りなごの映り
て金色に光る波。「りた。盃。

金杯 キンハイ 金の盃。金にてつく
金泥 キンネイ 金を粉にし膠の水に
したしたるもの。書畫をかくに
用ゆ。

金券 キンワン 國庫金を支出する所
即ち金庫に至りて金銭を受取
り得る所の手形。金貨に引換へ
得べき紙幣。●兌換。

金星 キンセイ 太陽系に屬する遊星

金部

の。太陽よりの平均距離二千
七百万里にして軌道は較圓く
二万二十四日・七にして太陽を
一周す。

金城 キンシヤウ 防禦極めて堅固な
る城。古城の異名。●鐵壁。

金革 キンカク 刀。鎧。兵器。轉じて
戰爭又は戦陣。

金氣 キンキ 秋の氣。秋冷。金屬の
匂ひ。●一身に迫る。「いふ。

金華 キンカ 金の華。物の形容に
金員 キンイン 金高。金のかず。

金鳥 キンウ 日の異名。
金融 キンヨウ 金銭の融通。金融市
場にて金銭の需要供給の状態。
●金銭に關する諸取引の状態。●
●逼迫。

金庫 キンコ 金を納め置く倉。國庫
の收入公債の元利支拂ひ等を
取扱ふところ。貨幣其の他重要
なる書類を収め置く特別の装
置ある櫃。●中央。

金漆 キンシツ 金泥をまじへたる
うるし。●池。

金湯 キンタウ 防禦の極めて堅き城
金輪 キンリン 金の輪。金色の輪。

金圓 キンエン きんず。かね。●
金額 キンガク きんずのたか。金高。

金鼓 キンコ 陣中の號令又は佛事
の音樂に用ふる鉦と太鼓と。

金錢 キンゼン 通用の貨幣。紙幣に
對して硬貨の稱。かね。

金蠅 キンシヤウ (動) 蠅の一種。胸背
共に黄金色をなし好んで腐敗
せる食物等を集まる。

金側 キンソバ 側が黄金にてつくら
れたるもの。

金織 キンオリ 金糸を用ひて織りた
れたるもの。又そのもの。

金座 キンザ 徳川時代に官の支配
を受けて金貨を鑄造せし所。

金納 キンノウ 租税又は年貢を正金
にて納むる。

金屑 キンセツ 金を焼きて鍛ふる時

飛び散る屑。
金條 キンジョウ 金ののべ棒。「所」。
金紋 キンモン 金漆にて書きたる紋
金貨 キンカ 金を以て造りたる
貨幣。金貨幣の略。

金堤 キンテイ 大丈夫なる堤。
金紗 キンサ 金の糸を織込みたる
紗。金糸の稱。

金莖 キンシヤウ 菊の異名。「書」。
金祿 キンリク 扶持金。●公債證
金創 キンソウ 刀傷。きりきず。又金
傷といふ。

金殿 キンテン 金を用ひて裝飾をほ
ごししてある殿舎。極めて美麗
なるやかた。●玉樓。

金箔 キンハク 黄金を薄く叩き延べ
たる物にして種々の表装に用
ゆ。正味より一層よく世人に思
はしむる飾。れうち。くらむ。

金盞 キンサン 金の盃。「の地金」。
金塊 キンクワイ 金のかたまり。金貨
金牌 キンパイ 黄金にて造れる賞牌

金匱 キンケイ 寶物の藏。貨幣などを入る。はこ。金庫。大切秘蔵の書を金匱の書といふ。

金銅 キンドウ コンドウからかれ。

金曜 キンヨウ 七曜の一、月曜より數へて第六番目の日。

金環 キンガン 金製の輪。

金鎖 キンゾ 金にてつくりたるくさり。

金鞍 キンアン 黄金造りの鞍。

金簪 キンサン 金づくりのかんざし

金囊 キンナフ かねざいふ。金をいれてあるふくろ。

金製 キンセイ 金にてつくりたる

金諾 キンダク 承諾の難きと。承諾すれば決して約を變ぜざること。

金談 キンタン 金の話。金銭貸借上の協議。

金録 キンロク 金の事に付て書いた

金穀 キンコク 金銀と穀類と。

金帯 キンタイ 黄金造りの帯。古代武人の裝束。

金部

金部

金部

金闕 キンケツ 天子の居ます所。

金鵝 キンガ 皇祖東征の時現はれたりといふ黄金色のさび。

金蘭 キンラン 交際の深きと。友人間の情誼のいと厚きにいふ語。

金鐵 キンテツ 金と鐵と。堅固な物事の堅固なる形容にいふ語。

金權 キンケン 金の權力。

金剛 キンゴウ 錦の一種、横に平金糸を交へて種々の模様を織出せる織物。

金鱗 キンリン 金色の鱗。鯉。

金貨國 キンカク 金貨本位の國。

金融界 キンギョウ 金銭の融通する社會。金融市場。

金牛宮 キンウキウ (天) 十二宮の一、其の最大なる星を天高とす

金唐草 キンカラサ 金泥にて、模様を高く打出したる薄きなめしがは。金泥を以て模様を高く打出したる紙。

金環蝕 キンガンシヨク 太陽が恰も太陽の中央のみを蔽ひて太陽が環状に見ゆる日蝕。

金輪際 キンリンサイ (佛) 大地の底下の百六十万由旬離れたる所、即ち地の最下底。大地の底のばての稱。そのそのまで、どこまでも。決して。之を絶つ。

金冬瓜 キントウワ (植) 形長くして底扁く甚だ赤き果實を有するカボチャ。

金剛力 キンゴウリキ 最も強き力。

金布羅 キンピラ 衣にたまごをまぜて揚げたる天鉄羅。

金曜日 キンヨウビ 金曜にあたる日。

金屏風 キンビョウ 地紙に金箔をおきたる屏風。特に其の全體におきたるもの。

金蓮花 キンレンカ (植) あさやの一

金蓮歩 キンレンボ 美人の歩行にいふ語。

金満家 キンマンカ かねもち。有福

金欄簿 キンランボ 交友の姓名・宿所などを書きとめ置く帳簿。

金欄手 キンランテ 磁器の模様の一

金銀塊 キンギョク 金塊と銀塊と

金銀貨 キンギョウカ 金貨と銀貨と。

金魚頭 キンギョウタマ はげあたま。きんかあたま。

金魚藻 キンギョモ (植) 藻類の一、淡水の清泉に生ず。莖細く所々に結節あり、すきなに似て枝葉を輪生す、金魚好みて此の藻に卵を産み付く。

金巾子 キンギンシ 主上のめさるゝ一種の冠。巾子の前より纏を重ね

金魚屋 キンギョヤ 金魚をあきなふ家。又金魚を飼育する家。

金魚麩 キンギョコ 金魚に與ふる料に焼きて極めて軽くしたる麩。

金玉糖 キンギョウタウ 寒天と砂糖とを煮て製したる菓子。

金部

金部

金部

金箔附 キンパクツキ まがひなき正味のもの。かたがき又は位などのあると。

金水引 キンスイヒキ 金箔をおきたる水引。(植) 薔薇科に屬する藥用植物にして葉は不整齊複葉花は總狀花序にして五瓣あり。

金石學 キンシガク 礦物學の異稱。

金石文 キンシモン 石碑などに勒する銘文の稱。

金更紗 キンセテ 金をまじへたる模様あるさらさ。

金砂子 キンサジ すなこの一種、金箔の粉を散布せるもの。

金蓋花 キンサイカ (植) 菊科に屬し細長葉を有し花は盞形にて紅黃又は淡黄色なるもの。

金屬製 キンゾクセイ 金屬にてつくられたるもの。又そのもの。

金太郎 キンタロウ 全身赤くしてよく肥満したる子供の人形。肥満してある赤顔の人。

金鏝焼 キンペンヤキ 饅頭粉に餡を包み圓く扁くして金屬の板の上にて焼きたる菓子。

金無垢 キンムコ 混合物なき純金。

金鍍金 キンゾク 金にてめつきする。又その鍍金。

金平本 キンヘイホン 徳川時代に流行せし金平といふ主人公の武勇を述べたる極めて幼稚なる淨瑠璃本。武勇なる人を描きたる幼稚なる小説本。

金平物 キンヘイモノ 芝居又は小説にて趣味少き武勇談を脚色とせるもの。

金平骨 キンヘイボネ 堅固なる骨。

金海鼠 キンカイソウ (動) 沙蟻類に屬する棘皮動物。なまこに似て圓く小さくして刺なし。「くりん。

金覆輪 キンフクリン 金を被せたるふ

金婚式 キンコンシキ 結婚後夫婦共に五十年目になりたる時に行ふ祝賀の式。

金剛無缺 キンオウムゲツ 堅固にして完全なるをいふ。一國が嘗て外侮を受けたることなきにいふ語。
金齊玉脔 キンセイヨクワイ 立派な金蘭之契 キンランノチギ 交際の親密なるをいふ。●彼れと一を結ぶ。
金科玉條 キンコヨクジョウ 金玉の科條、此上もなく貴ぶべきもの。最も貴重なる規定若くは訓戒。
金貨本位 キンカホンイ 金貨を唯一の本位として凡ての支拂に制限なく通用せしむる制度。又金貨本位といふ。
金祿公債 キンロクコウサイ 華族・士族の家祿及び賞典祿を償還するために明治九年に之を公債に改めしもの。
金融緩慢 キンユクワンマン 金融市場にて貸出しを爲すべき金銭の多くあるに反して借入を爲さ

んとする人の少きをいふ。
金融逼迫 キンユクヒツク 金融市場にて借入を爲さんとする人の多きに反して貸出を爲すべき金銭の少きをいふ。
金融市場 キンユクシヤウ 世界又は一國若くは一地方に於て富の集積して其の金融上の主要なる所。
金融機關 キンユクキョウカン 金銭の融通を自由便利ならしむる爲に設けられたる經濟上の道具、即ち各種の銀行・手形交換所の如き是なり。
金鵝勳章 キンガシヤウ 戰の勳功ある人に賜はる勳章、功一級より七級までありて各一定の年金附屬す。
金烏玉兔 キンウヨクト 日月をいふ。金烏は日、玉兔は月をいふ。
金口木舌 キンコウモクゼツ 道理を述べ世人を教ふるものをたとへ

ていふ語。
金城湯池 キンジョウタクチ 防禦設備の極めて堅固なる城にいふ語。
金城鐵壁 キンジョウテツベキ 防禦の極めて堅固なる設備ある城又は極めて堅固なる物事にいふ語。
金聲玉振 キンセイヨクジン 物事を集めて大成するにいふ語。古支那の樂器は金製に始まり玉製に終りしよりいふ。
金平牛蒡 キンヘイゴボウ 牛蒡を細かく刻み胡麻の油にていためたる後煮たる料理。
金玉火鉢 キンタマヒバチ 股間に火鉢を入れて温むるをいふ。
金屬元素 キンゾクエレメント 金・銀・銅等の如く其の酸化物若くは水酸化物の鹽基性を呈する元素。
金星經過 キンセイケイワウ (天) 金星が太陽の前を經過すること。
金側時計 キンガハドケイ 金側の懐中時計。又金時計といふ。

金銀勘定 キンギンカンテイ 簿記の勘定の科目、總て受取りたる金額を借方に記入し支拂ひたる金額を貸方に記入す。「名」
金衣公子 キンイコウシ (動) 鶯の異名。
金銀複本位 キンギンフクホンイ 金貨と銀貨とを以て本位貨幣とし他の貨幣を補助貨幣となす制度。
金銀出納簿 キンギンシュツナウボ 日々の金銀の出入を記入する帳簿。又金銀出納帳といふ。
金箔驗電器 キンパクケンデンキ (理) 玻璃瓶内に二枚の箔を吊し其の上部は眞鍮の板又は球に終る装置にして或物體の電氣の有無を驗するに用ふる器。
金山寺味噌 キンサンジシヨウ 大豆と大麥とを混じり蒸して之に鹽を加へ味をつけて造りたる味噌。
金貨單本位制 キンカワンホンイ 金貨のみを以て本位貨幣とし

其他の貨幣は補助貨として用ゐらるゝ制度。
一二三畫
針 シン。はりぬふ。はりさす。かへる。のこ。はり。
針工 シンコウ 針仕事。
針砭 シンペン はりといしはり。
針葉樹 シンヨウジュ 葉の針の如き樹
針小棒大 シンショウボウダイ 針ほどの小さな事を棒ほどにいふこと。●一の説。
釘 テイ。サウ。とほし。けづる。つぶす。かすか。とろつとむ。みる。テイ。チャウ。レイ。リヤウ。ほご。まさかり。くぎ。くぎ。う。き。がね。
釘死 テイシ 釘付けにするをいふ。
釘實 テイジツ 釘付けにするをいふ。
釘門 テイモン へいもん。
釘絆 テイハン かすがひ。

鈇 テイ。タイ。あしかせ。くさび。シツ。ニチ。にぶし。パウ。マウ。ほこさき。サイ。かんざし。かんざし。サイマウ かんざしばこ。
釵子 サイマウ かんざしばこ。
釵厨 サイマウ かんざしばこ。
釵 コウ。ガウ。かりも。あぶらざら。す。き。やじり。帯ごめ金具。
釵影 コウイ ともじびのかけ。セン。かんざし。ひじまき。たまき。コウ。ク。ごよめく。さわぐ。ぼたん。ウ。ウ。ぼたん。こぼせ。いしづき。

鉏

シヨ。ソ。すき。たすく。のぞく。せむる。きる。

鉏

鉏。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鉏

鉏。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鉏

ハウ。ベウ。かんな。けづり。がんな。馬をかく具。ケン。ゲン。ケイ。キヤウ。かなへのみみづる。キヨ。ゴ。こわし。かたし。いくさ。おほいなり。つよし。やまひさ。

鈿

テン。かながひ。かんざし。

鈿

ハツ。パチ。す。

鈿

レイ。リヤウ。す。

鈿

鈴鹿。スガ。動。鹿の異稱。

鈿

鈴生。スガ。果實などの神樂鈴の如く多くむらがりて房状をなす。

鈿

鈴蟲。スガ。動。直翅類中蟋蟀科に屬する昆蟲。體は赤褐色にして頭部小さく樹林などに棲みて雄蟲の鳴く聲鈴の音に似たり。

鈿

鈴奏。スガ。古行幸などの時おさきをばらふ。鬨に振りならす。べき鈴をこひ奉る奏上。

鈿

鈴柴胡。スガ。植。蘿藦科に屬し山野に自生し花は淡黄綠色にして少しく暗紫色を帯び莖は直立す。

銜

カン。ケン。くつは。くし。み。ふくむ。セン。テン。するごし。をの。とし。すき。ひし。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銜

銜。スガ。酒を注ぐ器。

銘

メイ。ミヤウ。いましめ。しるす。このるさす。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銘

銘。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

シユ。ス。こぶし。分。秤の。名。一銖は一兩の二十四分の一。の。銖。テツ。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銖

銖。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

折れ易し。なまてつ。ドウ。トウ。あかがね。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅

銅。ソ。カシ。悪人を除く。土を掘り返す。掘り開く。

銅版 ドウバン 銅の板に蠟を塗り其上を細き金にて書畫の形を書き其部分を硝酸にて腐蝕せしめたるもの。

銅像 ドウゾウ 銅にて造りたる肖像

銅坑 ドウキウ 銅鑛を掘り出す穴

銅鑼 ドウラ 紫銅にて造り皿の如くして表面に疣あり、ばちにて打ち鳴らすもの。

銅臭 ドウシウ 銅のほひ。金錢のくさみ。金錢を以て位官を得たる人にいふ。賄賂沙汰に用ふる語。①粉々。

銃 ジュウ。ニエ。おの。てつげう。小銃。

銃架 ジュカ 小銃をのせおく臺。

銃撃 ジュウキ 小銃をうちかくる

銃口 ジュウコウ 銃器のつゝ口。①と

銃床 ジュウヤウ 小銃の銃身を装置する部分。

銃身 ジュウシン 小銃の主要部分にして弾丸をこめて發射する所。

銃臺 ジュウタイ 鐵砲の臺座。

銃削 ジュウセウ 鐵砲のさす。銃丸のために受けたるさす。又銃傷といふ。「すること」

銃獵 ジュウリツ 小銃にて鳥獸を獵すた。

銃丸 ジュウワン 銃にこめて打ち出すた。

銃把 ジュウバ 小銃の手にとる所。

銃槍 ジュウセウ 銃のさきに劍をつけたるもの。

銃隊 ジュウタイ 鐵砲方の軍隊。小銃を以て戦ふ可き兵隊。

銃砲 ジュウポウ 小銃と大砲と。

銃火 ジュウカ 鐵砲の火。銃器の發火。①を交ゆ。

銃眼 ジュウガン 城壁・壘牆等に鐵砲をうち出すために設けたる孔。

銃劍 ジュウケン 銃と劍と。兵士の銃

のさきにつくる劍。常に腰に下ぐけんつきでつげう。

銃卒 ジュウソウ 銃を執る兵卒。

銃聲 ジュウセイ 小銃を發する音。

銃殺 ジュウサツ 鐵砲にて打ち殺すと銃刑

銃刑 ジュウケイ 鐵砲にて殺す刑。

銃劍術 ジュウケンジュツ 銃槍を使用して己を防ぎ敵を撃つ術。又銃槍術といふ。

銀子 ギンズ 昔の銀貨の一名。

銀玉 ギンタマ 昔の銀貨幣の一名。豆銀・粒銀などの稱。銀形をなしたる球形のもの。「の名目」

銀目 ギンメ 昔時の買・分など

銀杏 ギンナシ 樺(樺)いてうの樹の果實。「製の笛」

銀笛 ギンフエ 銀色をなしたる金屬

銀作 ギンザク しろかたにて飾り

銀字 ギンジ 銀泥にて書きたる文

のさきにつくる劍。常に腰に下ぐけんつきでつげう。

銀 ギン。ゴン。みがく。しろかた。さかひ。

銀子 ギンズ 昔の銀貨の一名。

銀玉 ギンタマ 昔の銀貨幣の一名。豆銀・粒銀などの稱。銀形をなしたる球形のもの。「の名目」

銀目 ギンメ 昔時の買・分など

銀杏 ギンナシ 樺(樺)いてうの樹の果實。「製の笛」

銀笛 ギンフエ 銀色をなしたる金屬

銀作 ギンザク しろかたにて飾り

銀字 ギンジ 銀泥にて書きたる文

銀鏡 ギンキョウ 銀の鑛物。「貨」

銀錢 ギンゼン 銀にて鑄たる錢。銀

銀砂 ギンサ 銀の砂。細かさ雪。

銀座 ギンザ 徳川時代に幕府支配の下に銀貨を鑄造せし所。

銀條 ギンギョウ のへ銀。ぎんすぢ。

銀坑 ギンキウ 銀鑛を掘り出す穴。

銀券 ギンケン 銀貨と引換ふべき手形。銀貨と引換ふべき紙幣。①

銀色 ギンシヨク しろかた。いろ。しろ

銀流 ギンナガシ 水銀にとのこを混じ金屬に摺りつけて銀色となすに用ふるもの。土着は悪しくて上部のみよく見ゆるもの。

銀臺 ギンダイ 銀を土臺にして鍍金

銀針 ギンシン 銀にてつくりたる針

銀簪 ギンザン 銀づくりのかんざし

銀箔 ギンパク 銀色のはく。銀の箔。

銀粉 ギンポン 粉にしたる銀。ぎん

銀燈 ギントウ 美しき燈火。銀燭。

銀紙 ギンカミ 銀箔又は銀色の箔を塗りたる紙。

銀紙 ギンカミ 銀貨と紙幣と。銀がみ

銀織 ギンオリ 銀糸を用ひて織りたるもの。又そのもの。

銀環 ギンクワシ 銀製の環。

銀器 ギンキ 銀にてつくりたる器。

銀塊 ギンクワイ 銀のかたまり。

銀貨 ギンカ しろかたにて造りたる貨幣。

銀朱 ギンシュ 水銀を燒きて製せる

銀欄 ギンラン 金糸の代りに銀糸を用ひたる織物。

銀行 ギンギョウ 金融機關の一種。信用を利用して自家の資本及び公衆の預金により資本の需要と供給との媒介を爲すものにして公衆の預金・手形の割引・荷爲替の取組・貸付・代理取立。

爲替送金・證券又は地金の賣買・金錢出納の代理・貨幣の兩替等を營む。

銀燭 ギンショク 光のきら／＼と麗

銀漢 ギンカン 天の河。小き遊星が

秋の晴れたる夜の空に一帶の河の如く見ゆるもの。又銀河といふ。

銀髮 ギンハツ しろが。

銀瓶 ギンビン 銀製の瓶。

銀齒 ギンシ 銀をかぶせ又は填め

たる齒。銀を用ひて細工せる入

銀將 ギンシャウ 將棊の駒の名。金將

の次の位置を占む。

銀泥 ギンヂ 銀粉をにかは水にて

ききたるもの。

銀製 ギンゼイ 銀にてつくりたるもの。又そのもの。

銀葉 ギンエフ 紙の如く銀を薄く延ばしたるもの。雲母にてうすく

つくり香を燻くさきに火の上
にしゆくもの。「き」。

銀杯 ゴンバイ 銀にて造れるさかづ
銀糸 ゴンシ 銀色のいと。金糸の如
くにして銀箔を用ひたるもの。
銀牌 ゴンバイ 銀にてつくれる賞牌
銀竹 ゴンチク 雨の降る形容詞。
銀鞍 ゴンアン 馬の鞍の飾りに銀を
ちりばめたるもの。銀製の馬の
鞍。○白馬一。

銀婚式 ゴンコンシキ 共存せる夫婦が
結婚の後二十五年目の祝ひ。金
婚式の對。

銀世界 ゴンセカイ 雪の降りつもり
たるさま。又は梅花の満開した
る林の景色を形容していふ。
銀砂子 ゴンサゴ 粉にしたる銀箔
銀貨國 ゴンカク 銀貨本位の國。
銀話瓜 ゴンワヅ (植) まくほうり
の一種。果實は大形なれども味
美ならず。「きたる屏風。
銀屏風 ゴンビョウ 地紙に銀箔をお

銀行券 ゴンカウテン 銀行が何時にて
も所持人に支拂を約する信用
券。

銀行株 ゴンカウカブ 株式會社の組
織なる銀行の株。

銀鍍金 ゴンメッキ 眞鍮塗に水銀を
塗り銀箔を焼きつけたるもの。
銀無垢 ゴンムコウ 混り物なき銀。純
銀。

銀行紙幣 ゴンカウシヘイ 銀行が政府
の認許を経て發行する紙幣。
銀貨本位 ゴンカウホンイ 銀貨を以て
本位貨幣とし其他の貨幣は補
助貨として用ふる制度。又銀貨
單位といふ。

錙 音末。詳玉審知鑄。大鐵
錢。俗謂之錙。
錙 (國字)。
すががひ。くさび。

坩 七 畫
キヨウ。ク。
うつ。おそるい。

鋪 七 畫
ホ。フ。くわんのかな
の。のぶる。つらぬる。さ
うく。あまはし。とむ。
もとむ。みせ。

鋪陳 ホン ときならぶる。と。
鋪蓋 ホカイ よきふさ人。
パウ。マウ。

鋤 七 畫
ほ。こ。さ。き。き。つ。さ。き。
シヨ。ソ。た。が。へ。す。
す。き。す。く。

鋤籜 ゴレン 土砂をかき寄する其
鋤拔 ゴンバツ すきさる。と。
鋤耕 ゴンカウ すきたがへす。と。
ヤ。つ。る。ぎ。の。名。量。の。名。
三。鄒。を。一。斤。と。な。す。
ゴ。く。わ。

鋳 七 畫
も。ろ。は。の。す。き。

鋒 七 畫
ホウ。ほ。こ。さ。き。き。つ。さ。
き。や。さ。き。ほ。こ。

鋒刃 ホウリン 刀のきつさき。人の
性質の本音。○一を顯はす。

鋒鏑 ホウキ ほととぎす。と。や。さ。き。と。
鋒先 ホウゼン ほととぎす。

鋒起 ホウキ 劍鋒の集る如く賊の
多くすさまじく起るをいふ。
ケフ。つか。や。しら。かな
ば。さ。み。火。熱。ある。もの。を
は。さ。む。もの。は。さ。み。
シウ。シユ。

鏑 七 畫
さ。び。

鏑鏑 シライサイ さいび。
エイ。エツ。ほ。こ。さ。し。
する。ご。し。と。が。る。あ。ら
は。れた。る。か。ご。き。つ。さ。き
す。ば。やし。

銳口 ェイコ 辯舌のするどきと。
銳悍 ェイカン するどく勇ましきと。
銳利 ェイリ するどきと。銳敏。

銳師 ェイシ するどき軍勢。
銳才 ェイサイ 優れたる才智。銳智。
銳刃 ェイリン するどき刃。よく切
れる刃物。
銳卒 ェイソツ するどく強勇なる兵
銳敏 ェイミン さとくするどきと。
感。じ。の。甚。だ。す。る。ど。き。と。

銳角 ェイカク 九十度以下の角度。
(數)直。角。より。小。なる。角。

銳兵 ェイヘイ するどきつばもの。
銳鋒 ェイホウ するどききつさき。
銳意 ェイイ 心するどきと。専ら心
を注ぐ。○一業を勵む。
銳進 ェイシン 鋭く進む。すばや
く進む。と。
銳氣 ェイキ 勢ひよき氣性。するど
銳尖 ェイセン 鋭くとがれる。と。
銳角三角形 ェイカクサンカクケイ (數)
三つの角が皆銳角よりなりた
る三角形。
銳 (國字)びやう。
釘の一種。

銷 八 畫
セウ。け。す。き。ゆる。と。ら
か。す。つ。く。す。ち。ひ。さ。し。
け。つ。る。な。ま。が。れ。

銷金 セウキン 金圓をとかす。金
錢をつひやす。と。

銷夏 セウカ 夏のあつさをけす。と。
銷沈 セウシン きえうす。と。氣力な
どのしづみたる。と。

銷悞 セウカ 氣力衰へてよわる。と。
銷閑 セウカン ひまつぶし。
銷磨 セウマ すりへらす。と。
銷魂 セウコン たまげ。と。大にお
ご。ろ。く。と。

銷爐 セウロ 金をとかすかまど。
銷金窩 セウキンカ 金錢を浪費する
所。即ち遊里などの稱。
サ。お。ほ。が。ま。
く。じ。く。く。だ。く。

八 畫
サ。ク。リ。ス。や。す。り。よ
じ。は。る。こ。す。り。ぬ。る。か

金部 八畫

錯雜 さつごつ いろいろ入り込むとみだれまじること。

錯綜 さつさう いろいろみだれまじること。よれよれに雑れること。くみあはすこと。

錯然 さつぜん 入り乱れたるさまに「いふ語」

錯升 さつせん まじりみだれること

錯行 さつかう すちかひに行くと。互に交叉すると。かばるゝにめぐること。

錯落 さつらく いろいろまじると。まばらにちらばること。杯の一種。

錯覺 さつかく 錯誤ある知覚。

錯節 さつせつ いろいろまじりたる節。轉じて混雑せる事件。

錯亂 さつらん 入り乱れたると。順序統一を失して混乱すること。

錯誤 さつご ちやうあやまち。過失。又錯過といふ。

錯愕 さつかく 甚しくおどろくこと。

金部 八畫

錯角 さつかく (數) 相反せる側に於て相反せる内角をいふ。

錯列 さつれつ 順序をみだしてならぶこと。

鉤 金属製のわん。かなまり。(國訓)。チャウ。

鍇 コク。いる。つなぐ。とづる。ふさぐ。

鋼 鋼鑄 コニリ 金などをいれること。鋼禁 コニ物又は人をとちこめること。禁鋼。

銅閉 コイとちこめふさぐこと。ア。かぶとの後にたれて首筋をおほふもの。しころ。

鍍 鍍鍛 アカ かぶとのしころ。セキ。シヤク。あかがれ。すい。あたへる。たまふ。しやくちやう。

錫 鋳鍛 アカ かぶとのしころ。セキ。シヤク。あかがれ。すい。あたへる。たまふ。しやくちやう。

金部 八畫

錫杖 シヤウ 法師・山伏等の持つ杖の杖。

錫福 シヤクフク 幸福を下し賜はるとキン、コン。

錦 錦衣 キンイにしきのきもの。故郷に歸るに功名を博し面目のほえあること。

錦囊 キンナウ にしきの巾地にてつくりたる袋。名吟多き人の草稿。

錦心 キンシン うつくしき心。文辭をよくする人をほめていふ語。

錦繡 キンシウ 錦とぬひのある美しき織物と。字句麗はしき詩文又は詩文に巧みなる思想をたさへていふ語。

錦綾 キンリョウ あやにしき。

錦文 キンブン あや模様。

錦帛 キンパク にしきの織物。

錦旗 キンキ にしきの御旗。皇室の旗。錦歸 キンキ 出世して故郷に歸ること。

金部 八畫

錦鱗 キンリン 美しきうろこ。美しき魚。「郷にかへること。

錦衣行 キンイカウ 功名を博して故錦鷄鳥 キンタイウ (動) 頭に鷄冠を有し形状及毛色の雉子に似たる鷄鷄類の美鳥。「稱」

錦鷄間 キンケイマ 宮中の御間の名

錦衣玉食 キンイキヨクシヨク 衣食の美なること。贅澤なる衣食の形容に

錦心繡腸 キンシンシウヂョウ 詩文の才にいふ語。①の徒。

錦衣夜行 キンイキヤカウ 錦の衣を着て夜歩くこと。人に見すべき名譽の有りながら隠して見せぬこと。いふ義。

錦鷄間祇候 キンケイマシコウ 退職せる勅任官が特に陛下の御思召によりて命ぜらるゝ名稱にて時々錦鷄間に祇候して御諮詢などに奉答するもの。

錨 錨索 ベウサウ いかり綱。錨泡 ベウバウ 錨に付するもの。目印となるべきおもり。錨泊 ベウハク 船のいかりを下してとまること。錨地 ベウヂ 船の碇泊する所。錨子 テウシ けねき。セシ。たから。ゼに。さかづき。錢幣 サヘイゼに。錢穀 サシヤク ゼに。穀物と。錢緒 サシジ ゼに。さし。錢癖 サシキゼに。をほしがらくせ錢樹子 サシジキ 妓女の異稱。シヤウ。サウ。くばし。さび(國訓)。キ。ギ。かま。三足ある釜。

金部 八畫

鎗 クリン。ふいごの大きなもの。たたら(國訓)。くさび。

錠 テイ。チャウ。すい。あぶみ。たかつき。あつ物を盛り神を祭る器。サウ。シヤウ。ざら。かれのおと。

錚 錚錚 サササ かねの聲。人物のすぐれたりと稱する語。①紙中の一たるもの。

鎗 シ。六兩の重さの稱。又八兩の重さの稱ともいふ。

錙 錙銖 シシユ 僅かばかりの金。極めて少き數量。①の利を争ふ。

錙徒 シト 僧徒。僧のなから。又錙流 といふ。

錙重 スヱウチウ おもり。

金部 八畫

金部 八畫

【錐】

ス井。きり。はり。する。さし。

錐刀

スボク。ほさき。の。さがり。たる。刃物。些細なる。こと。

錐脱

スボク。きり。の。さき。スボク。する。さし。ぬける。才氣。衆に。秀づる。こと。

錐體

スボク。スボク。一面は。多邊形に。して。他面は。皆其頂點を。共有する。三角形より。成れる。多面體。

録

さく。ひる。ふ。と。り。す。ぶ。る。と。り。し。ら。ぶ。る。つ。が。ぬ。る。し。た。が。ふ。な。さ。む。る。ま。じ。は。る。こ。が。れ。の。い。る。か。ひ。の。あ。や。

録事

ロクシ。か。さ。し。る。す。と。か。さ。や。く。書。記。御。歌。所。の。屬。官。軍。法。會。議。の。屬。官。

録問

ロクシ。罪。狀。を。帳。簿。に。記。した。る。事。

金部 八畫

【鋼】

つ。ぬ。る。こと。て。言。上。する。こと。録。奏。ロクシ。逐。一。に。事。柄。を。取。調。へ。録。牒。ロクシ。名。ふ。だ。名。刺。録。寫。ロクシ。う。つ。し。と。る。こと。

鋼

カウ。ぬ。り。が。れ。か。た。し。さ。た。ひ。が。れ。は。が。れ。鋼。又。カウ。か。り。ま。た。古。の。武。器。に。て。兜。の。鍔。形。の。如。く。ま。た。に。な。り。て。開。きた。る。もの。

鋼鐵

カウ。カウ。は。が。れ。百。分。中。に。〇。八。乃至。一。八。の。炭。素。を。含。め。る。鐵。

鋼鐵艦

カウ。カウ。鋼。鐵。を。材。料。と。し。て。建。造。し。た。る。軍。艦。

鋼玉石

カウ。カウ。大。理。石。又。は。花。崗。岩。等。の。中。に。産。する。礦。物。

鋼線砲

カウ。カウ。大。砲。の。一。種。砲。身。の。内。筒。外。部。に。無。數。の。鋼。線。を。纏。繞。せ。し。め。砲。彈。の。力。を。増。加。せ。し。め。た。る。もの。

録

ソウ。ス。金。毛。

金部 九畫

【鋸】

(國字)。に。た。刀。の。表。に。現。は。る。あ。や。キヨ。コ。ひ。き。さ。る。の。こ。ざ。り。

鋸屑

キヨ。の。こ。ざ。り。の。く。づ。物。の。取。る。に。足。ら。ぬ。に。譬。ふ。る。語。

鋸咬

キヨ。カウ。動。か。か。の。こ。ざ。り。の。人。

鋸齒

キヨ。の。こ。ざ。り。の。め。

鋸齒葉

キヨ。カウ。植。物。の。葉。片。の。鋸。齒。狀。を。な。した。る。もの。

九畫

【錘】

シヨウ。シユ。あ。つ。む。あ。つ。ま。る。や。し。な。ふ。さ。か。づ。き。あ。た。ふ。か。さ。な。る。量。の。名。六。斛。四。斗。の。稱。

錘聚

シヨウ。シユ。あ。つ。め。る。こと。

錘愛

シヨウ。シユ。深。く。愛。する。こと。

鍾念

シヨウ。シユ。い。つ。く。し。み。お。も。ふ。を。い。ふ。

金部 九畫

鍾馗

シヨウ。シユ。支。那。に。て。疾。病。の。鬼。を。驅。ると。い。ふ。神。眼。太。く。髯。多。く。黑。冠。を。戴。き。長。靴。を。穿。ち。抜。劍。し。て。鬼。を。つか。ふ。像。と。な。す。又。鍾。馗。大。臣。と。い。ふ。

鍾憐

シヨウ。シユ。いた。く。あ。は。れ。む。こと。

鍾乳石

シヨウ。シユ。方。解。石。が。石。灰。洞。内。に。氷。柱。の。如。く。垂。下。し。た。る。もの。

送

(國字)。か。す。が。ひ。録。に。同。じ。

鍼

シ。ン。ケ。シ。ン。ゴ。ン。シ。ン。け。ん。は。り。は。り。さ。す。鍼。治。シ。ン。ケ。シ。ン。ゴ。ン。を。以。て。病。氣。を。療。治。する。こと。針。の。療。治。又。鍼。療。と。い。ふ。

鍼砭

シ。ン。ケ。シ。ン。ゴ。ン。か。れ。の。は。り。さ。石。の。は。り。さ。警。戒。又。は。訓。誨。の。意。に。用。ひ。る。こと。

鍼針

シ。ン。シ。ン。シ。ン。外。科。醫。の。用。ひ。る。平。た。い。針。

鍼醫

シ。ン。シ。ン。シ。ン。は。り。い。し。や。又。鍼。工。と。い。ふ。

鍼術

シ。ン。シ。ン。シ。ン。邪。氣。又。は。惡。血。を。洩。す。こと。

金部 九畫

【鍍】

す。こ。稱。へ。細。小。なる。鍍。を。人。身。の。患。部。に。挿。入。し。て。疾。患。を。治。療。する。漢。方。醫。術。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

金部 九畫

【鍍】

す。こ。稱。へ。細。小。なる。鍍。を。人。身。の。患。部。に。挿。入。し。て。疾。患。を。治。療。する。漢。方。醫。術。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

金部 九畫

【鍍】

す。こ。稱。へ。細。小。なる。鍍。を。人。身。の。患。部。に。挿。入。し。て。疾。患。を。治。療。する。漢。方。醫。術。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

鍍

ケ。ン。ゴ。ン。か。ぎ。さ。か。ん。な。り。か。な。へ。の。み。く。る。ま。の。く。さ。び。

金部 九畫

鍛礪 タシイキタひとぐと。

鍛鐵場 タシテヤウ 鍛鐵の工場。

鍛 カケ。しころ。かぶと。クラ。

鍋 なべ。かちなべ。

鍋仔 クリこなべ。

鍋錢 ナベシナベがねにて鑄造したる錢。

鍊 レン。カン。れる。きたふ。

鍊磨 レンマ。れりみがくと。研究する。をさめならふと。「リ藥」

鍊藥 レンヤク。くすりをれると。鍊膽

鍊膽 レンタン。膽力をれりきたふと鍊熱

鍊熱 レンネツク。れりきたふと。れれてなりさゝのふと。

鍊鐵 レンテツク。れりきたへたるてつ

鎰 テイ。テキ。ほし。さき。かぎ。イッ。イチ。かぎ(國訓)。金二千兩のと。

金部 十畫

十畫

鎮 チン。しづむる。やすんずる。おもし。まもる。とこしなへ。おす。

鎮臺 チンタイ。一地方を守る軍營。今日の師團。

鎮定 チンテイ。亂をしづむると。しづまり定まること。

鎮守 チンシュ。兵士を屯せしめて其地方を鎮め守ると。其土地を守るといふ神社。うぶかみ。氏神。

鎮痛 チンツウ。いたみを鎮むること。

鎮伏 チンフク。妖鬼亂民などを鎮むること。

鎮護 チンゴ。世の中を守り静めると。おさへつくと。「ると」。

鎮壓 チンアツ。押へ付けてしづめると。おさへつくと。「ると」。

鎮靖 チンテイ。しづめて安らかにす

鎮子 チンシ。凡て押へ付けるもの。文ちんの類。おもし。

鎮藩 チンバン。其地方のおさへに置

金部 十畫

鎮靜 チンテイ。しづまると。おちつきで穩かなると。内亂に歸す。「だてすになつくと」。

鎮撫 チンブ。とりしづむると。あら

鎮座 チンザ。神慮のしづまりぬます所。「事をけす」と。

鎮火 チンカ。火事の消えること。火

鎮撫使 チンブシ。亂民などをしづむる爲めに特に差し遣はさるる使節。

鎮守府 チンシュフ。古陸奥國膽澤郡に置かれたる鎮臺。今は各軍港に置かれて出師準備・防禦計畫海軍區警備並に所轄事務を監督する所。吳一。

鎮守森 チンシュノリ。田舎にて鎮守のある森。

鎮火祭 チンカサヒ。火災を防がんが爲めに行ふ祭。ひぶせのまつり

夏・冬二期に行はる。

鎮西府 チンシフ。古九州地方の鎮

金部 十畫

守として置かれたる府。太宰府の別稱。

鎮西派 チンシハ。(佛)淨土宗の一派。筑後國聖光上人の創めしもの。

鎮壓器 チンアツキ。ものをおさへつくるに用ふる器械。

鎮魂祭 チンコンサヒ。神葬にて死者の魂をしづめまつるといふ意のまつり。「る藥」。

鎮痛劑 チンツウジ。いたみをしづむ

鎮守府司令長官 チンシュフシレイチヤウワン。鎮守府一切の事務を總理し海軍大臣の命を受けて軍政を掌るもの。

鎬 カウ。コウ。なべ。れざらふ。ひかる。あきらか。かがやく。しのぎ(國訓)

鎧 ガイ。カイ。ケ。よろひ。

鎧騎 ガイキ。騎馬武者。

鎧袖 ガイスク。よろひのそで。

金部 十畫

鐔 ハク。かれかけのかがり小き鏡。すき。くは。ツ。

鎚 おほすき。ツ井。タ井。かなづち。みがく。とぐ。おもり。きたふ。

鎚手 ツサユ。つちを以て打つ人。

鎚鍛 ツサダ。かなづちで打ちきたへること。「ふと」。

鎚鍊 ツサレン。つちを以てうちきた

鎚打 ツサヒキ。かなづちで打つこと。

鎚撃 ツサゲツク。つちで打つこと。

鎚 ツウ。ツヤウ。さかづき。やり。

鎚手 ツサユ。やりをつかふもの。

鎚鎗 ツサカサ。鐘のひやく聲。サ。とさす。とづ。

鎚 くさり。かけがれ。

鎚鑰 ツサク。ちやうとかぎと。内所に入りこむ要所。北門の一。

鎚條 ツサウ。くさりなほ。

金部 十畫

鎖鍵 サクン。くさり。かぎ。

鎖國 サクコク。國をとざすと。外國と交際せぬと。

鎖港 サクカウ。港をとざすと。外國の船舶を港へ入れぬと。攘夷の論。

鎖骨 サクコツ。(生)肩帯をなす處の

前部左右一對の骨片。

鎖港攘夷 サクカウジヤウ。徳川幕府の末年幕府が開港を許可せしに反對して朝野の志士が唱へし議論。

鎔 ヨウ。ユ。いかだ。けす。ぜにのはたもの。

鎔冶 ヨウヤ。金屬をとかし鑄ると。

鎔解 ヨウカイ。とけると。火力・薬力

等にて金石等のかたきものがとけて液状となること。

鎔型 ヨウゲイ。いかな。

鎔塙 ヨウクワ。金屬などをとかすつ

鎔岩 ヨウガン。(鑛)火山の噴火する時其口より流出する岩石。

金部 十一畫

金部 十一畫

金部 十一畫

鑄銷 ヨウシウ さかすと。

鑄造 ヨウゾウ 金屬をとかしていて

鑄爐 ヨウロ 金屬をとかす爐。

鑷 (國字) ばき。

鎌 レン。ロン。

十 一

鏗 サウ。シヨウ。ほこ。はた

鏢 おもがひ。かま。かね。

鏢 羅 精巧なる句。

鏢 羅 沙にちりばむるとい

鏢 羅 義にて勞して功なきにいふ

鏢 羅 ちりばめきざむと。

鏢 羅 氷にちりばむるとい

鏢 羅 義にて事を爲して終始益な

鑿 徒勞に歸する義。「める」と

鑿 金 羅 金象眼。金をちりば

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鑿 鏡 鏡の如く清きと。

鏘 ヨウ。ユ。

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

金部 十一畫

金部 十二畫

金部 十三畫

鏗 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鏘 鏘 鏘 鏘

鐸鈴 タクレイ 戦に用ゐるすず、號令をかくるときに用ゆ。

鐵 [鐵] テツ 青を用ひ武事には金舌を用ひたり。

鐵山 テツサン 鐵鑛をほり出す山。

鐵衣 テツイ 鐵製のかむり。

鐵冕 テツガン 鐵製のかむり。

鐵丸 テツクワン 兵力。兵備。

鐵坑 テツクワウ 鐵鑛を掘り出すあな。

鐵桶 テツボク 鐵製のをけ。

鐵鞭 テツベン 鐵製のむち。「兵。」

鐵騎 テツキ 精英なる騎兵。騎馬の鐵棍 テツクン かなてこぼう。

鐵器 テツキ かなもの。鐵を材として作れる器具。

鐵粉 テツコン くるがれの粉。鐵を細末にせるもの。

鐵拳 テツケン かなこぶし。かたきけんこ。にぎりこぶし。

鐵艦 テツカン 鐵を材として作れる軍艦。戰艦。

鐵片 テツペ てつのかげ。鐵のきり。鐵を材として作れる橋。

鐵腸 テツチヤウ ものに感ぜぬ心。かてう。鐵の製煉若くは鐵器の製造などに従事する職工。

鐵甲 テツカウ 鐵製のかぶと。極めて堅きと。

鐵製 テツサイ 鐵にてつくりたるもの。

鐵鉢 テツハツ 僧侶の食器となす鐵製の鉢。

鐵錢 テツセン 鐵にて鑄造したる鐵爐 テツロ 中に火を起し又は火を貯ふる鐵製の具。

鐵砲 テツポウ 火薬によりて彈丸を發射する器械の總稱。小銃の特殊稱。据風呂桶に裝置する鐵製の筒ほら。のりまさすしの異稱。

鐵橋 テツクワ 鐵を材とし作れる橋。

鐵火 テツカ 鐵をやきて火となしたるもの。彈丸の火。古罪の虛實を糺さんために鐵をやきて握らせたるもの。

鐵鑛 テツクワン 鐵を含有せる岩石。鐵の未だ精練せぬもの。あらがれ。

鐵管 テツクワン 流動物又は氣體を通ばせて遠方へおくるため鐵にて造りたる圓筒。

鐵造 テツゾウ おもに鐵材を使用して造りたるもの。

鐵葉 テツエフ ぶりき。「赤染色。」

鐵色 テツシキ 黒色に赤みを帯びた

鐵錠 テツジヤウ おほいなるかなづち

鐵索 テツサク 鐵製の繩。かなづち

鐵拐 テツカウ 鐵製のつゝ。

鐵笛 テツフエ 鐵製の不え。

鐵炙 テツアヒ 細き鐵條にて格子の如く造りたるもの。火の上に亘し肉などを載せてあぶる。

鐵匠 テツシヤウ かなたくみ。かぢや

鐵心 テツシン 鐵の如く堅き心。物の中に鐵を入れたるもの。(理)コイルの中に入れたる軟鐵條。

鐵彈 テツダン 鐵のたま。

鐵條 テツジョウ てつのはし。鐵製の不

鐵蹄 テツテフ かなづつ。強き馬を

鐵鎖 テツサク てつのかさき。

鐵扇 テツセン 鐵骨のあふぎ。

鐵柵 テツサツ てつのはし。

鐵漿 テツシヤウ 鐵を酒につけて造れる液汁。齒を黒くそむるに用ゆ。おはぐるがれ。「いふ。」

鐵銹 テツソウ てつさび。又鐵鏽と

鐵蕉 テツショウ (植) そてつもの異名。

鐵礮 テツカウ かなとこ。

鐵屎 テツセウ かなとこ。

鐵壁 テツヘキ 鐵を張りたるかべ。かたきかまへ。金城。

鐵筆 テツヒツ 印刷などに用ゐる小刀。雄健にして活動せん斗りの筆力。鐵にて筆の形につくりたるもの。「ふる馬。」

鐵馬 テツバ よろひたる馬。戦に用

鐵材 テツサイ 工業及び製造に使用する材料の鐵。

鐵針 テツシン てつのはし。

鐵道 テツダウ 瀟車又は電車などを走らしむるために道に二條の鐵線敷きたるところ。

鐵槌 テツチ かなてこ。

鐵案 テツアン 鐵のつくゑ。かたき

鐵窓 テツサウ 鐵ばりのまど。らう

鐵筆版 テツヒツバン 同一の簡單なる

鐵圍山 テツウイサン (佛) 外海を繞圍

鐵道局 テツダウクワウ 逓信大臣の意

鐵道院 テツダウイン 内閣總理大臣に

鐵道隊 テツダウタイ 戦地などにて輕

金部 十三畫

恒鐵道の奉設に従事する工兵の一部隊。

鐵心琴 テラシキン 一方の次第に狭くなりたる細長き框に適應の薄き鐵材を架したる樂器。

鐵石英 テラセキチ 鐵を多量に含みて赤色をなす石英。

鐵熊手 テラクマゴ 昔兵器として使用したりし鐵製のくまで。

鐵錢蓮 テラセリン (植毛蕨科に屬し葉は通常上昇し花は白色若くは碧色、觀賞用として栽培せらる。

鐵禪杖 テラモンヂヤウ 鐵製の禪杖。

鐵刀木 テラタウボク (植) 和名タガヤサン、棕櫚科に屬し熱帶地方に産す材は質堅く黒褐色にして木理くわりんに似たり、器具の材料として珍重せらる。

鐵砲玉 テラバウダマ 鐵砲の彈丸。行きたるまゝにて歸へらぬもの。

鐵面皮 テラメンビ 耻辱を知らぬこと。

つらのかほのあつきこと。あつかましきこと。

鐵軌路 テラキキ 鐵道の線路。

鐵條網 テラヂウワウ 敵の來攻を防ぐ爲に要害の所に鱗次に立てたる材なごに上げくかけわたしたる鐵線の網。

鐵石心腸 テラセキシヤウ 精神の剛直なること。

鐵砲風呂 テラバウダロ 桶に火を焚く鐵製又は銅製の筒を設けたる据風呂。「する鐵冶。」

鐵砲鍛冶 テラバウダガシ 鐵砲を製造する鍛冶。

鐵血政畧 テラケツセイリヤウ 兵備を擴張し兵力によりて國權を伸張せんとする政略。

鐵道往生 テラダウワシヤウ 自ら鐵道線路に身を投じ進行する流車などのために轢死すること。

鐵道會議 テラダウワイキ 鐵道工事業の順序其の他鐵道線路の實測及毎線路の工費豫算等を

金部 十三畫

金部 十三畫

審議し又は鐵道に關する事項につき逓信大臣の諮詢に應じ意見を開申する國家の機關。

鐵道財團 テラダウザイダン 私設鐵道會社が其の鐵道の全部若くは全部に屬する線路・用地・建物・器具・機械其の他のものを以て抵當權の目的をなす爲に設定したる財團。

鐵道技師 テラダウギシ 鐵道の技術上のことをつかさどる高等官。

鐵道技手 テラダウギシュ 鐵道の技術上のことをつかさどる判任官。

鐵道馬車 テラダウバキ 鐵道を走る乗合馬車。

鐵中銜 テラチュウケン 鐵道を走る出たる人にいふ語。

鐵器時代 テラキダ 青銅器より人智更に進歩し鐵を用ひて各種の器具を製造し、鐵の利用最も盛なる時代。

鐵御納戸 テラオナド おなんご色

金部 十三畫

に紺氣のかりたる染色。少

鐵桶不漏水 テラトウワダモラサズ 少

鐵道管理局 テラダウクワンリキョク 統監の管理に屬し韓國に於ける鐵道の建設・保存・改良・運輸及び附帶の業務を掌る統監府の一局。

鐫 タウ。つゝみのこゑ。なべ。あしがなへ。こじり(國訓)。

鐫焦 タウヤウ かまのそののこげめセン。きざむ。ほる。ふる。うがつ。きり。いしづき。うつ。しりぞく。

鐫家 センカ いるばんや。

鐫刻 センコク ほること。

鐫 タク。ドク。シヨク。かれ。ごら。ス井。ズ井。鑿に同じ。

金部 十四畫

四

サン。ソソ。きり。くき。つる。かく。あつむる。みがく。

鑑 カン。ゲン。かんがみる。いましめ。みつとりかみ。かみ。み。てらす。みる。こほりつば。ぼん。

鑑査 カンサ かんがへしらぶること。

鑑定 カンテイ 物の眞實善惡などを見分るること。めきき。裁判所が刑事訴訟にて犯罪の性質・方法又は結果を分明にする爲め特殊の學藝に熟する人に其の現前の事實に對する意見を聞くこと。「識別。」

鑑別 カンベツ 見分るること。めきき。

鑑札 カンサツ 官許の證を記したる札。營業を認可したる證として交付する木札。「ガハミ。」

鑑戒 カンカイ 戒さなるべき手本。

金部 十三畫

審議し又は鐵道に關する事項につき逓信大臣の諮詢に應じ意見を開申する國家の機關。

鐵道財團 テラダウザイダン 私設鐵道會社が其の鐵道の全部若くは全部に屬する線路・用地・建物・器具・機械其の他のものを以て抵當權の目的をなす爲に設定したる財團。

鐵道技師 テラダウギシ 鐵道の技術上のことをつかさどる高等官。

鐵道技手 テラダウギシュ 鐵道の技術上のことをつかさどる判任官。

鐵道馬車 テラダウバキ 鐵道を走る乗合馬車。

鐵中銜 テラチュウケン 鐵道を走る出たる人にいふ語。

鐵器時代 テラキダ 青銅器より人智更に進歩し鐵を用ひて各種の器具を製造し、鐵の利用最も盛なる時代。

鐵御納戸 テラオナド おなんご色

鑑識 カンシキ 物事を見わくるはたらき。鑑定する眼のちから。めきき。

鑑定人 カンテイニン 鑑定をする人。鑑定を命ぜられたる人。

鑒 カン。鑑に同じ。

鑲 シユ。シウ。いがた。いる。

鑄造 シウゾウ 貨幣などを鑄るとき。金屬を溶解して或物を製造すること。「印形。」

鑄印 シウイン 金屬にて鑄造したる

鑄錢 シウセン ぜにを鑄るとき。

鑄鐵 シウテツ 質脆く鑄形に容れて鍋・釜の製造に用ゐる鐵。

鑄貨 シウカ 貨幣をいふこと。鑄造せる貨幣。
鑄錢司 シウセンシ 古錢を鑄る爲に設けられし役所。今の造幣局。

金部 十四畫

金部 十五畫以上

十五畫以上

鑛 ヒン。はがれ。クワク。ひらかなへ。リヨ。ロ。なまむ。やすり。みかく。きる。鑛釘 ロヨ。金屬をとかすに用ひる器。

鑛 レン。よかりがま。かま。鑛に同じ。へウ。くつばみ。く。み。さかんなり。シヤク。ヤク。リヤク。レキ。けす。とらかす。さかんなり。うるはし。なでる。いさむ。あぶる。ころす。あきらか。

鑛 シタクシ 金をさらかす。鑛車シタクのさしる音。

金部 十五畫以上

鑛

鑛 ラフ。ロフ。す。なまり。クワウ。あらがれ。

鑛山 クワウシヤン 鑛物を産出する山、鑛山の事業經營にあたる事務を掌る所。

鑛泉 クワウセン 鑛物の質を含む泉。

鑛物 クワウブツ 地球の外部即ち岩石土砂などを組織する無機物の總稱。

鑛石 クワウシキ 金屬を含める石。

鑛脈 クワウミツク 岩石の割れ目の間に鑛物の熔解物來りて順次に沈澱し重なりたるもの。

鑛夫 クワウフ 鑛山にてはたらく人夫。鑛物を掘出す人夫。

鑛水 クワウスヰ 泉水の鑛物質を多量に含めるもの。

鑛區 クワウク 行政廳の許可を得て鑛物の採掘を爲す土地の特定區域。

金部 十五畫以上

鑛坑 クワウクワウ 鑛物を掘り出すため山又は地に穿つ坑。

鑛毒 クワウドク 鑛物の含有する毒。又その毒の爲に害を蒙むること。

鑛業 クワウゲウ 鑛物の試掘・採掘及び之に附屬する事業。

鑛物學 クワウブツガク 鑛物の性質形狀種類などを研究する學問。

鑛區稅 クワウクイセウ 鑛區の地積に應じて課する税金。

鑛山學 クワウシヤンガク 鑛山又は鑛物の採掘などにつきて研究する學。採掘冶金學。

鑛山局 クワウシヤンキョウ 農商務大臣の意思を承け鑛業に關する事務を掌る農商務省の一局。

鑛業稅 クワウゲウゼウ 鑛業の製産物の價格に應じて鑛業を爲す人に賦課する租稅。

鑛業權 クワウゲウケン 特定の人が特定の場所にて特定の鑛物を採掘することを得る特權。

金部 十五畫以上

鑛業財團 クワウゲウサイダン (法)鑛業の採掘權者が抵當權の目的の爲め其の鑛業に附屬する權利及び物件の全部若くは一部に就き設定したる財團。

鑛業警察 クワウゲウケイサツ 鑛坑又は鑛業に關する建築場及び坑夫又は鑛區の保護等に關する警察。

鑛山監督署 クワウシヤンカントクシヨ 農商務大臣の管理に屬し鑛山の監督に關する事務をつかさどる所。

鑛 ロル。あり。ひばち。ひご。かうろ。ヤク。えび。いる。とざす。かぎ。ハク。つりがれ。さけいのりんがれ。シヤウ。ニヤウ。鑛型を作るに用ゆる一種の器の稱。兩頭に鉤ありて引

金部 十五畫以上

鑛 テフ。ネフ。けぬき。くぎぬき。鑛子クワウシ毛ぬき。鑛合クワウガフ物のばづばづに合ふと。きれさきれと縫ひ合はすとサク。ソク。サウ。あきらか。あざやか。しらげ。ひらく。つくる。うつる。ほる。のみ。うがつ。

鑛米 サクマイ 白米のこと。

鑛空 サククウ あなをうがつと。

鑛壁 サクヘキ 苦學の意。「と。サククイ きり開くと。うがつサクセン うがつと。あなをあけること。

鑛聲 ラン。す。くるまのす。くつわす。マワす。車につくるす。ラシラす。車のつきたる車。ラシヤ 車に付ける飽の聲。

長部

鑛 サン。たがれ。あつむ。きる。さく。うがつ。きり。ほ。さき。やじり。

鑛鍵 サクケン きりびを出す。

鑛木 サクキ 木と木とをすり合せて火を取る。

鑛摩 サクマ みがく。

鑛仰 サクヤウ 徳をたたひて學ぶ。

鑛針松 サクシンシヤウ こんえふの松。ラ。ごら。銅にて作りたる盆の如き器にて打鳴らすもの。クワン。

鑛罐 サクカン つるべ。

鑛子 クワウシ やくわんのたぐひ。茶の湯をわかに用ゐるもの。

長部 チヤウ。ヂヤウ。なま。かしら。はじめ。もと。とし。うへ。そうりやう。めう

長部

へ。すぐれたるも。ながし。ひさし。とこしなへ。おほいなり。とほし。

長子 チヤウシ そりやうの子。

長日 チヤウジツ 夏などのながき日。

長大 チヤウダイ おとなとなること。たけ高く大いなること。

長久 チヤウキウ 長く久しきこと。ながくつゞくこと。◎家進一を祈る。

長上 チヤウジヤウ めうへ。長たる人。

長生 チヤウセイ ながいきすること。又長壽といふ。

長月 チヤウゲツ 陰曆九月の異稱。

長年 チヤウネン ながき年月。ながいき。[うの兄。伯兄。

長兄 チヤウケイ 第一の兄。そりやうや。

長汀 チヤウテイ 永く引續ける水ぎは。◎曲浦。

長舌 チヤウゼツ 口さきにて人に媚ぶること。恒佞なること。婦人の多言なること。

長官 チヤウワン 或部局の事務を統

長部

轄する官職。つかさのなま。

長橋 チヤウキョウ ながきはし。

長足 チヤウソク はやあし。進歩の早きこと。◎一の進歩。

長女 チヤウメヨウ そりやうのむすめ。

長男 チヤウナン そりやうのむす。

長語 チヤウゴ ながきことば。[こ。うらみ。終生の恨。]多き文。

長恨 チヤウコン ながく忘れがたき。

長文 チヤウブン 篇章の長き文。字數に存在して 廣く地上にわたれる 礦物、おもに 硫酸及び礬土より成り 通常白色若くは淡紅色をなす。

長髮 チヤウハツ 髪を長く伸ばした。

長技 チヤウギ 人にすぐれたる技藝。

長老 チヤウラウ としより。頭だつた人。年老けて敬すべき人。學識くさとり深き僧。禪家にて住持又は先輩の稱。

長者 チヤウシャ 目上の人。年上への

長部

人。衆人に勝れて徳望ある人。

長衿 チヤウキン 長きうばぎ。

長物 チヤウブツ むだもの。用に立たぬもの。◎無用の一。

長逝 チヤウシ 死ぬることの敬語。とこしなへにゆきてかへらぬこと。

長堤 チヤウテイ ながきごて。

長亭 チヤウテイ 路程ながき驛路。

長命 チヤウメイ 長いき。長さいのち。

長夜 チヤウヤ ながい。冬の長き夜。長き間。◎一の夢。

長刀 チヤウタウ ながなた。ながき刀。

長幼 チヤウコウ としうへき年下ご。をこなとことどもと。

長音 チヤウオン ながくひく音。

長角 チヤウカク ながきつの。(植)なたねなどの子房の受粉後生長肥大して長き角に似たる果實となるもの。

長耳 チヤウジ ながきみみ。普通人の聞き出し得ざる物事を聞き出すこと。

長部

長袖 チヤウシュウ ながそで。長き袖の衣服をきるもの。古公卿僧侶を指す。

長風 チヤウフウ 遠くより吹き来る。永久に亘るばかりこと。「風。」

長計 チヤウケイ すむれて善き計略。永久に亘るばかりこと。

長途 チヤウト 長き道中。長き旅路。

長流 チヤウリウ 川などの長き流れ。

長座 チヤウザ 永く一所に座するること。ながい。

長短 チヤウタン 長きと短きと。優れたると劣れること。よしあし。あまれること。たらざること。

長驅 チヤウコ せほのりすること。遠くかけ行くこと。

長軀 チヤウキ 身のたけの高きこと。

長夏 チヤウカ 夏のはじめの月。陰曆六月の稱。

長脚 チヤウキヤク ながきあし。

長歌 チヤウカ 篇章の長きうた。句數の多き歌。ながうた。

長跪 チヤウクワイ (佛)兩膝を地に着く

長部

る。◎一敬拜す。

長劍 チヤウケン ながきつるぎ。

長楫 チヤウキチ 支那の禮にて 手を拱きて敬禮すること。

長程 チヤウゲイ とほみち。長き旅路。なが道中。「最も年長のもの。

長弟 チヤウテイ 自分の弟の中に。

長絹 チヤウケン 古水干。直衣。狩衣などに作りたる絹布の織物。

長篇 チヤウペン 詩文などの長く作られたるもの。

長吏 チヤウリ かしらの役人。職多のかしら。勸修寺及び園城寺などにて事務を總理する役。

長春 チヤウシュン 常に春なること。四時進じて花のあること。(植)薔薇の一種にして花は重瓣若くは單瓣にして四時共に咲く。

長嘆 チヤウタン ながきためいきなつこと。ながかほしく思ふこと。

長樂 チヤウラク とこしなへにたのしきこと。たのしみ長きこと。

長部

長病 チヤウビョウ ながくなほらぬ病氣。ながわづらひ。

長養 チヤウヤウ そだてやしなふこと。養育すること。「なつくこと。

長嘶 チヤウシ 馬のつゞげさまに。

長律 チヤウリツ 漢詩にて排律又は七言律詩の稱。

長庚 チヤウカウ よひの明星。ゆふつ。

長身 チヤウシン 身のたけの高きこと。

長槍 チヤウセウ ながきやり。

長差 チヤウサ (天)諸遊星相互の位置の關係より各遊星の運動に及ぼす變化。

長袴 チヤウコ ながばかま。

長髯 チヤウゼン ながきしたひげ。

長婦 チヤウフ 長男のよめ。

長嘯 チヤウセウ 聲を永く引きてうそぶくこと。擧げさまにうそぶく。

長談 チヤウタン ながいなし。「こと。

長東流 チヤウトウ 南蠻人の傳へたる馬術の一派。

長短句 チヤウタン 古詩又は樂府な

長部

どの句の或は長く或は短く字数の一定せざるを。

長短説 長物事を長短何れとも勝手に説き得るを。即ち辯舌の巧みなるを。

長春花 長ウユキクワ(植)舶來の金長樂門 長ウラカモン 内裏の十二門の一。

長鼻類 長ウヅル(動)哺乳動物の一目、鼻長くして恰も手の如き動作を爲すもの。

長髮賊 長ウヅルハツク 清國の咸豊より同治に至る十年間に洪秀全を首として猖獗を極めし匪徒の稱。

長廣舌 長ウヅルハツク 長たらしくし長方形 長ウヅルハツク(數)長さの幅に比して長き方形。

長方體 長ウヅルハツク(數)高さ若くは長さの幅に比して長き立體。

長公主 長ウヅルハツク 天子の姉君。

長布衿 長ウヅルハツク いたづらもの。

長部

長大息 長ウヅルハツク おほきためいき。歎息の甚しきを。

長袖者 長ウヅルハツク ながそでのもの。

長時間 長ウヅルハツク ながき時間。

長距離 長ウヅルハツク 距離のさほきと

長慶子 長ウヅルハツク 舞樂の終に曲の

長命丸 長ウヅルハツク 淫慾をほしいままにする爲に使用する一種の藥劑。

長夜飲 長ウヅルハツク 連日飲酒に耽るをいふ。

長夜室 長ウヅルハツク 墓をいふ。

長絹水干 長ウヅルハツク 直衣に似て袖括ある一種の服、色は多く白を用ふ。

長袖者流 長ウヅルハツク 堂上方又長者議員の異稱。

長汀曲浦 長ウヅルハツク 道の傍にに續きたる濱邊の稱。

長亭短堠 長ウヅルハツク 道中の驛路の或は長く或は短きにいふ

門部

長袖善舞多錢善買 長ウヅルハツク 利多き地位に立つもの、よく成功するにいふ。

門部

門部

門部

門部

門部

門部

門部

門部

門部

門主 門跡號のある寺の住持。

門徒 門下生。門下の信者。特に一向宗の信者。

門弟 門下の子弟。

門限 夜門を閉づる定め。

門送 佛門に入られたる天子の御生母の尊稱。

門前 門のまへ。

門望 一家の枝わかれ。

門扉 門の扉。

門葉 門のまへ。

門跡 法親王の住持として

門閥 住み給へる寺。本願寺の俗稱。

門閥 貴人の門前にて起訴

門閥 貴人の門前にて起訴

門閥 貴人の門前にて起訴

門閥 貴人の門前にて起訴

門閥 貴人の門前にて起訴

門閥 貴人の門前にて起訴

門部

門勝 門のかんげん。門の構。

門構 門のかまへたる宅。漢字の間。

門楣 門のはり。門の棟梁。

門樓 門のやぐら。門のたかどの。

門井 門のわかれ。

門地 門のわかれ。

門牌 門のかんげん。門の

門流 技術の一流。一門の

門衛 門のくわんぬき。

門墻 門のくわんぬき。

門鑑 門を出入し得る證と

門徒宗 門のわかれ。

門面話 門のわかれ。

門面話 門のわかれ。

門面話 門のわかれ。

門面話 門のわかれ。

門面話 門のわかれ。

門部

門外漢 門外漢。其事に關係が

門弟子 門下の子弟。

門前拂 門前の掃除。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門中長廊 門中の細長き往來。

門部

閃火 さまひらめく火。

閃閃 さまひかりのきらめく貌。

閃電 さまいなづま。いなづか。

閃光 さまひらめく光。(天)恒星のきらめくとする光輝。(鏡)銅鏡などのわれ目に他物の入りて一種異様の光を放つ。

閃銀 さま銀の一種、泥土に混じて出づるもの。

閃影 さまひらめく影。

閃爍 さまかややく。

閃爍 さまあきらかなる貌。

閃刀紙 さま紙。

閃 キウ。ク。

閃 うつたへる。

閃 キ。

閃 かじ。

問 (國字)。さしつかへ。抵悟。つかふ。さいはりありてとほらす。

閉 カン。かき。ささ。さとのもん。ところ。とづる。おる。

閉 へい。ハイ。ヘツ。ヘチ。とづる。ふさぐ。おほふ。なまざる。ゆみため。

閉 閉戸 へい。戸をとづる。とちこもり居ると。

閉 閉校 へい。学校の授業を休止す。

閉 閉居 へい。家にこもり居ると。しりぞきてこもり居ると。

閉 閉廷 へい。裁判所にて審問を止め、又は公判を終ふると。

閉 閉梗 へい。とらふさがる。

閉 閉壅 へい。とらふさがる。とらふさがる。

閉 閉藏 へい。とらふさがる。ひそかにかくる。

閉 閉籠 へい。とらふさがる。

閉 閉門 へい。徳川時代の士人の閨刑の一、我家に押し込めて外出を許さぬもの。門をしめきると。

閉店 へい。門を閉じて商賣をやめると。店をしまふ。

閉會 へい。會を止むると。解くと。會を止むると。

閉口 へい。口を閉じて語を出さぬ。風服すると。こまる。

閉場 へい。場所を閉じて人を入れぬ。

閉塞 へい。とらふさがる。とらふさがる。

閉壓 へい。とらふさがる。

閉室 へい。とらふさがる。

閉目 へい。目をとらふさがる。

閉鎖 へい。とらふさがる。とらふさがる。

閉院式 へい。帝國議會の議事終了したる後陛下親臨して行はせらる閉會の式。

閉場式 へい。閉場のいばひに舉行する儀式。

閉鎖機 へい。砲に彈藥を裝填し

閉塞船 へい。敵艦の出撃又は侵入を妨ぐる爲に水中に沈めて港口を閉塞するに用ふる船。

閉塞隊 へい。敵の港口を閉塞する爲に派遣せらる、部隊。

閉殼筋 へい。軟體動物中瓣鳃類に屬するものにして、其の介殼を閉づるための筋、即ち貝の肉柱。

閉戸先生 へい。家内にとらふりて外出せざる人。

四畫 シュン。ニユン。うるふ。

閏 一年を三百六十五日とし四年毎に一日餘るを二月に加へて廿九日となし其年を閏年といふ。

閏位 シン。正統にあらすして天子の位に即くをいふ。

閏年 シン。うるふし。

閏月 シン。うるふし。

閏刑 シン。水刑の代りに行ふ刑罰、主として老幼癡疾又は有爵者に適用するもの。

閏 閏の俗字。

閏 サン。ソン。

閏 ふた。おほふ。

閏 カン。ケン。ひま。あひだいさま。ちかし。やすし。そしる。しのび。ならふ。すきま。まじはる。うたがふ。へだつ。たがひに。かばる。

閏 カン。

間 間に同じ。「もの。

間者 カン。まはしもの。しのび

間隙 カン。すきま。ひま。

間利 カン。仲に立ちて周旋したる料金。

間隔 カン。へだつ。り。物と物との

間居 カン。退て靜に暮らす。

間行 カン。しのびあるき。微行。

間田 カン。年貢を納めず課役を免かる、田。耕作又は植附せざる田。「なる物語。

間語 カン。ゆつくりした話。靜か

間切 カン。土地の區別の稱、内地の郷の如し(琉球の語)。

間税 カン。間接税に同じ。

間話 カン。むだばなし。一時を空らす。「わきみち。

間道 カン。わけみち。ちがみち。

間謀 カン。一國の軍情機密を敵國に傳ふるもの。さぐりもの。

間祿 カン。無益の祿。殘餘の祿。

間出 カン。ひさめをしのびて出で行く。

間關 カン。患難してさまよふ

間食 カン。定まりたる食事と食事との間に物を食すると。時

ならぬ時などに食すると。あひ
だぐひ。
間斷 カシジ たま。ひま。されめ
間歇 カシジ 時をへだて、起ると
 おこつたりやめたりすること。
間民 カシジ 常の業なき民。
間然 カシジ その隙間を利用して
 之を非議するをいふ。失點をあ
 げて批評すること。
間色 カシジ 基本の色の間なる
 色。五色の外の色。紫・緑・褐色
 などの類。
間接 カシジ 他人を介して應接す
 ること。とほまはし。直接の對。
間接税 カシジ 納税者が自ら其
 税金を負担せずして之を他者
 に負担せしむる性質の租税。
間諜兒 カシジ さぐりもの。まは
 しもの。
間歇熱 カシジ おこりさめのす
 る熱病。マラリヤ性の熱病によ
 り患者の身體に時を定めて發

熱すること。「て發する語。
間投詞 カシジ (文法) 情に感じ
間接國稅 カシジ 酒造稅・糖
 油稅などの如く間接稅の性質
 なる國稅。
間接選舉 カシジ 一般より
 選舉せられたる被選舉人が更
 に目的の選舉を爲すこと。
間歇遺傳 カシジ 祖先よりの
 遺傳が一代又は數代を隔てた
 る子孫に發すること。
閑 カシジ 閑。いとま。ふ
 せぐ。とどめる。しづ
 か。いたづら。
閑所 カシジ しづかなる場所。ひ
 まの地位。せいん。「き。
閑日 カシジ ひまの日。用なきと
閑靜 カシジ もの靜かなること。
閑住 カシジ しづかなる住居。
閑閑 カシジ 心のびのびしたる
 貌。機子のゆつくりせる貌。
閑居 カシジ しづかなる住ひ。閑

地の住居。ひまにて居ること。
閑境 カシジ しづかなる處。
閑靜 カシジ 物靜かなる處。
閑人 カシジ ひまの多き人。閑散
 なる人。
閑職 カシジ ひまなやくめ。
閑寂 カシジ ものしづかなること。
 心靜かなること。
閑雅 カシジ みやびやかなること。し
 ぞやかなること。土地しづかにし
 て景色のおもむき多きこと。幽
 邃。
閑窓 カシジ 閑靜なる家の窓。
閑散 カシジ てあき。てすき。ひま
 職務のなきこと。①の身。
閑地 カシジ 靜かなる土地。職務い
 そがしからざる地位。職務なき
 身分。①に安臥す。
閑暇 カシジ 手すき。ひま。
閑行 カシジ 物靜かあること。
閑歩 カシジ 靜にあること。ふらぶ
 ら歩き。①高吟。

閑宅 カシジ 閑靜なるすまひ。
閑話 カシジ むだばなし。あだこと
 むだこと。ゆるやかなるはなし
閑却 カシジ 入用なきこと。なほざ
 りにして置くこと。
閑然 カシジ 異議あること。よしあ
 しいふべきこと。「さむこと。
閑吟 カシジ しづかに詩歌を口ず
閑語 カシジ むだばなし。空しく時
 間をつひやす話。靜かなるもの
 がたり。
閑談 カシジ 物靜かに對話すること
 世の俗事を離れたる談話。①
 時を過す。「むだのしこと。
閑事業 カシジ 役に立たぬわざ
閑清縫 カシジ 糸を現はして打
 ちちがへたからげぬひ。袋物な
 どの端に行ふ。
閑日月 カシジ ひま。物事に離
 離せざる思慮。①英雄の胸中
 あり。
閑子鳥 カシジ (動) 學木類中ほ

さ、ぎす科に屬する鳥。深山に
 棲み全身黒色にして黒斑あり
 腹部は淡黄色にして白黒の斑
 文あり趾は前後各二本あり。
閑話休題 カシジ 今までいひ
 來りたる事を止めて他の事に
 移るときに用ゆる語。さて。
閑 カシジ 閑。いとま。ふ
 せぐ。とどめる。しづ
 か。いたづら。
閑所 カシジ しづかなる場所。ひ
 まの地位。せいん。「き。
閑日 カシジ ひまの日。用なきと
閑靜 カシジ もの靜かなること。
閑住 カシジ しづかなる住居。
閑閑 カシジ 心のびのびしたる
 貌。機子のゆつくりせる貌。
閑居 カシジ しづかなる住ひ。閑

開 カシジ 開く。とく。ほぞ
 く。さとす。まうす。のぶ
 る。はじめ。とほる。のぞ
 く。さる。はる。おほいに
 す。
開閉 カシジ 開くと閉づると。あ
 けたて。
開塞 カシジ 開くさ寒がると。
開基 カシジ 新一寺を創立する
 こと。又その人。ねもとを開くと。
開歲 カシジ 新らしき年。新年。
開士 カシジ (佛) 菩薩の稱。
開示 カシジ いひあらはすと。とき
 しめすと。
開門 カシジ 門をひらくこと。
開鎖 カシジ ちやうをあけると。ひ
 とくこと。さすと。
開書 カシジ 公に示す書面。
開扉 カシジ とびらを開くこと。開帳
 神佛の安置せる厨子の扉を開
 くこと。「となること。
開明 カシジ 世の開けて文物明か

門部 四畫

開帳 カイチヨウ 神佛の厨子の帳を開き参詣人に親しく拜觀せしむること。

開場 カイキョウ 演戲場又は博覽會などを公衆に示すため入場をゆるすこと。

開封 カイフウ 手紙のふうを開くと封じたものを開くこと。封じなせぬ書簡。

開闢 カイキョク 天地のひらけはじまり。世界の始め。僧家にて儀式の開始をいふ。①以来の盛典。

開發 カイハツ 人智を自然の間に開達するやうにさそひ出すこと。兒童の教育に其の心意の發達の順序に従ふ方法を選び兒童を自發的に領解して智識をみづから發し開くやうになすこと。

開立 カイリツ (數)立方根を求むること。カヘイ (數)或數の平方根を

開平 カイヘイ (數)或數の平方根を

門部 四畫

開化 カイカ 人智發達して事物の進歩すること。又人智の開け進みたるありさま。①文明。

開導 カイドウ ひらきみちびくこと。

開店 カイテン みせびらき。商人などの店を開くこと。

開國 カイコク 國を開き建つること。外國との交際を始むること。

開始 カイシ 是れははじむること。はじまること。

開設 カイセツ 新にまうくこと。は開廷

開廷 カイテイ 法廷を組織し裁判を開くこと。

開校 カイコウ 學校にて授業を始むこと。

開拓 カイタク 荒地などを開くこと。新に山野を開きて田畠をつくること。

開港 カイコウ 港を開くこと。外國船を港に出入せしめて交易を許すこと。

開豁 カイコク 心持さつぱりとし

門部 四畫

てわだかまりのなきこと。眺望の開け渡れること。①心氣。

開墾 カイケン 耕作の目的を以て山林原野等に工事を施すこと。山野を開きて新に田圃をつくること。

開業 カイゲツ 營業をはじめめこと。みせびらき。

開卷 カイケン 書物をひらくはじめ。書物の冒頭。①第一。

開眼 カイガン 佛家にて佛像落成式のとき行ふ儀式。おめあけ。法性眞如を證見すること。

開春 カイシュン 改まる年の春。空き地に家を建つこと。

開山 カイサン 山を開くこと。始めて寺を建つる人。或物事の開始者

開申 カイシン 自己の爲したる政事柄を監督者に申述すること。まうしひらき。

開新 カイシン ひらけて新たに開運

開運 カイウン 運の開くこと。幸運に向ふこと。運ひらけてよくなる

門部 四畫

開蒙 カイモン 仲悪しくなること。

開闢 カイキョク ひらくこと。昔の和歌所の藏人所・政所などにありて次官に同じき職掌のもの。

開鬱 カイウツ うさばらし。又開憂

開盤 カイバン 山などを開きて道を通すること。海水などを埋め立て、新田をつくること。

開票 カイヒョウ 投票函を開き投票の結果をとりしらぶること。

開廳 カイテイ 官廳の執務をはじめむること。

開演 カイエン 演説・講義又は遊藝・演劇などをはじむること。

開戰 カイセン 戦をはじめめこと。敵に對して攻撃をはじめめこと。敵の布告。

開札 カイサツ 入札をひらきて調ぶ

開端 カイタン 陰曆正月の異名。

開落 カイラク 花の開くこと。散ること。

門部 四畫

開會 カイカイ 會議を始むること。帝國議會が有効なる行動を始むること。

開城 カイジョウ 城を敵へあけたこと。

開通 カイツウ ひらきこと。塞がれたものをひらきこと。電氣鐵道。

開講 カイコウ 講義をはじめめこと。

開決 カイケツ とりさげこと。

開手 カイテ 是れははじめ。爲し始め。

開放 カイホウ あげはなし。防禦を解き去ること。禁制を撤去して自由に通を許すこと。①門戸。

開朗 カイロウ 空の晴れ渡ること。

開版 カイバン 書物を世に出すこと。

開展 カイケン 封じたものを開くこと。密集せるもの若くは閉藏せるものを開きのふること。

開披 カイヒ 手紙などを披くこと。

開境 カイキョウ 土地を開くこと。又開疆に作る。

開祖 カイソ せんで。始めて寺を建

門部 四畫

開剖 カイボウ 動物の體を解きてその構造又は病根等を研究すること。

開校式 カイコウシキ 學校にて授業を始むること。つきて行ふ式。

開院式 カイエンシキ 帝國議會召集の後勅令を以て開會の日を定め兩院議員を貴族院に會合せしめて開會を命ぜらるる儀式にして天皇親ら勅語を賜ふ。

開拓使 カイタクシ 明治の初年設けられし官廳にして北海道の開拓及び行政をつかさどりし所。今の北海道廳の前身なり。

開業式 カイゲツシキ 開業につき關係者などを招待して行ふ儀式。

開業醫 カイゲツイ 内務省の免許を得て醫術を業とする人。

開港場 カイコウジョウ 交易を許せる港のある所。

開剖學 カイボウガク 動物の體を解剖して其組織・病根等を研究する

門部 七―八畫

閫

コソ。しきみ。くひ。
門外の區限にいふ字。

閫内

コソイ。しきみのうち。轉じて國中の意。

閫則

コソク。婦人の守るべき法。

閫外

コソク。門のしきりそと。外國への出征。外敵との戦争。

閫外任

コソク。將軍の職。

閫風

ラウ。昆崙山の上にある山。リヨ。ロ。かご。さ。さ。さ。とのもん。周の三十五家を比とし五比を閫とす。

閫里

リヨ。むらざと。秀

閫閫

リヨ。むらざと。才

閫巷

リヨ。むらざと。村のうち。さとのうち。

閫中

リヨ。むらざと。門。むら

閫閉

リヨ。むらざと。門。むら

門部 七―八畫

閫戸

リヨ。むらの門のさびら。閫閫醫。リヨ。まちいしや。

閫然

グキ。しづか。さびし。貌。又閫乎といふ。

閫

ヨク。イキ。キヨク。しきみ。門下の横木の内外の限をなすもの。

閫人

コソ。かごもり。宮中を守る者。「いふ。アツ。アチ。さへさる。ふせぐ。とむる。こぼ

閫塞

アツク。ふさぐ。佛に供ふる水。佛に供ふる水を盛る器。

閫伽水

アツク。佛前に供ふる水。

門部 七―八畫

閫

エン。オン。セン。里の中。門。ちまた。みめよし。

閫魔

エン。佛。地獄の主にして人の死後其の生前の善惡を判じて賞罰を加ふといひ傳へたるもの。其の像も普通の佛像に似て左に人頭をつけたる幢をもちて水牛に乗れるものを描きしが近時のものは支那風の衣服を着け忿怒の相をなす。

閫羅王

エン。佛。閻魔の尊稱。

閫羅人

エン。佛。地獄の獄卒。

閫浮提

エン。佛。印度大陸の尊稱。「まつるわざ。

閫魔天

エン。佛。閻魔を大に大にありて中に樹あり其の果の液に物を混すれば金を爲す流れて河に入り河底の石を染めて金を爲す其の色赤黄に

門部 九―十畫

闌

ラシ。ふふけ。

闌夜

ラシ。ふふけ。

門部 九―十畫

闌

シヤ。ト。ツ。城門の臺。城上の重門。ラン。さへさる。やらひ。くる。はなちる。まれなり。つくる。のみこむ。のこる。たけなは。うしなふ。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

闌

シヤウ。サウ。かご。となふ。おさむ。いざなふ。みちびく。

門部 九―十畫

闌入

ラシ。みだりに入ると。

闌出

ラシ。みだりに出ると。

闌暑

ラシ。暑さの終り。夏の末。

闌門

ラシ。大馬と小馬との合ふ所。分水。

闌

クワツ。クワチ。おろそか。うとし。おほいなり。ひろし。とほし。へだ。うさうとしくなる。ゆたか。そむく。

闌大

クワツ。疎遠なること。「り。

闌疎

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

闌久

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

闌遠

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

闌然

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

闌

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

闌

クワツ。ひさびさ。ひさしぶ。

門部 九―十畫

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

闌

エン。オン。ふさぐ。まが。城内の重門。

門部 九一十畫

闕合 アツク 期せずして自ら合す

闕冥 アソイ くらがり。光のなき

闕黨 アソヒ ひそかに結べる仲間

闕暗地 アソシチ ひそかに。
ゲキ。キヤク。ひつそり
さして人なき。しづか
ひさし。

闕然 クセシ しんとして物さびし

闕寂 クセキヤク しんとして物さび
チン。チウ。かけいづる。
かしら。いたたく。うか
いふ。

闕入 クセライ いりこむ。急に押
し入ると。あばれて入り込むと
ケツ。クワチ。かける。う
しなふ。あやまつ。支那

闕の宮城の門外の左右に
ある兩個の臺。上に樓觀
を設く。轉じて宮城の門
又は宮城をいふ。

門部 九一十畫

闕然 クセシ きりひらけたる貌。

闕下 クセカ 天子のごもんまへ。御
ひざもと。宮門のもこ。①に
伏奏す。

闕損 クセツン 不足になると。會社
などにて配當すべき利益なき

闕隙 クセキ すきま。

闕腋 クセキ けつてき。わきあけ。

闕廷 クセテイ 宮中。きんり。

闕除 クセツ 缺きのぞくと。

闕失 クセツ 缺けて無くなること。

闕所 クセツ 領主が罪によりて亡
び次の領主の未だ定まらざる

闕本 クセホン 卷數の不足してある
すみて出勤せざること。

闕空 クセクウ かけて無くなること。

門部 九一十畫

闕字 クセジ 天皇・貴人の御名など
を書くとき尊嚴の意を表して

闕如 クセコト かけてなきこと。はぶ
かること。

闕員 クセイン 人數の足らぬこと。定
員の不足すること。

闕席 クセキ 其場所に出でぬこと。

闕省 クセシヤウ はぶくこと。

闕官 クセクワン その官にある人の
缺けたること。

闕補 クセフ かけて不足せる者を
充たすこと。

闕略 クセリヤク はぶくこと。省略。缺
きて加へざること。

闕畫 クセガク 天皇その他貴く諱
むべき人の御名と同じ漢字な

門部 九一十畫

闕のあらはるるさき憚りてそ
の畫を省くこと。漢字の中の畫を
はぶくこと。

闕席裁判 クセキサイバン 相手方の
一方が辯論期日に出頭せず又

は辯論を爲さざるにより出頭
したる他の一方の相手方の申
立により判決すること。

闕カフ。ゴフ。とびら。あは
する。くるしむ。とづる。
とま。

闕家 クセカ 一家残らずの人。家内
中。又闕門。闕屋といふ。

闕府 クセフ やしき中。

闕積 クセツキ はこのふたを爲すこと

闕國 クセクニク 全國。國中。一國內。
①の人民。

闕城 クセシヤウ 城内残らずの人。

闕邑 クセイ 里残らずの人。

闕棺 クセクワン 人の死するをいふ。
ゲツ。ゲチ。ケイ。とざし
さぢ。しきみ。門中の柵。

門部 九一十畫

闕内 クセナイ しきみのうち。
テン。デン。さかんなり。
みつる。つらなる。おほ
し。

闕噓 クセツ 太鼓を打つ音にいふ
雑沓の甚しきをいふ

闕カシ。やはらぎな
く。もとむる。まうす。き
れる。つらなりゆく。と
ほる。うがつ。わたる。臍

闕のまはり三寸程の間の
稱。腕の中程の折れ曲る
まこ。

闕山 クセサン ふるさと。故郷。

闕弓 クセウ 弓を引くこと。

闕白 クセハク 萬機巨細となく其
の人にして天下に政務を行ひし

闕振 クセシン ときとざし。ぬち。大臣

門部 九一十畫

闕與 クセウ あづかること。かいは
ること。 「みちすぢ。

闕由 クセユ すでに經歷し來れる

闕鑰 クセヤク くわんぬきとちや
う。門戸のしまり。内部に入
り込む要所。

闕鍵 クセケン くわんぬきとちや
う。轉じて物事の中に入り込む
ために要用なるもの。

闕唯 クセヱ 睦み和らぐこと。夫婦
などの仲よきこと。

闕心 クセシン 氣にする。氣にな
ること。心にかゝりて忘れざること

闕稅 クセゼイ 税關にて輸出入物
品に對して取り立つる税。

闕節 クセセツ 骨と骨とのつぎめ
物と物との相接合する所。

闕津 クセツ 關所と渡し場。

闕防 クセボウ 關所によりて敵を
防ぐこと。書畫を書きてその全幅

門部 九—十畫

門部 十一畫以上

門部 十一畫以上

又は端部なることを證する爲にその右肩に押す印。
關係 ^{ケウケン} かいりあふと。一つのものとの他のものとが互につきながらあふと。一つのものとの他のものとの相對する状態。てづる。男女間の情交。

關門 ^{ケウモン} せきしよの門。或る場所に至るべき入口。①通過關取 ^{セキト} おほせき。相撲のせき。轉じて一般の相撲の敬稱
關脇 ^{セキヰ} 相撲の番附の上にて大關の次ぎ小結の上に列するもの。

關札 ^{セキダ} 關所を通行するときの證とすべきわりふ。てふだ。
關東管領 ^{ケウトウワンリヤウ} 足利時代の關東の政事を委任して鎌倉に置きし管領。

關東都督 ^{ケウトウドウツク} 關東州を管轄し南滿州に於ける鐵道線路の保護・取締・南滿州鐵道會

社の業務監督等に任し外務大臣の監督を受けて諸般の政務を行ふ官職。
關東都督府 ^{ケウトウドウボウ} 關東都督が事務を取扱ふ所にして民政部と海軍部とを置く。
關稅同盟 ^{ケウセイドウメイ} 二國若くは二國以上が同盟して相互間の輸出入貨物に對し關稅を課せず同盟外の諸國間の輸出入貨物に課稅して其の收入を分配すると。

關稅同盟 ^{ケウセイドウメイ} 二國若くは二國以上が同盟して相互間の輸出入貨物に對し關稅を課せず同盟外の諸國間の輸出入貨物に課稅して其の收入を分配すると。

關望 ^{ケウワウ} うかひ見ること。せん。あきらか。ひらく。あらはる。おほいなり。關校 ^{ケウガウ} あきらかにしたつこと。あきらかにしらぶること。關幽 ^{ケウウ} かすかなる所をあき

關望 ^{ケウワウ} うかひ見ること。せん。あきらか。ひらく。あらはる。おほいなり。關校 ^{ケウガウ} あきらかにしたつこと。あきらかにしらぶること。關幽 ^{ケウウ} かすかなる所をあき

關望 ^{ケウワウ} うかひ見ること。せん。あきらか。ひらく。あらはる。おほいなり。關校 ^{ケウガウ} あきらかにしたつこと。あきらかにしらぶること。關幽 ^{ケウウ} かすかなる所をあき

關關 ^{ケウケン} いかげ。まち。市井。へき。ビヤク。ひらく。ながるる。さくく。

關關 ^{ケウケン} いかげ。まち。市井。へき。ビヤク。ひらく。ながるる。さくく。

關關 ^{ケウケン} いかげ。まち。市井。へき。ビヤク。ひらく。ながるる。さくく。

關關 ^{ケウケン} いかげ。まち。市井。へき。ビヤク。ひらく。ながるる。さくく。

阜部 三一—四畫

阜部 三一—四畫

阜部 三一—四畫

阜部

阜財 ^{フウサイ} たからのゆたかなること。たからをゆたかにすること。阜熙 ^{フウキ} さかんに興起すること。

阜部

阜財 ^{フウサイ} たからのゆたかなること。たからをゆたかにすること。阜熙 ^{フウキ} さかんに興起すること。

阜財 ^{フウサイ} たからのゆたかなること。たからをゆたかにすること。阜熙 ^{フウキ} さかんに興起すること。

阜財 ^{フウサイ} たからのゆたかなること。たからをゆたかにすること。阜熙 ^{フウキ} さかんに興起すること。

防人 ^{バウジン} 昔外寇を防がんとす。めに筑紫の宰府に置かれたる兵士。

防水 ^{バウスヰ} 水の進入し來るを防ぐこと。水をとほせぬこと。

防圍 ^{バウイ} ふせぎかへふこと。撒形科に屬する草、多く海邊に自生し復葉を有し花は小形白色なり、根は牛蒡に似て藥用に供せらる。「そなへ」。

防備 ^{バウビ} 防禦の準備。ふせぎの防守 ^{バウシュ} ふせぎまもること。

防材 ^{バウサイ} 敵艦の侵入を防ぐための障害物、鐵鎖・鋼索などにて大なる木材を聯結し港口等の水路に設け置く。「と」。

防臭 ^{バウウ} 臭氣をふせぎとめる。防害 ^{バウガイ} 害を防ぐこと。防寒 ^{バウカン} 寒さを防ぐこと。防遏 ^{バウアツ} ふせぎさどむること。

防腐 ^{バウフ} 物の腐るを防ぎ止むること。「だ力む」。

防戰 ^{バウセン} 防ぎ戰ふこと。防禦 ^{バウゴ} 防ぐこと。防ぎ守ること。防衛 ^{バウエイ} 防ぎ守ること。

防水布 ^{バウスヰフ} ゴムなどを引きて水の通らぬやうに製したる布。「もの」。

防禦物 ^{バウゴキヨツ} 防禦の用となる。防禦林 ^{バウワリン} 風よけの林。

防禦線 ^{バウゴキョセン} 防禦する線路。防火布 ^{バウワフ} いしわたを以て織りたる布、よく火に堪ふ。支那の南荒の外の火山に棲める鼠の火を取りて織りたりさいひ傳ふる布。

防穀令 ^{バウコクレイ} 穀物の輸入を防止する爲に發する法令。防臭劑 ^{バウウサイ} 防臭に使用する藥劑。「ふる藥劑」。防腐劑 ^{バウフサイ} 腐敗を防ぐに用

防禦水雷 敵艦を轟沈する爲に港灣又は海中に敷設し置く水雷。

防禦工事 敵の來寇を防禦する爲にする工事。

防寒衣 防寒の爲にする衣。別に仕立てたる衣。

防寒具 防寒の必要具。セイ、シヤウ、ウがフ、おとしあな、あなほる、ゲン、ゴン、ケワン。

阮 山の名。せきの名。「名。阮威」楽器の名。月琴の一種。ハン、ヘン、つづみ、わき

阪 けはし。さか。

阪尹 縣知事をいふ。

阪路 縣知事をいふ。

阪險 さかのけんをなると

阪橋 さかのかはし。

阪上走玉 ハンギョウマハリス 勢に乗することないふ。

宛 アイ、アク、ヤク。せまる。くるしむ。けはし。せはせはし。ふさがる。

宛窮 アラキ ぶさがると。

附 フ。よる。つく。ちかづく。ます。つけたり。したがふ。むかふ。

附加 フ。つけくはへ。そふると。

附和 フ。人の言ふことにつきした

附言 フ。いひそへると。あとよりつけ加へる言。

附近 フ。近き所。もよりの

附庸 フ。下につき従ふと。えだ城。諸侯に従ふ小國。

附従 フ。つき従ふと。

附合 フ。一物が他物と結合せると。つけあはすと。(法)所有者を異にする二個以上の物件が密着して分離すべからざる

附着 フ。つく。ねばりつく

附會 フ。こじつけ。牽強。

附帶 フ。つきともなふと。事務。

附則 フ。主たる法則に附屬する

附置 フ。附屬して設けおくと。

附與 フ。あたへ授けると。

附箋 フ。さげふだ。つけふだ。さげ紙。

附籍 フ。他の戸籍に附屬せると。

附録 フ。つけしたふと。新聞などに附け足す印刷物。

附屬 フ。つきしたがふと。質が甚だ接近するとき密着せんとする力。

附加刑 フ。主刑に附屬して科せらるる刑。剝奪公権・停止公権・罰金・沒收・監視などの如し。

附加税 或一種の税金に均一の標準を取り之に附加して市町村より徴收する税。

附帯犯 一人若くは數人が同一場所にて同時に又數人共謀して時日又は場所を異にして數罪を犯し又自己又は數人の犯罪を容易ならしめ又は免れしむる爲めに他人の犯罪を爲したる等の如き一の犯罪に附帯せるものとして裁判する犯罪。

附庸國 自國の安全を保たんが爲に他國の勢力を藉りて其指揮に従へる國。

附帶上告 訴訟 當事者の一方がなしたる上告に附帯して相手方が該上告の判決あるまで同一裁判所になす上告。

附帶上訴 訴訟 訴及び附帶上告の總稱。

附帶私訴 被害者が犯罪人に對し公訴に附帯して其の犯罪より生じたる損害の賠償又は贓物の返還などを請求する訴訟。

附帶控訴 訴訟 當事者の一方が爲したる控訴に附帯して相手方が該控訴の判決あるまで同一裁判所になす控訴。「を科する處分」

附加刑處分 附加刑 附屬小學校 師範學校に附屬し生徒の實地授業の爲に設けられたる小學校。

陂 土。ハ。つづみ。いけ。

陂頭 堤のほさり。土手。女。ななめ。

陀 陀に同じ。女。けはし。

陀落 墮落に同じ。

陀螺 ばいの殻を獨樂の如く紐をからげてまはすもの。

阿 ひと。なほ。きし。やどり。をか。したがふ。むなき。きた。おもれる。うつくし。あづまや。ちかし。

阿二 二番目の子女。

阿父 おおつさん。又阿爺さん

阿母 おつかさん。「いふ。アキ あにさん。

阿兄 アキ あにさん。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阿弟 阿兄に高き岡。

阿兄 阿弟に高き岡。

阜部 五畫

阜部 五畫

阜部 五畫

だ熱せざる果穀に切傷を付け之より流出せる乳液を乾燥せしめたる褐色の粉末にして苦味ありて、持異の臭氣を有し麻酔性の毒あり。

阿羅 (動) 硬鱗類に屬し體形は側扁、鱗甚だ小さくして頭部をも蓋ふ體は褐色腹部のみ銀白色を爲す深海の岩礁間に棲息す。

阿嬭 アシ 乳きやうだい。

阿世 アシ 世俗にこびへつらふこと。◎曲學一の徒。

阿從 アシウ おもれり従ふこと。

阿堵 アト 錢の異名。

阿禮 アレ 四月賀茂の祭りに色々布を袖に垂れ飾りたるもの。

阿然 アシ 美しき貌。「の。

阿帶 アイ おるか。馬鹿。わるも

阿嬌 アウ 美人。みめよき女。

阿膠 アウ 牛豚などの皮より取りたるにかは。

阿諛 アユ へつらふこと。おべツか。阿衡 アウ 攝政の異稱。

阿黨 アウ 仲間。くみ。

阿嬭 アシウ おつかさん。

阿宇觀 アウリン (佛) 眞言宗のさりの法。

阿房拂 アウハヒ 徳川時代に行はれたる刑罰。まるごしにして武士を追放すること。

阿刺吉 アラク 昔和蘭より舶來せし飲料にてアルコールに香氣を付したるもの。

阿香車 アカワクルマ 雷の異稱。

阿羅漢 アラン (佛) 梵語、見心の惑ひを断じて三界の生を受けず智斷の功德既に具足して人天の供養を受くる覺者の位地。

阿禮引 アレキ 賀茂の祭りに阿禮の神の繩を引くこと。

阿煎藥 アシヤ ぶしを煎じつめたる藥。

阿閣梨 アシラ 梵語、僧のかしら

僧の中にて人の師となるべき程のもの。

阿彌陀 アミダ (佛) 梵語、ほごけ。

眞宗と淨土宗との本尊。車の輪の周圍の木。

阿修羅 アシラ (佛) 佛になるとを得ぬもの。

阿修羅王 アシラウ (佛) 阿修羅の王、力強くして梵天帝釋と争ひ正法を亡ぼさんとするもの。

阿修羅道 アシラダウ (佛) 阿修羅界へ行く道。

阿修羅界 アシライ (佛) 阿修羅のある世界、六界の一。

阿鼻地獄 アビダク (佛) 八大地獄の一、最も苦惱の多き處をいふ。

阿遮維尊 アシラン 不動尊の異稱。「て製したる煙草。

阿片煙草 アンタコ 阿片を加へ阿彌陀被 アンタウ 帽子を後頂につらしてかぶること。

阿彌陀堂 アミダウ あみだ佛を安

置したる堂。茶の湯に用ふる釜の名。

阿彌陀籤 アミダシ 金額の多寡を示したる籤を引きて其のしるしある金額を出し合ひ物を買ひて之を等分すること。

阿呆陀羅經 アホダラキョウ 一種の俗話、小形の木魚二つを打合せて節をとるもの。

阻 ソ。サク。
くらぬ。きざし。
ソ。シヨ。けはし。かたしへだつ。なやむ。やむ。とどむ。はばむ。うたが。か。よる。たのむ。しきり。かぎり。さまたげ。行くこと。正しからず。

阻止 ソミ ばらみさまたぐること。

阻妨 ソバウ ばらみさまたぐること。

阻邱 ソキウ 後に當る處から水の出る山をか。「ること。

阻格 ソカク 相合はざること。へだつ

阜部 五畫

阜部 六畫

阜部 六畫

阻修 ソシウ へだりて遠きこと。

阻峻 ソケン げはしきこと。「こと。

阻抑 ソヨク ばらみおさへつくる

阻澗 ソカン げはしきたにがは。

阻折 ソセウ へだりりをれまがること。折れまがり。

阻損 ソソン ばらみそこなふこと。

阻徑 ソケイ げはしきこみち。

阻限 ソゲン しきること。かぎりさめること。へだて。しきり。

阻害 ソガイ じやましてわるくする。へだつること。

阻隔 ソカク へだてさまたぐること。

阻檔 ソタウ ばらみさまたぐること。

阻難 ソナン 甚しくさし追ると。はやせのせき。げはしきこと。

阻礙 ソガイ じやますること。さまたぐること。

六畫

依 イ。エ。
さかの名。

阻 限 キ。ケ。やぶれがき。くづる。げはし。やぶる。カン。ゲン。かぎり。へだて。さかひ。しきり。しきぬ。ほど。ほごあひ。

阻 限 数量を制限すること。制限したる数。

阻 限 或範圍又は事項に制限を附して定むること。

阻 限 度を限ること。程度。

阻 限 度を限ること。程度。

阻 限 さかひ。くぎり。しきり。「それ。制限以外。

阻 限 制限したる程度の外

阻 限 制限したる程度の外發行

阻 限 中央銀行にて或一定の制限以外に經濟上の變動金融の状態によりて紙幣を發行すること。

阻 限 相續人が相續によりて得たる財産の限度に於てのみ被相續人の債務及び贈遺を辨濟すべきことを

限定承認 ゲンテイシヨウ 相續人が相續によりて得たる財産の限度に於てのみ被相續人の債務及び贈遺を辨濟すべきことを

限定承認 ゲンテイシヨウ 相續人が相續によりて得たる財産の限度に於てのみ被相續人の債務及び贈遺を辨濟すべきことを

阜部 六畫

留保する。カウ。コウ。くだる。おる。おつ。さがる。ふる。おとす。あつまる。

降人 カウシ 降参したる人。

降下 ガカ 降り來る。

降伏 カウツ 降参すること。怨敵悪魔などを鎮め伏す。敵國一

降雨 ガウ 雨のふる。

降投 カウタウ 降参すること。

降服 カウフク 降参して命に従ふ。

降卒 カウソツ 降参したる兵卒。

降兵 カウヘイ 降参したる兵士。

降雪 カウセウ 雪のふること。

降参 カウサン 戦に負けて敵に降ること。すべて物事に負けて閉口すること。

降涙 カウライ かつる涙。落涙。

降生 カウセイ 神佛などが生を人間に享けて此の世に生る。いふこと。降魔 カウマ 悪魔を降伏せしむること。

阜部 六畫

降將 カウシヤウ 降参したる大将。

降嫁 カウカ 皇女又は王女などの親王家其他自家より地位卑き人に縁組遊ばさる。

降旗 カウキ 降参のしるしに掲ぐる旗。を翻へす。

降誕 カウタン 神佛又は非凡なる人の此世に生れ出づること。降世。

降臨 カウリン 天降ること。人の來り訪ふことを敬ひていふ語。天孫。

降三世 カウサイセイ 佛(佛)明王の、三面八手にして貪・瞋・痴の三害を制し常に東方を守る。いふ降魔劍 カウマクウ 不動明王が手にせる劍。

降誕會 カウタンエ 佛教にて四月十五日に釋迦の降誕日を祝する法會。眞宗にて五月二十一日に開祖見眞大師の降誕日を祝する法會。

阜部 六畫

陌 ハク。ヒヤク。田間東西の通路。みち。市中の街路。まち。はちまき。百に通じ用ふ。

陌刀 ハクダウ たち。太刀。

陌頭 ハクトウ ちまたのほとり。町のほとり。の商館。

陌 ロウ。ル。せまし。いやしみにくし。ひくし。みじかし。ほそし。

陋才 ロウサイ 愚かなるもの。おろかなる才。

陋心 ロウシン 賤しき心。

陋宅 ロウタク いぶせきすまゐ。

陋劣 ロウレツ 賤しくして劣ること。

陋巷 ロウカウ きたなきちまた。うら町。に出入す。

陋居 ロウキ きたなき所に住むといぶせき住居。

陋言 ロウゴン 賤しき言葉。あさはかなることば。聞くに堪えず。

阜部 六畫

陋醜 ロウシュ 賤しくみにくきこと。見るに堪えず。

陋質 ロウシツ 卑しきたち。賤しき生れつき。

陋賤 ロウケン 卑しきこと。身分のひ

陋質 ロウシツ 卑しきたち。賤しき生れつき。

阜部 七畫

七畫

除 チョ。チヨ。ヨ。ト。きざはし。には。のぞく。わるわりさん。なまむ。ひらく。官に拜すること。かはる。四月のこと。さる。

除日 チョジツ 十二月の末の日。おほみそか。おほつもごり。

除外 チョガイ せりのぞく。とりのけ。其の範圍の外におくこと。其の規定の外におくこと。

除目 チョモク 古大臣を除くの外諸臣の官位を陞叙せし公事。

除去 チョキョ 除き去ること。

除地 チョヂ 社寺の境内など租税を課せざる地。

除名 チョメイ 名簿などより姓名を除き去ること。連中の中よりその人を斥くこと。

除官 チョクワン 官職を拜命すること。

除免 チョメン 責任をまわらるること。

阜部 七畫

除法 チョフウ (數)積とその一因子とを知りて他の因子を見出だす法。わりさん。の夜。

除夜 チョヤ 大みそかの夜。年越し除服 チョラツ いみあけ。ぶくあけ。出仕を命ず。

除草 チョソウ 草を抜き去ること。土地をうちかへして雑草を生ぜしめざること。

除臭 チョウソウ くさみを除くこと。

除害 チョガイ 害悪をのぞくこと。

除砂 チョサン すなをとり除くこと。

除穢 チョタイ 穢を入れたる籠又は筵より桑の屑又は糞の糞をとりのぞくこと。

除號 チョガウ (數)除法の符號、即ちの稱。

除斥 チョシツ のぞきしりぞくこと(法)判事及び書記が或訴訟事件に就て其職務の執行よりぞかること。

除脱 チョダツ のぞきざること。

阜部 七畫

阜部 七畫

阜部 七畫

除舊 チヨキウ ふるきものを除くこと。
除夕 チヨセキ おほみそか。おほつもこり。

除月 チヨグツ 陰曆十二月の異稱。

除租 チヨソウ 租税を免する。

除患 チヨウワン なやみを除くこと。

除族 チヨリツ 華土族の罪を犯したる時その族籍を除き去りて平民籍となす。華土族の待遇を停止せらるること。

除隊 チヨタイ 現役兵が規定の期限を経過するか又は他の事由によりて服役を免除せらるること。

除幕 チヨマク 肖像の彫刻などの出来上れる時其蔽ひ物を取り去る。

除棄 チヨキ のぞきすつること。

除賊 チヨソク 賊を退治すること。

除惡 チヨアク 惡を除くこと。

除算 チヨサン わりさん。

除籍 チヨセキ 戸籍簿よりその人の姓名をのぞき去ること。脱籍せしむること。

除草器 チヨサウキ 除草に使用する例外例 チヨウレイレイ さりのけのためし。除外すべきためし。

除幕式 チヨマクシキ 除幕の儀式。

除服出仕 チヨフクシュツシ 喪にありてひき籠り居る官吏の除服してその官衙に出勤すること。

除權判決 チヨケンハンケツ (法) 公示催告にて適當なる時期に届出なきとき催告者の申立により其の請求又は權利の消滅する判決。

陣前 チンゼン 陣營のまへ。

陣供 チンキョウ 陣營のまへへさぐる。

陣扇 チンセン ぐんばいうちば。

陣座 チンザ 昔禁中にて節會・神事等の公事の時上卿の座りて事を執行せし座。

陣勢 チンセイ 陣のいきほひ。

陣地 チンチ 軍隊の配備又は戦闘に適したる地。陣ごる場所。

陣幕 チンマク 陣營に張る幕。

陣小屋 チンコウヤ 軍隊の宿營せる小屋。陣中に立つる小舎。

陣太鼓 チンタイコ 陣中に軍隊進退の合圖に打ち鳴らせし太鼓。

陣笠連 チンガサレン 下賤の人々。多數の雷同者。人の下風に立つる満足し居るものごも。政黨の

陣門 チンモン 陣屋の出入口。

陣吉 チンキチ 布にて作りたる財布。

陣鐘 チンカネ 陣中にて進退の合圖に打ち鳴らしたる鐘。

陣取 チンリ 陣をつくること。小兒の遊戯。各陣地を定め置きて互に攻めうばふこと。

陣亡 チンバウ 戰場にて討死すること。

陣刀 チンタウ 戦闘に使用する刀。

陣立 チンダテ 軍勢を揃へ隊伍を列ぬること。軍隊の配置又は編制。

陣中 チンチュウ 陣屋のなか。戦時。

陣代 チンダイ 昔大名の陣屋を留守する重役。

陣伍 チンゴ ちんだて。軍隊の隊伍。

陣列 チンレツ ちんだて。

陣所 チンショ 軍勢の屯する所。軍陣。陣營。

陣雨 チンリウ ひさむらさめ。

陣具 チンキ 陣中にて用ひる諸般の道具。軍用の器具。

陣法 チンポフ 陣取のしつた。軍勢

を列める法。

陣歿 チンゴク 討死。戦死。

陣痛 チンツウ 産氣を催したる時の腹痛の痛み。

陣屋 チンヤ 軍勢の屯する所。城を築く格式に至らざる小諸侯の居所。徳川時代に郡代の居住にしてその役所とせらるること。

陣陣 チンジン ひとしきり吹きくる風にいふ語。

陣頭 チンツウ 陣立の前。軍陣のさき。いくさば。馬を一に立つ。

陣營 チンエイ 陣屋。軍勢の屯する所。戦士のたむせる所。

陣笠 チンガサ 昔陣中にて用ひし笠。雑兵は薄き鐵又は革などにて作りたるものを着將士は木製にして漆塗のものを着る。

陣貝 チンガイ 陣中にて進退の合圖に吹き鳴らせし法螺貝。「侶。

陣僧 チンソウ 昔陣中にて伴ひし僧。

陣觸 チンシュ 陣中にての布告。

院

院勢 エンセイ 院のいきほひ。

院地 エンチ 軍隊の配備又は戦闘に適したる地。院ごる場所。

院幕 エンマク 院營に張る幕。

院小屋 エンコウヤ 軍隊の宿營せる小屋。院中に立つる小舎。

院太鼓 エンタイコ 院中に軍隊進退の合圖に打ち鳴らせし太鼓。

院笠連 エンガサレン 下賤の人々。多數の雷同者。人の下風に立つる満足し居るものごも。政黨の

院宣 エンセン 上皇のみここのり。

院落 エンラク しぼみおちること。

院號 エンガウ 上皇又は寺の名。

院議 エンギ 帝國議會内の議論。

院參 エンサン 院の御所に參上すること。「たまふ所。

院廳 エンテイ 上皇の政をきかせ

院御所 エンゴ 上皇のまします御所。

院外者 エンガイキヤ 帝國議會の代

家などの稱號に用ふる語。

院內 エンナイ 帝國議會のうち。

院本 エンポン 淨瑠璃本等の書籍。

院主 エンシュ 寺のあるじ。寺院の住職。

院外 エンガイ 帝國議會のそと。

院家 エンゲ 門跡の次に位する貴寺院。

院旨 エンシ 上皇のみここのり。院

院政 エンセイ 上皇の行はせ給ふ政事。「院の宣旨。

院宣 エンセン 上皇のみここのり。

院落 エンラク しぼみおちること。

院號 エンガウ 上皇又は寺の名。

院議 エンギ 帝國議會内の議論。

院參 エンサン 院の御所に參上すること。「たまふ所。

院廳 エンテイ 上皇の政をきかせ

院御所 エンゴ 上皇のまします御所。

院外者 エンガイキヤ 帝國議會の代

阜部 七畫

阜部 七畫

阜部 七畫

議士以外のものといふ義にて或政黨に屬し政治に周旋盡力するもの。

院內總理 シンイワリ 帝國議會の開會中衆議院内に於て自黨に屬する代議士を指揮引率する代議士。

陞

陟

陟升 ショウシヤウ 高きへのぼり行く。功あるをのぼせ罪あるを罰すること。

陟降

陟降 ショウカウ のぼりくだり。昇降のほる。すすむ。

陞任 ショウニン 役目ののぼること。

陸高 ショウカウ 高所へのぼること。陸叙 ショウギョ 上級の官等に叙せらるること。

陸降 ショウカウ のほりくだり。

陸進 ショウシン のぼり進むこと。陸等 ショウトウ 等級ののぼること。

陞

陞下 ショウゲ 天皇・太皇太后・皇后の尊稱も天皇の別名。

陞

陞阪 ケン けはしき阪。

陸

陸 リク ロク。くが。なが。たかし。みち。地表の水

に蔽はれざる所。をどる。(國訓)。

陸上 リクジヤウ をかの上。陸地のうへ。の徒歩。

陸田 リクテン 畑をかた。陸地 リクチ 水に圍まれたる廣大なる土地。なが。くが。

陸生 リクセイ 陸上に生ずること。

陸圍 リクイ 陸地の範圍。

陸棲 リクセイ 陸上に棲むこと。

陸兵 リクヘイ 陸軍の兵卒。

陸相 リクシヤウ 陸軍大臣の異稱。

陸沈 リクシン この世に志を得ざる。おとろふること。墮落。

陸路 リクロ 陸路を行くこと。

陸阜 リクフ 陸上の戦鬪又は防備にあたる軍隊。

陸揚 リクヤウ 船の荷を陸地へ運びあぐる。貨物を水揚げすること。

陸梁 リクリヤウ くるひ走ること。あれ

まはること。跳梁。陸稻 リクダウ 島に植えて作りたる稻。なが。島稻。

陸運 リクウン 貨物などを陸地の便によりて運送すること。陸上の運輸。

陸戦 リクセン 陸地の戦争。陸上の陸戦。なが。つづきてたえまなくひきつらること。

陸離 リクリ いらみだれきらめきて立派なる様をいふ。光彩。陸軟風 リクタンフウ (地) 海岸に於て夜間は陸上よりは海上の方高温なるが故に陸上より海上に吹く微風。

陸半球 リクハンキウ (地) 英國倫敦を極としたる半球。此の半球には陸多きを以てなり。

陸軍省 リクケンシヤウ 陸軍大臣の統轄の下に屬し其の意思を承けて陸軍に關する事務を統轄するところ。

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

陸地測量部 リクチリヤウ 參謀總長の統轄の下に屬し陸地を測量し兵要の地圖及び一般の國用に充つべき地圖を製造修正し其の他量地に關する事務を

て生じたる凹地に水を湛えて成りたる湖。

陥落地震 カナラヂシ (地) 温泉などの爲に地下の物質が溶解せられて空洞を生じ上部の陥落するによりて生ずる地震。

陶 さまにいふ語。すゑやき。すゑもの。造ると。化する。よろこぶ。うれふ。のぶ。和樂の。

陶土 タウド 陶器を造るに用ゐる土。やきものつち。

陶工 タウコウ 陶器を造る職人。やきものし。又陶人といふ。

陶化 タウカ 焼きなほすと。次第に善に導くこと。「まじご。」

陶窯 タウキョウ 陶器を焼くためのかまど。やきものを作るさし物をつくると。人の品性と學術を磨くこと。品性をす。

陶泥 タウヂ 陶器製造用の土。

陶陶 タウタウ 樂む貌。和樂の貌。

陶然 タウゼン 酒に酔ひて何となく樂しきさまにいふ語。うつとり

陶製 タウセイ やきもの作り。やきものにて作りたるもの。陶器製の鉢。

陶泓 タウコウ 硯の異名。

陶盤 タウバン やきものの皿。

陶鑊 タウコウ 陶器製のゆわかし。

陶器 タウキ 焼きもの。すゑもの。せともの。

陶磁器 タウジキ やきもの。せともありて其用なきをいふ。外貌は然るべく備はれるも何等のは

陶犬瓦鶏 タウケンワケイ 其形のみたるなき人を罵りていふ語。

陶陶遂遂 タウタウズイズイ 親を思ふ心の内外に發するをいふ。

陪 さい。ハイ。ペ。重なる。士。くはふ。みつ。ます。かさね。たすく。したがふ。さも

なふ。ついで。つきした

がふ。はべる。さも。そへ。たすけ。朝す。またげ

らい。「隨行」

陪行 バイカウ おともして行くこと。

陪臣 バイジン 武家の家臣。徳川時代には諸侯の家來の稱。またも

陪泣 バイキウ もらひなきすること。

陪官 バイカン 立會ひの官吏。はんべりしたがふ官吏。

陪助 バイジウ 手助けすること。

陪食 バイシヨク 貴人のそばにはんべりて其の食事を相伴すること。

陪席 バイセキ 貴人の席の傍につら陪從してあひのりすること。

陪觀 バイカン 貴人などにお供して見ること。はんべり見ると。

陪星 バイセイ (天) 大いなる星に伴ひて見ゆる小き星。

陪堂 バイドウ 禪語にて飯米のこと。陪送 バイソウ 貴人に從ひて見送りすること。

陪話 バイワ いかひわけ。ことわり。陪從 バイジウ つき従ふこと。さもする。隨行。從者。

陪膳 バイセン 天子に供御を奉る時さむらふ人。「る」と。

陪審 バイシン 裁判の立ち合ひをする。陪隸 バイレイ しもべ。さもびと。從者。けらい。又陪僚といふ。

陪審官 バイシンカン 裁判に立ち合ひする判事。陪席判事。ひする判事。陪席判事。

陪席判事 バイセキハンジ 地方裁判所以上の合議裁判廷に於て裁判長以外の出席判事をいふ。

陪席判事 バイセキハンジ 地方裁判所以上の合議裁判廷に於て裁判長以外の出席判事をいふ。

〔陵〕

リヨウ。大いなる阜。をか。つか。みささぎ。しのぐ。おそる。はす。をかす。にらぐ。けはし。次第に低くなること。次第に衰ふること。かろんす。

陵土 リヨウド みささぎのつち。陵邱 リヨウコウ をか。小丘。

陵阜 リヨウフ をか。小丘。

陵夷 リヨウイ 道德風俗等の次第に衰へたること。類廢

陵虐 リヨウキョク むりをばたらくことしひたぐること。

陵墓 リヨウボ 天皇及び皇族方の御墓。みささぎ。

陵侮 リヨウブ しのぎあなざることを。陵罵 リヨウバ しのぎのゝしること。

陵犯 リヨウハン しのぎをかすこと。陵駕 リヨウカ 上に出づること。しのぐ。

陵辱 リヨウジツク しのぎはづかしむに衰へ行くこと。「ささぎ。

陵寝 リヨウニン みかごの墓地。みささぎ。しのぎすれあふこと。

陵運 リヨウウン おとろふること。次第に衰へ行くこと。

陵替 リヨウタイ 上の威嚴衰へ下のもの之を凌がんとする。朝威の頽廢せると。

陵雲志 リヨウウンノココロシ 世外に超脱すること。雲を凌ぐが如く顯達を得んとする志。

陣 ヒ。ビ。ハイ。たすく。ます。城上の女牆。ひめがき。ついで。

陣 チン。陣に同じ。つらぬ。ならぶ。しく。のおはる。ふるし。ひさし。おほし。つら。なみ。みち。

陳人 チンジン 用なき人。

陳上 チンジヤウ 申しあげること。具申陳米 チンマイ 貯へふるしたる米。ひれまい。

陳列 チンレツ つられならべること。又陳布といふ。見本をす。

陳述 チンジュツ 口にて申述ぶること。委細をに及ぶ。

陳叙 チンシヨ 申述ぶること。のべつ

陳叙 チンシヨ 申述ぶること。のべつ

陳叙 チンシヨ 申述ぶること。のべつ

陳師 チンシ ありさまをのぶる。兵をそるへると。

阜部 八畫

陳情 チンヂウ 思ひをのべると。心事を訴ふる事。情實を陳述する事。「さげ。古酒。」

陳酒 チンシュ 酒を供へると。ひれ

陳套 チンタウ ふるきさきと。ふるき範圍。「聞くに堪えず。」

陳跡 チンセキ ふるきあさ。むかし「語」

陳陳 チンチン ふるきさき事の形容

陳供 チンキョウ せなへささぐる事。

陳辯 チンベン のべ説く事。申し述べると。「説」

陳腐 チンブ ふるきさき事。「説」

陳説 チンセツ いひのべると。

陳篇 チンペン ふるきさきもの。

陳悉 チンシツ のべつく事。

陳言 チンゲン ありふれたること

陳請 チンシヨウ 情實を述べて請ひ願ふ事。「と。あやまる事」

陳謝 チンシェ 言ひわけしてわぶる

陳述書 チンシュツシヨ 言葉にのべし

阜部 八畫

次第を其のままましろしたるかきつけ。

陳情書 チンヂウシヨ 陳情の文書。

陳列場 チンレイジョウ 物品の陳列してある場所。

陳倉胡桃 チンサウカク ひめぐるみ。おたふくぐるみ。

睡邊 スイヘン 國のはて。くにざか

睡邊 スイヘン 國のはて。くにざか

睡邊 スイヘン 國のはて。くにざか

睡邊 スイヘン 國のはて。くにざか

睡邊 スイヘン 國のはて。くにざか

阜部 八畫

陰犯 インパン かげの悪事。

陰谷 インコク 山あひの谷。

陰私 インシ ないしよこさ。

陰雨 インウ かし曇りて降る雨。ながあめ。「濃々。」

陰門 インモン 女の生殖器。女のか

陰府 インフ よみぢ。めいど。地獄。兵陣又は謀計の書。

陰林 インリン 山北の林。日陰の林。

陰事 インジ かくれたる物事。ひめ

陰相 インサウ 陰莖の形に造りたる

陰莖 インキョウ 男の生殖器。男のか

陰症 インシヤウ 病熱の體内にこも

陰鬼 インキ まうじや。「所」

陰部 インブ 男女の生殖器。かくし

陰秘 インヒ かくれたる秘密。

陰氣 インキ 淨き立たざると。氣の塞ぐと。物に蔽はれてはれ

陰峻 インケン 陰にて他人を教唆す

阜部 八畫

陰晦 インクワイ 曇りて暗き事。

陰符 インフ まじなひ札。まよけの守札。兵陣又は謀計の書。

陰陰 インイン うす暗き状。そらくもりて物淋しき状にいふ語。

陰陽 インヤウ かげとひなたと。女と男と。暗きと明かなると。電氣又は磁氣の消極と積極と。北と南と。其他萬物の相對したるもの。「雲。天を蔽ふ。」

陰雲 インウン 空を蔽へる雲。暗き

陰間 インカン よみぢ。めいど。

陰渠 インキョ ふせどひ。田面の悪水を排去する爲に地下に設くる渠。

陰畫 イングワ 寫眞の種版の畫像。

陰極 インキョク (理)電池。電解器。真空管などに於て電池の陰極とつなきたる極端。

陰姦 インカン うはべにあらはれずして内心よこしまなる事。

陰晴 インセイ くもりとばれと。

阜部 八畫

陰核 インカク きんたま。翠丸。

陰道 インダウ 山北の道路。

陰匿 インエキ よこしまの心。かくす。秘密にする事。

陰惡 インアク 人の知らぬ悪事。あらはれざる悪事。

陰德 イントク おもてだたぬ善行。人目に立たぬ様に行ひたる善事。恩徳を施したれど世に知れざる事。

陰影 インエイ かげ。うつりかけ。

陰謀 インボウ ひそかに計る計策。叛逆・内亂又は他國を略取せんとする謀略。(法)二人以上互に致結合したる状態。

陰曆 インレキ 太陰曆の畧。

陰險 インケン 陰密にして油斷のな

陰森 インシン ながあめ。さみだれ。

陰霧 インム 深き霧。

阜部 八畫

陰諱 インキ 隠していむものこと。

陰濕 インシツ かげのしめり。

陰竄 インゼン にげかくれる事。

陰囊 インナウ 陰莖の下に垂るる囊状のもの。きんたま。

陰鬱 インウツ はればれしくなきと氣の塞ぐと。樹木の蔽ひ茂ると。

陰教 インキョウ 婦女のをしへ。女訓。

陰電氣 インデンキ (理)樹脂を毛皮にて摩擦したるさき樹脂にあ

陰陽師 インヤウシ 干支などに配して事の吉凶を占ふとを掌るもの。

陰陽寮 インヤウリョウ 古中務省に屬し陰陽の事を司りし役所。

陰陽家 インヤウカ 干支などに配して事の吉凶を占ふとを業とするもの。

陰陽道 インヤウダウ 陰陽寮の學科の

陰辨慶 インベンキョウ 人の居らぬ場合

阜部 九畫

にのみ威張るもの。

陰德陽報イントクヤウハク 陰かに徳を修むる者は人之を知らずと雖遂に天佑を得るの意なり。

陰極放射線インキョクハクサイセン (理) 真空の度の高さ真空管に於て放電するとき管の陰極より發出する放射線。

階カハ スウ。シウ。ス。

階下カハカ 二階の下。

階上カハカ 二階の上。

階位カハカ 官職の等級。位のだんカハカ。きさはし。だんばし。

階序カハカ だんだんの位。

階等カハカ きさはしの上へ。

階前カハカ のぼりだん。しなく。

階級カハカ 人民の。

階前萬里カハカマンリ 下民の状態が天子などの御耳に少しも聞えざることの形容。

階級制度カハカキド 國民の身分に等級を設くる制度。

階狀斷層カハカダンソウ (地) 斷層の順次に階級の狀を爲すこと。

阜部 九畫

はしご。あみがかり。進みゆくべき物事の初歩。◎學問の。

階下カハカ 二階の下。

階上カハカ 二階の上。

階位カハカ 官職の等級。位のだんカハカ。きさはし。だんばし。

階序カハカ だんだんの位。

階等カハカ きさはしの上へ。

階前カハカ のぼりだん。しなく。

階級カハカ 人民の。

階前萬里カハカマンリ 下民の状態が天子などの御耳に少しも聞えざることの形容。

階級制度カハカキド 國民の身分に等級を設くる制度。

階狀斷層カハカダンソウ (地) 斷層の順次に階級の狀を爲すこと。

阜部 九畫

タ。ズ井。にく。さく。く。だる。おつる。やぶる。うづむ。なごたる。くにの名。

隊タイ ス井。テ。ツ井。おつる。うしなふ。たむる。むらがる。さかしきみちつかみち。若干の兵士を以て編制せられたる一組。數多のものの、整列。

隊後タイゴ 其の隊のしるし旗。

隊附タイブツ 軍隊の勤務に服する兵隊などのくみ。

隊伍タイブ 兵隊などの行列。つらなり。◎一整々。

隊長タイチヤウ 一隊の長官。親密又は冷笑の意を含みたる對稱の代名詞。

隊中タイチュウ 軍隊のなか。

隊務タイム 軍隊の事務。

阜部 九畫

ケツ。ケチ。のり。あやうし。あし。

限リミット エ。木の曲りて入りこみたるところ。たかし。くま。弓の曲れるところ。

隈澳ライオウ みきは。ライオウ。リユ。たかし。さかんなり。おほいなり。

隆リウド し。おほし。なかなだか。ゆたか。たつこし。あつし。おほし。なかなだか。

隆準リウドン 高さ鼻。たかばな。

隆崇リウドウ てあつくあがめること。

隆替リウドキ さかゆると衰ふること。

隆運リウドン 盛んなる運命。運よくして盛んなること。

隆車リウドシャ たかく大いなる車。

隆鼻リウドビ たかきばな。

隆盛リウドセイ さかりなること。ときめくこと。又隆興といふ。◎商業

隆冬リウドウトウ 陰曆十二月の異稱。

隆起リウドキ もちあがりおこること。

隆隆リウドリウド 勢の盛大なるさまにいふ語。

隆寵リウドウ ふかくいつくしむこと。

隆禮リウドレイ てあつき禮儀。

隆振リウドシ さかんなること。

隆起島リウドキジマ (地) 地盤の變動により其の一部の特に隆起して成りたる島。

隆達節リウドダツセツ 俗謡の名、泉州堺の僧隆達の創めて作りたるもの。

隅クモ ゴ。かど。すみ。ほざり。かたはら。

隅曲クモカク すみ。部屋のすみ。

隅角クモカク かが。すみ。「目。

隅稜クモリョウ ならめる眼。角立てる。

隅坐クモザ 隅の方に坐すること。

阜部 九畫

隄防テイポウ がつみ。つみ。つみ。大小のつみ。又隄障。隄梁。つみ。又隄障。隄塘といふ。

隄障テイショウ つみ。又隄障。隄塘といふ。

隄梁テイリョウ つみ。又隄障。隄塘といふ。

陰イン チン。陰に同じ。

陜カブ 同。カブ。カブ。

陜カブ 同。カブ。カブ。

陽ヤウ チヤウ。ひ。ひ。ひ。な。やまのみなみ。みづのきた。ならぶ。きんし。あきらか。あたたか。あ

陽九ヤウク わざはひ。さいなん。陰鬼の對語。

陽人ヤウジン 此世に生きて居る人

陽日ヤウジツ 日輪。太陽。

阜部 九畫

陽天 ヤウテン 東南のそら。

陽月 ヤウゲツ 陽律にあたる月。陰曆十月の異稱。

陽狂 ヤウキヤウ にせきちがひ。

陽卉 ヤウキ 春夏の間に生ひ茂る草木。①春色を呈す。

陽中 ヤウチュウ 陰曆二月の異稱。

陽狂 ヤウキヤウ にせきちがひ。

陽邱 ヤウキウ たかき岡。日あたり

陽炎 ヤウエン かげろふ、春の日子らきらと霞の如くたちて見ゆるもの。

陽明 ヤウメイ あらばに明かなると

陽物 ヤウブツ 男子のかくしどころ

陽春 ヤウシュン はる。春季。陰曆正月の異稱。

陽氣 ヤウキ いさましくにぎはしき。心の樂しき。陽のきざし。春の時季。發作する氣。氣候

陽晝 ヤウグワ 寫真にて實景と明暗

を同じうする畫像の稱。
陽眠 ヤウミン そらねいり。たぬき

陽候 ヤウコウ おほなみ。大波。

陽朔 ヤウサツ 十月のついたち。

陽鳥 ヤウチウ 雁の異稱。

陽陽 ヤウヤウ 心配のなきさま又は水の流るるさまにいふ語。

陽親 ヤウシン うはへの親しみ。

陽極 ヤウキョク (理) 電池又は發電機より電流の出づる口。電解器

又はガイスレル管等へ電流の入口。

陽道 ヤウダウ 陽の道。男子の生殖

陽瓦 ヤウカ 陽の道。男子の生殖

陽德 ヤウタク 地の産物を以て富を致すをいふ。世上に知らるる恩徳。

陽曆 ヤウリキ 太陽曆の略稱。

陽電氣 ヤウデンキ (理) 硝子棒を絹布にて摩擦したるさき其硝子棒に生ずるが如き種類の電氣。

陽明學 ヤウメイガク 明の王陽明の唱へたる儒學、心外に事なく心外に理なしと立て、心の靈明にして感應の誤りなき所を名けて良知といひ、良知は天地に通じ一身に主たり、吾人の本來具有すると聖人に異らずと雖も、私慾の爲に蔽はれて明かならずと説き、其の之を去ることを、皆として仁義を論じ、修養を講ずるもの。

陽春白雪 ヤウシュンハクシヤウ 詩調の高きをいふ。

隘 アイ。エ。ア。ク。ヤク。いやし。せまし。けはし。ふさがる。きびし。

隘卷 アイカウ せまきちまた。

隘舍 アイシャ せまきこや。

隗 クワイ。キ。たかし。

隕

隕 井ン。チン。ウン。おつるうしなふ。あまれし。やぶる。ひさし。

隕蹟 隕石の跡。やぶる。ひさし。

隕落 隕石が落ちる。おつる。ひさし。

隕涙 隕石の涙。おつる。ひさし。

又隕涕といふ。

隕洒 隕石はなしたるをおさすと。おつる。ひさし。

隕鐵 隕石より得たる鐵。おつる。ひさし。

隕石 隕石。おつる。ひさし。

如きもの、俗に流星といふ。成分は鐵にして多少のニッケルを含む。

隔日 カクジツ 一日おき。一日宛間をおくこと。

隔月 カクゲツ 一月おき。一ヶ月宛間をおくこと。

隔心 カクシン へだて心。うちとけぬ心。

隔夕 カクセキ ひとばんおき。一夜おき。一日おきのあけがた

隔旦 カクタン ひとばんおき。一夜おき。一日おきのあけがた

隔地 カクチ 隔りたる地方。遠き所

隔阻 カクソ へだてさまたげること。

隔年 カクネン 一年おき。一ヶ年宛間をおくこと。又隔歳といふ。

隔夜 カクヤ ひとばんおき。一夜つ

隔朝 カクチャウ 一日おきのあき。隔

隔曉 カクケウ 一日おきのあけがた

隔世 カクセ 世代を異にする。

隔週 カクシュウ 一週間おき。一週間宛間をおくこと。①交代。

隔葉 カクエフ 一枚おき。

隔遮 カクシャ へだてさまたげること

隔離 カクリ へだて遠ざかること。傳染患者を遠ざけ移すこと。①傳染病地をいす。

隔遠 カクエン へだたりて距離の遠

隔離 カクリ へだてのかきね。り。

隔壁 カクヘキ へだてのかべ。しき

隔意 カクイ へだて心。こころおき心おかれてうちとけぬこと。①

隔交情 カクカウ へだて心。こころおき心おかれてうちとけぬこと。①

隰

カウ。ゴウ。敷に作る。地の名。タウ。ラウ。しま。

隰

隔番 カクバン 一つおきに甲乙かはるゝ交代すること。かほりばん。交番。
隔絶 カクゼツ 遠く隔たると。かけはなること。①山川
隔離室 カクリシツ 傳染病患者を遠ざけ移す室。
隔靴搔痒 カククサウヤウ 靴をへだててかゆきを搔くさいふ儀にて物事の思ふ様にならぬもどかしき心もち。稍や中りて少しく至らざる所ある意に用ふ。

阜部 十一畫

障

障子 シヤウ。サウ。へだつ。さかひ。そこ。おほふ。やまのいたたき。とりで。障子 シヤウ。室内のへだてに立つるもの。ふすま。障防 シヤウ。つゝみのしきり。障害 シヤウ。又障碍に作る。さまたげ。じやま。さはり。障保 シヤウ。ささへ。障泥 シヤウ。あふり。障眼 シヤウ。外見は異なる處なくしてひとみ動かすもの。見えぬ眼病。そこひ。障塞 シヤウ。ささへ。ふさぎ。障界 シヤウ。しきり。障阻 シヤウ。さまたげとごむる。ささへ。障壁 シヤウ。しきりのかべ。障隔 シヤウ。ささへ。ふせぎ。障蔽 シヤウ。ささへ。しきり。障翳 シヤウ。顔などに差しかさ

阜部 十一畫

障子越

障子越 シヤウ。障子の此方より彼方に打越して事を爲すこと。障害物 シヤウ。障害となるもの。じやまもの。障害物競争 シヤウ。或地點に違する間に障害物を置き之を飛び越して早く其地點に至らんとする多人数の競争をいふ。際次 サシ。なり。さき。そのきは。際涯 サシ。かぎり。はて。一望なし。際會 サシ。たまたまその折に際限 サシ。かぎり。はて。際物 サシ。入用のまきはにのみ賣る品物、正月の羽子板、三月の雛人形の類をいふ。

阜部 十二畫以上

際

際物師 キハシ。際物のみを作り又は賣る商人。隙駒 ゲキ。つきひ。光陰。歳月の早く経過するに譬へていふ。隙意 ゲキ。仲の善からぬ心持ち。隙孔 ゲキ。すきまのあな。隙間 ゲキ。すきま。又隙空といふ。十一畫以上 隙然 タシ。むりでなきさま又は墮落 タシ。くづれおつる。

阜部 十二畫以上

險

險舍 タイヤ。こぼれた小屋。險廢 タイハイ。くづれたる。險家 タイカ。家をくづすと。身代限りする。險爛 タイラン。くづれる。こぼれ。險壞 タイワイ。くづれ壊れる。險思 タイシ。思案に暮る。險墻 タイキウ。くづれたる垣根。又險垣 といふ。險岸 タイカン。くづれたるきし。險雲 タイウン。くづれかゝりたるやうなる雲。階屋 タイカ。くづれや。隣 リン。となり。俗の鄰字。鄰の條。(邑の部)を見よケン。サン。ガン。たかしあやふし。よこしま。あしし。けはし。きすつく。なやむ。むづかし。恐るべき。顔面にすこみある。險山 ケン。けはしき山。

阜部 十二畫以上

險行

險行 ケン。きほどき行ひ危き道を行ふ。險乎 ケン。けはしきさまにいふ。險扞 ケン。けはしきふせぎ。險地 ケン。けはしき土地。險折 ケン。けはしき折れまがれ。險危 ケン。けはしき危ふき。險譎 ケン。陰險にしていつはり多き。險滑 ケン。けはしきすべ。險阻 ケン。けはしきあやふき。險相 ケン。すくなくあやふき。人相のすこみを帯びたるもの。險呑 ケン。危き。こぼれ。險計 ケン。きほどき計策。險要 ケン。地勢のけはしくして要害よきところ。險峯 ケン。けはしきみね。險崖 ケン。けはしきがけ。險易 ケン。むづかしきとやすきと。けはしきとやすかなると

阜部 十二畫以上

隨

隨語 ケン。むづかしきことば。最しするごき語。隨險 ケン。道路けはしくしてわるき。性質れちけて恐るべき。險道 ケン。けはしきみち。險諛 ケン。心に機巧多くして辯佞なるをいふ。險策 ケン。きほどきばかりこと父その所。險難 ケン。けはしくあやふき。險韻 ケン。詩作にむづかしき韻。險巖 ケン。けはしきいば。隨一 ケン。そのひとつ。多くの物事の中に第一なるもの。隨士 ケン。供のつはもの。とも人隨分 ケン。身分に従ひて。分相

卓部 十二畫以上

應に。いたく。ばなばた。
隨行 ズキカ 供となりてしたがひゆくも。供をするも。
隨兵 ズキヘ 供のつばもの。騎馬にて供に従ふ武士。
隨性 ズキヤウ 生れつきの運命。
隨座 ズキヤ まきぞへにあふも。
隨陪 ズキバイ したがひはんべると
隨處 ズキコ いたるところ。
隨身 ズキシン 隨ひ行く身。とも人。古攝政關白などの護衛として朝廷より賜はりし供人。
隨伴 ズキバン ともすること。つれたつこ。
隨時 ズキジ いつでも。をりをり。
隨從 ズキジュウ 貴人のあとにつき従ふも。ともなすること。隨行。
隨意 ズキイ 心のままなるも。かまかせ。束縛なきも。
隨順 ズキジュン すなほに順ふも。
隨感 ズキカン 心に感ずるまも。隨筆。

卓部 十二畫以上

隨筆 ズキヒツ 思ひ出したるまもを何くれとなく記したる文書。
隨喜 ズキキ 喜びて信仰するも。歸依してありがたがるも。
隨腦 ズキノウ 歌をかき集めたるもの。うちぎき。歌集。
隨身門 ズキシンモン 神社の表門。左右に兵仗を帯したる隨身の像を置く。
隨行員 ズキカクイン 隨行する人。お
隨德寺 ズキタクジ かけおち。今まで從事せるとをすててそしらぬ顔すること。一をきめ込む。
隨喜涙 ズキキナミダ 佛の道の辱さのあまりにいづる涙。
隨意科 ズキイカ 必修の學科にあらずして其の修業は學生の隨意なるもの。
隨意筋 ズキイキン (生)骨に着き關節に跨る横紋條の筋肉にして意志の神經に反射すると同時に運動し得。不隨意筋の對。

卓部 十二畫以上

隨意契約 ズキイケイギョウ 特別の規定なく當局者の隨意になし得る契約。
隨意運動 ズキイウドウ 思ひのまま隨感隨筆 ズキカンズキヒツ 心に感じたるまもを筆記したるもの。
隨在隨處 ズキザイズキコ 到るところどこにても。いきあたりばつたりに。
隧 ズキ ス井。ツイ。つかみち。ほかみち。めぐる。おそみち。地を穿ちたる道路の稱。
隧渠 ズキキョウ ふせごひ。
隧道 ズキドウ トンネル。山腹又は河底などを掘りぬきて瀧車又は電車などの通路とする所。
隧路 ズキロ あな。みち。
隠 イン オン。かふる。やすんず。うれふ。はかる。おほふ。きつく。すこし。わたくし。いにしへ。よるひくきかき。いたむ。

卓部 十二畫以上

隱士 インシ かくれびと。世をのがれたる人。又隱者といふ。
隱田 インデン 租税などを納めずに密かに耕作する田。
隱伏 インボク かくれひをむるも。
隱私 インシ ひそか。ないしよ。
隱宅 インタク 隱居したるもの。住居。隱れ家。隱居家。別荘。
隱居 インキョ 世事にたづさはらずして閑居すること。(法)戸主が自己の自由意思により一定の條件に従ひて戸主たる地位より退くも。「を久ふす」。
隱忍 インニン たへ忍ぶも。一之
隱所 インジョ 見えぬところ。かは
隱谷 インコウ 山間の土地。「や。
隱沒 インボツ 隠れてなくなるも。
隱事 インジ かくしごと。密事。
隱約 インヤク いたむも。かすかにして知り難きも。世にあらはれずして困窮すること。
隱見 インケン 隠れたり見えたり。

卓部 十二畫以上

隱疾 インシツ うはべに見えぬ病。
隱匿 インタク かくすも。かくれるも。かくして秘密にすること。あらはれざる罪惡。「所」。
隱月 インゲツ 琵琶の撥をなさむる
隱退 インタイ 仕官をやめて退くと世を棄つること。
隱秘 インヒ ひみつ。かくしごと。故意を以て人に知らしめざるに非るも未だ人の知る所とならざるも。「と」。
隱淪 インリン 隠れて世にしづむる
隱密 インミツ 人に知れぬやうに事をすること。
隱然 インゼン それとなしに。かけ
隱逸 インイツ 俗界をのがるも。
隱滅 インメツ 隠れて見えなくなるも。(天)一の天體が他の天體に掩はれて全く見えざるも。
隱微 インイ かすかにかくれて見

卓部 十二畫以上

隱遁 インテン 世をさけて遁るも
隱語 インゴ かくしことば。暗號。
隱劍 インケン わきざし。「なぞ」。
隱遜 インソン 世をさけのがるも
隱蔽 インペイ おほひかくすも。
隱庇 インヒ 恩惠を蒙むるも。おか
隱潜 インセン かくれひをむるも。
隱竄 インセン かくれにげるも。
隱避 インバイ さけかくれるも。
隱隱 インイン 盛んなる貌。うれひいたむ貌。
隱聽 インテイ 立ぎきすること。竊み
隱藏 インサウ かくれひをむるも。かくすも。かくしをさむるも。
隱險 インケン うはべは柔相にして心中のねぢけたるも。
隱顯 インケン 隠るもと顯はるもと
隱君子 インケンシ 世をさけたる有徳の人。菊の異名。

卑部 十二畫以上

隸部

隸部 二一三畫

隱逸花 インイクラ 菊の異名。

隱元豆 インゲンマメ (植) 豆科に属する栽培植物。總狀花序を有し花は白色若くは帯紫色にして種子及び嫩莢は食用に供せらる。

隱現砲 インゲンハウ 低位置にて裝填し發射の際に砲身を高位置にのぼして障壁の上に現はし發射終れば再び低位置に降下せしむる装置の砲架を有する大砲。

隱現砲臺 インゲンハウダイ 外面より見えざる機築造し反射鏡の仕掛にて敵の軍艦を知りて發砲する砲臺。

隱花植物 インワシヨクワ (植) 羊齒類・菌類・藻類・バクテリア等の總稱にして雌雄兩蕊を有する花なく概ね微細なる子實の如きものを生じて蕃殖す。

齊 セイ。サイ。のぼる。のぼす。たちのぼるき。にじ

隰

隳

隳

隳

隳

隳

隳

隳

隳

隳

隸部

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸部 二一三畫

隸部 四畫

隸部 四畫

隸人 ハイ ト 古往毎に薩摩・大隅より來りて京都禁中の門外を守り又は行幸の先驅を爲し大儀の日は犬吠なごせし武士。薩摩武士。

隸人司 ハイ ト シ 古兵部省に屬し隸人の事を司りし所。

隸 セキ。シヤク。かたわれ。かたがた。ひとつ。

隸手 セキ シ ユ 片手。

隸腕 セキ シ ユ 片腕。

隸眼 セキ シ ユ 片眼。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸脚 セキ シ ユ 片脚。

隸部

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸部

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

隸

佳部 四畫

あつめたる金。『と。』
集議 シキ多勢集りて相談する
集配 シキ物を集めて又諸方に配る。①郵便—人。
集會 シキ寄り集まると。よりあひ。あつまり
集銳 シキ物の能きものみを集めると。兵卒などの強きもののみを選び集めると。
集輯 シキよせあつめると。
集散 シキ貨物などの集まりて又諸方に散ると。賑かなる土地をいふ。①貨物の—地。
集約 シキあつめつむむると。よせてしげくすると。
集英 シキ英才をあつむむると。すぐれたるものを集むると。あつまりたる人才。
集塊 シキ多くのもの、相集りて一つさなりたるかたまり。
集權 シキ一手に權力を寄せ集めると。地方政治機關が全く中

佳部 四畫

央政治機關の意思を承けて政務を施行し獨立の行動を爲し得ると。①中央—
集登 シキ多く一所にあつまりたるはたる。登を集むることにて勉學の意。
集攢 シキ集めると。集まると。
集聚 シキ寄せ集めると。あつまる。①材料を—す。
集群 シキ多勢集まると。むれあつまる。むれあつまる。
集團 シキ一種の團體。あつまり。①敵の—地。
集治監 シキ徒刑・流刑及舊法の終身懲役に處せられたる者を拘禁する監獄。
集合體 シキ個々の集合によりて成り立ちたる一體。
集合物 シキ個々のもの集りて成りたる一物。數多の個數を一名稱の下に一括したるもの。
集金人 シキ金をよせあつむ

佳部 四畫

る任を帯べる人。
集配人 シキ郵便物などを郵便函より集め來り又は名宛の人へ届くることをつとむる人。
集塊岩 シキ(地)火山灰と其の他の大小の焼石と相集りて成りたる岩。
集議院 シキ明治の初年に設けられたる官廳。公議所の職務權限を繼續せしもの。
集團偵察 シキ多人數が一團を爲して行ふ偵察。
集約農業 シキ狭き土地に多大の資本及び勢力を加へて丁寧に耕作に従事する農業。が。ケ。ア。けだかし。ただし。のり。もとより。しとやか。みやびやか。さかづき。そるふ。ひとし。つれ。やまがらす。たしき音樂。たしき言語。おくゆかしき。簡

【雅】

佳部 四畫

略にして趣味多きと。
雅人 シキ風雅なる人。
雅俗 シキ風流なると俗なること。①折衷。
雅蒜 シキ水仙の異名。
雅常 シキつね。ふだん。
雅趣 シキ雅致のある趣。風雅なるおもむき。①—擲すべし。
雅兄 シキ雅量ある君。男子を親み尊びて稱する語。
雅馴 シキしとやか。みやびやかにしておだやかなること。
雅集 シキ風流な寄合。
雅會 シキ詩歌・俳句・生花等の會をいふ。
雅言 シキ上品にて正しき言葉。日本中古の言葉をいふ。みやびことば。正しき言葉。又雅語といふ。①—集覽。
雅客 シキ風流なる人。水仙花の異稱。①—の外に附くる名。
雅號 シキ文人墨客などが實名

佳部 四畫

るはしきと。『ると。』
雅麗 シキみやびやかにしてうるはしきと。
雅健 シキ上品にして健やかなる。
雅歌 シキみやびうた。
雅丈 シキ人を呼ぶ敬稱。
雅懷 シキ風流な考へ。思想の風流なること。①—を述ぶ。
雅訓 シキ雅言に因ての讀方。
雅頌 シキほめことば。ほめうた。
雅筵 シキ風雅なる集會の席をいふ。
雅宴 シキ風流の宴會。
雅遊 シキみやびたるあそび。詩歌の會又は山水の遊びなどの如く風雅なる遊び。『あること。』
雅興 シキ風流にして面白味の如く風雅にして美しきこと。
雅美 シキ高尚にして美しきこと。
雅談 シキ風雅の話。
雅樂 シキ昔支那より渡來せし音樂。正しき音樂。みだらならざる音樂。
雅致 シキ風致あること。みやびや

佳部 四畫

かなると。風流なるさま。①—風韻。
雅容 シキ人柄な顔かたち。
雅量 シキ心の廣さ。總べて小さきことに頓着せぬこと。むれのうちのゆたかなること。
雅樂寮 シキ古治部省に屬し舞樂の事をつかさどりし官廳。ユウ。ウ。すぐる。ひいづる。たけし。な。し。をんごり。をす。さかんなり。
雄心 シキ心をしき心。たけしき心。①—勃々。
雄大 シキ大きく立派なること。
雄文 シキ達者に書きたる文章
雄雄 シキををしきさま。男らしきさま。いさましきさまなどいふ語。
雄黃 シキ(鑛)天然に産する砒素の硫化物。黄色を呈し顔料に用ひらる。『計畫。』
雄圖 シキ男らしき企て。大なる